

授 業 計 画

平成 27 年度

Syllabus 2015

短期大学部 保育科第一部

保育科第一部

兵庫大学短期大学部の教育

兵庫大学短期大学部の教育は、聖徳太子の「十七条憲法」に示された「和」の精神に基づいています。「和」の精神が含む「感謝・寛容・互譲」の心を持つとともに、自ら学び、自ら考える力を身につけ、共生社会の形成に主体的に貢献できる人間を育てます。

兵庫大学短期大学部の3つの方針（ポリシー）について



アドミッションポリシー (AP)

入学者受け入れ方

兵庫大学短期大学部では、本学のディプロマポリシーを理解する、次の人を学生として受け入れます。

1. 自ら学ぼうとする意欲のある人
2. 自己を見つめ、自己を振り返る努力ができる人
3. 多様な考えを受け入れ理解しようとする人

カリキュラムポリシー (CP)

教育課程編成方針

兵庫大学短期大学部では、ディプロマポリシーに示した「3つの力」を学生が身につけられるよう、次の教育プログラムを用意して、カリキュラムを編成します。

1. 短期大学において学ぶための基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける教育プログラム
2. 実践的専門家になるために必要な幅広い教養や十分な専門的知識・技術を習得し、また、それらを活用する力を身につける教育プログラム
3. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続する力を身につける教育プログラム

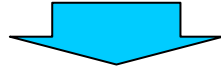
ディプロマポリシー (DP)

学位授与方針

兵庫大学短期大学部では、学生が「短期大学士」の学位を取得するにあたって、卒業時に次の力を備えていることを重視します。

1. 自己を認識し、物事に進んで取り組む力
2. まわりに働きかけ、共に行動する力
3. 学んだ知識や技術を、生涯にわたって活用できる力

兵庫大学短期大学部 建学の精神・教育理念

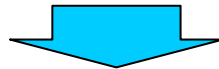


兵庫大学短期大学部

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)



学 科

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

みなさんは、

APに基づいて入学し、

CPに沿って学び、

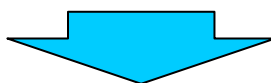
DPに定められた能力を身につけて卒業します。

保育科第一部・第三部ポリシー

アドミッション ポリシー

・保育科第一部、保育科第三部では、本学科のディプロマポリシーを理解する、次の人を学生として受け入れます。

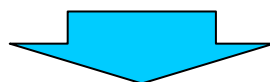
1. 保育・福祉に強い関心を持ち、自ら課題を見つけ積極的に学ぼうとする意欲のある人
2. 豊かな人間性を持った質の高い保育者になるために、主体的に自己成長を図ろうとする人
3. 多様な考えを理解しようとする柔軟性を持ち、保育者になるための努力を継続できる意欲のある人



カリキュラム ポリシー

・保育科第一部、保育科第三部では、ディプロマポリシーに示した「3つの力」を学生が身につけられるよう、次の教育プログラムを用意して、カリキュラムを編成します。

1. 短期大学において学ぶための基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける教育プログラム
2. 保育者になるために必要な幅広い教養や十分な専門的知識・技術を習得し、また、それらを活用する力を身につける教育プログラム
3. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続する力を身につける教育プログラム



ディプロマ ポリシー

・保育科第一部、保育科第三部では、学生が「短期大学士（保育）」の学位を取得するにあたって、卒業時に次の力を備えていることを重視します。

1. 保育者としての使命感を持ち、保育をめぐる諸課題を自ら解決していこうとする力
2. 他の保育者と連携しながら、子ども・保護者・利用者に適切な支援を行う力
3. 保育の専門的知識・技術を持つとともに、卒業後も、社会状況の変化に対応しながら、保育者としての専門性をさらに高めていく力

「カリキュラムマップ」には

- ・「ディプロマポリシーに基づいて身につけるべき能力」を具体化したものが上部に記載されています。
- ・各科目において、「特に重要」及び「重要」と思われる能力には「◎」や「○」が記載されます。

保育科カリキュラムマップ

		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○								
		保育科ディプロマポリシー								
授業科目区分	授業科目名	1			2			3		
		保育者としての使命感を持ち、保育をめぐる諸課題を自ら解決していこうとする力								
		1-1			1-2			1-3		
基礎科目	授業科目名	1-1			1-2			1-3		
		2-1			2-2			2-3		
		3-1			3-2			3-3		
		子どものありのままを受け入れる心	子どもを援助し、成長へと誘う使命感	保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力	子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力	子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力	自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力	子ども・保育に関する様々な専門的知識	保育の実践に関する専門的スキル	生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力
基礎科目	日本語（読解と表現）			○	◎					
	英語	◎			○					○
	コンピュータ演習			◎	○					○
教養科目	宗教と人生	◎	○				○			
	文学	○			◎					
	色彩学				◎					
	日本国憲法			◎				○		○
	ジェンダー論			◎		○		○		
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）				○	◎				○
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）				○	○	◎			
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）				○	○	◎			
学科教育科目	音楽教育A				○			○	◎	
	音楽教育B				○			○	◎	
	音楽教育C				○			○	◎	
	音楽教育D				○			○	◎	
	器楽A							○	◎	○
	器楽B							○	◎	○
	造形A							○	◎	○
	造形B							○	◎	○
	幼児体育A							○	◎	○
	幼児体育B							○	◎	○
	算数							○		◎
	生活概論							○	◎	
	子どもの保健ⅠA		○	○				○	◎	
	子どもの保健ⅠB		○	○				○	◎	
	子どもの保健Ⅱ		○	◎				○	◎	
	子どもの食と栄養A		○					○	◎	
	子どもの食と栄養B		○					○	◎	
	家庭支援論				○			○	◎	
	社会福祉				○			○	◎	
	相談援助	○				◎		○	◎	
	児童家庭福祉				◎			○	◎	
	教育原理		○	○						◎
	保育原理A		◎					○	◎	
	保育原理B	○		○				○	◎	
	社会的養護	○	○					○	◎	
	保育相談支援			○				○	◎	
	教育実習	○	○	○				○	◎	○
	保育実習Ⅰ（保育所）	○				◎		○	◎	
	保育実習指導Ⅰ（保育所）		○						◎	
	保育実習Ⅰ（施設）	○				○			◎	
	保育実習指導Ⅰ（施設）			◎			○		◎	
	保育実習Ⅱ						○		◎	○
	保育実習指導Ⅱ						○		◎	○
	保育実習Ⅲ		○				◎		◎	
	保育実習指導Ⅲ				◎		○		◎	
	保育の心理学Ⅰ		○	○				○	◎	
	保育の心理学Ⅱ			○	○			○	◎	
	教育心理学			○	○			○	◎	○
	児童心理学		○	○				○	◎	
	青年心理学		○				◎		◎	
	臨床心理学	○					◎		◎	○
	教育制度論			○				○	◎	○
	教師・保育者論							○	◎	◎
	保育課程総論			○				○	◎	
	保育内容総論		◎	○				○	◎	
	保育内容・健康		◎					○	◎	
	保育内容・人間関係		◎			○		○	◎	
保育内容・環境		◎				○	○	◎		
保育内容・言葉		◎			○		○	◎		
保育内容・表現A		◎			○		○	◎	○	
保育内容・表現B		◎			○		○	◎		
保育方法論				○		◎		◎		
社会的養護内容	○						○	◎		
乳児保育A	○				◎		○	◎		
乳児保育B	○	◎			○		○	◎		
障害児保育A	○	◎			○		○	◎		
障害児保育B		○				◎	○	◎		
教育相談	○		◎				○	◎		
保育・教職実践演習（幼稚園）	○	○	○		○	○	○	◎	○	

シラバスの見方

「ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力」について

「重点的に身につける能力」は、学部学科のディプロマポリシーに基づいて、さらに細かく設定された「能力」（下表 1-1…、2-2…など）の中から、授業を通して特に身につけてほしいものを選び出したものです。

なお、シラバスには5つまで記載されていますが、カリキュラムマップでは5つ以上記載されている科目もあります。

経済情報学科ディプロマポリシー														
1					2					3				
自己を認識し、他者を理解し思いやる心と志をもって社会で生きていく力					経済と情報の諸問題について関心をもち、まわりに働きかけ、ともに行動する力					学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力				
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5

科目名、担当者名、授業方法、単位・必選、開講年次・開講期：履修する科目が「必修」なのか「選択」についてチェックしましょう。

《シラバス例》

授業の概要：科目の全体的な内容とともに、その科目を学ぶ意義や必要性について解説されています。

授業の到達目標：科目の目的にそって、学習者が身につけることをめざす能力・知識・態度などについて、具体的な目標が示されています。

成績評価の方法：学習の目標がどの程度達成できたかについて、評価方法や評価の基準、評価方法ごとの配点などが示されています。

授業計画：授業で学習するテーマと学習内容・学習目標などが示されています。15回の授業の流れやキーワードにも目を通しましょう。

テキスト：授業で使用する図書が示されています。図書の他に、プリント教材や視聴覚教材などが示される場合があります。
参考図書：テキスト以外に授業や授業時間外学習の参考となる図書や教材等が示されています。

授業時間外学習：履修している科目の単位は、授業時間以外の学習時間も合わせて認定します。予習復習について、担当教員の指示や考え方をよく読んでおきましょう。

備考：担当教員の授業運営の方針や授業参加に関する考え方、指示・要望等が示されています。必ず目を通しましょう。

「カリキュラムマップ」とは、ディプロマポリシーに基づいて細かく設定された「能力」（マップ上部 1-1…、2-1…など）をどの授業によって身につけるのかについて一覧にしたものです。

単位を積み上げるだけでなく、入学から卒業までにどんな能力を身につける必要があるのかを意識しながら履修していきましょう。

授業科目のナンバリングについて

＜ナンバリングとは？＞

科目ごとに数字とアルファベットを用いて「ナンバー」を割り振ることを指します。これにより、科目の学修内容の順番や科目間のつながりなどがわかりやすくなります。また、学生が自分に合った科目のレベル（難易度）や専門内容を考えて履修計画を立てることができます。

＜ナンバリングの見方＞

各授業科目には、11桁のナンバーが付与されています。

そのナンバーは次の基準等により設定しています。

詳細	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
ナンバー	学科	学科サブ		配当年次		科目の位置づけ			通し番号 (001～)

詳細①：学科

C	保育科
---	-----

詳細②③：学科サブ

②③	
10	第一部

詳細：⑥⑦⑧科目の位置づけ

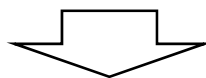
⑥⑦⑧			
L G G	基礎・教養科目（卒必）	S G G	専門教育科目（卒必）
L ◆ ●	基礎・教養科目（幼必・保必）	S ◆ -	専門教育科目（幼必）
L ◆ -	基礎・教養科目（幼必）	S - ●	専門教育科目（保必）
L ◇ ●	基礎・教養科目（幼選・保必）	S ◆ ●	専門教育科目（幼必・保必）
L ◇ -	基礎・教養科目（幼選）	S ◆ ○	専門教育科目（幼必・保選）
L - ○	基礎・教養科目（保選）	S ◇ -	専門教育科目（幼選）
L - -	基礎・教養科目	S - ○	専門教育科目（保選）

詳細④⑤：配当年次

④⑤	
11	1年生Ⅰ期
12	1年生Ⅱ期
21	2年生Ⅰ期
22	2年生Ⅱ期

例えば、「音楽教育A」という科目には、＜C1011SGG001＞というナンバーが付与されています。このナンバーは、次の組み合わせにより付与されたものです。

詳細①：学科 → 保育科「C」
詳細②③：学科サブ → 第一部「10」
詳細④⑤：配当年次 → 1年Ⅰ期「11」
詳細⑥⑦⑧：科目の位置づけ → 専門教育科目で卒業必修科目「SGG」
詳細⑨：通し番号 → 通し番号「001」



詳細	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
	保育科	学科サブ		配当年次		科目の位置づけ			通し番号
ナンバー	C	1	0	1	1	S	G	G	001

■平成 27、26 年度入学者■

I 教育課程

授業科目の構成（詳細は学則参照）

①基礎・教養科目 ②学科教育科目 に大別される。

II 卒業所要単位

保育科第一部においては、本学に2年以上（4年以内）在学し、62単位以上を修得した者は卒業資格が取得でき、「短期大学士」の学位が授与される。

卒業のために最低限必要な単位の内容は、次のとおりである。

科目区分	単位数	最低単位数
①基礎・教養科目	6 単位以上	62 単位以上
②学科教育科目	48 単位以上	

残り 8 単位は、基礎・教養科目、学科教育科目のいずれで修得しても可。

* 詳細

科目区分	単位数	内容	単位数
①基礎・教養科目	6 単位以上	「日本語（読解と表現）」 「英語」 「コンピュータ演習」	左記の 3 科目の中から 2 科目 4 単位以上
		「宗教と人生」	2 単位
		選択科目	
②学科教育科目	48 単位以上	必修科目 9 科目	15 単位
		選択科目	33 単位以上

Ⅲ 履修上の注意事項

- ア. 履修にあたっては、上記の卒業所要単位に留意し、自らの責任のもとに履修計画をたて、履修の手続きを行うとともに、普段の授業においても、主体的に学ぶ姿勢を貫かねばならない。
- イ. 保育科第一部において、幼稚園教諭二種免許および保育士資格を取得しようとする学生は、本学に2年以上（4年以内）在学し、卒業所要単位を修得し、かつ、それぞれ次に示す必要な単位を修得しなければならない。

幼稚園教諭二種免許	基礎科目「英語」	2単位
	基礎科目「コンピュータ演習」	2単位
	教養科目「日本国憲法」	2単位
	教養科目「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」	2単位
	別表Aに示す最低単位数	

- ※ 「英語」「コンピュータ演習」「日本国憲法」「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」の4科目は、「教育職員免許法」第5条別表第1備考第四号および「教育職員免許法施行規則」第66条の6により、修得することが定められている。
- ※ 詳細については別表Aを参照し、履修のうえで注意すること。
- ※ 幼稚園教諭二種免許取得に必要な単位を修得した学生には、免許状申請に係る所定の手続きを経たのち、兵庫県教育委員会から免許状が授与される。

保育士資格	基礎・教養科目 ※1	8単位以上
	必修科目	58単位
	選択必修科目	9単位以上

- ※1 基礎・教養科目については、外国語2単位、体育に関する講義及び実技それぞれ1単位を含む8単位以上の履修が定められている。本学では、「英語」2単位、「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」2単位、「健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）」または「健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）」1単位、計5単位を含む8単位以上の修得が必要である。
- ※ 必修科目、選択必修科目の詳細については、別表Bを参照し、履修等注意すること。
- ※ 保育士資格取得に必要な単位を修得した学生には、指定保育士養成施設である本学から指定保育士養成施設卒業証明書が交付される。
- ※ 児童福祉法の改正（2003年11月29日施行）により、保育士資格の法定化が図られた。保育士資格を名称独占資格に改め、併せて守秘義務、登録等に関する規定が整備された。
指定保育士養成施設で所定の単位を修得した卒業生は、保育士となる資格を有する者となり、保育士となる資格を有する者が保育士となるためには、都道府県に備えられた保育士登録簿に登録しなければならない。
なお、保育士資格登録の申請は、保育士登録指定保育士養成施設（本学）側が、一括して行う。

- ウ. 幼稚園教諭あるいは保育所その他の児童福祉施設の保育士（本学では、併せて保育者と通称している）をめざすためには、選択科目を積極的に履修し、より広く深い専門的知識・技能を修得することによって、未来の保育者としての自己形成に努めることが望まれる。
- エ. 免許・資格に必要な教育実習、保育実習は、直接子どもに接する学習であるから、学生は、所定の手続きを滞りなく済ませていると同時に、学業成績、健康状態等において一定の条件を満たしていることが必要である。
- オ. その他、履修に関して特に注意すべき事項は、履修指導時に説明する。

別表A 幼稚園教諭二種免許取得に必要な単位

【平成27、26年度入学者】

区分	免許法施行規則に規定された科目名		保育科第一部で開設している授業科目名	開設単位数		最低修得単位数	
				必修	選択		
教科に関する科目	国語		日本語（読解と表現）		2	4	
	算数		算数		2		
	生活		生活概論		2		
	音楽		音楽教育A	1			
			音楽教育B		◆1		
			器楽A		◆1		
			器楽B		◆1		
	図画工作		造形A	1			
			造形B		◆1		
	体育		幼児体育A	1			
幼児体育B				◆1			
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目		教師・保育者論	2		2	
	教育の基礎理論に関する科目		教育原理	2		4	
			教育心理学		◆2		
			教育制度論		◆2		
	教育課程及び指導法に関する科目		・教育課程の意義及び編成の方法	保育課程総論	2		12
			・保育内容の指導法	保育内容総論		◆1	
				保育内容・健康		◆2	
				保育内容・人間関係		◆2	
				保育内容・環境		◆2	
				保育内容・言葉		◆2	
保育内容・表現A					◆2		
保育内容・表現B		◆2					
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目		・教育方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育方法論		◆2	2	
		・幼児理解の理論及び方法	児童心理学		◆2		
教育実習		・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談		◆2	5	
		教育実習	教育実習		◆5		
教職実践演習		保育・教職実践演習（幼稚園）		◆2	2		
合 計						31	

(備考)

- (ア) 幼稚園教諭二種免許を取得するには、「基礎資格」（短期大学卒業者に係る短期大学士の学位を有すること）を得ると共に、最低修得単位数として教科に関する科目4単位、教職に関する科目27単位、合計31単位を修得しなければならない。
- (イ) 上記の表の最低修得単位数については、卒業資格に必要な必修科目のほかに、別表Aの「開設単位数」欄で◆印を付している科目のすべてを履修しなければならない。
- (ウ) 別表Aに示す最低単位数は、「教育職員免許法」第5条別表第1（1949年5月31日法律第147号、最終改正2003年法律第117号）および「同法施行規則」第5条、第6条（1954年10月27日文部省令第26号、最終改正2002年文科令第3、31号）に規定されている。

別表B 保育士資格取得に必要な単位

【平成27、26年度入学者】(必修科目)

系列	児童福祉法施行規則告示 別表第1による教科目		指定 単位数	保育科第一部で 開設している授業科目名		開設単位数		備考
	教科目	授業 形態	必修	授業科目	授業 形態	必修	選択	
保育の本 質・目的 に関する 科目	保育原理	講義	2	保育原理A	講義	2		
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2		
	児童家庭福祉	講義	2	児童家庭福祉	講義		●2	
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2		
	相談援助	演習	1	相談援助	演習		●1	
	社会的養護	講義	2	社会的養護	講義		●2	
保育の対 象の理解 に関する 科目	保育者論	講義	2	教師・保育者論	講義	2		
	保育の心理学Ⅰ	講義	2	保育の心理学Ⅰ	講義	2		
	保育の心理学Ⅱ	演習	1	保育の心理学Ⅱ	演習		●1	
	子どもの保健Ⅰ	講義	4	子どもの保健ⅠA	講義		●2	
				子どもの保健ⅠB	講義		●2	
	子どもの保健Ⅱ	演習	1	子どもの保健Ⅱ	演習		●1	
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養A	演習		●1	
				子どもの食と栄養B	演習		●1	
	家庭支援論	講義	2	家庭支援論	講義		●2	
	保育の内 容・方法 に関する 科目	保育課程論	講義	2	保育課程総論	講義	2	
保育内容総論		演習	1	保育内容総論	演習		●1	
保育内容演習		演習	5	保育内容・健康	演習		●2	
				保育内容・人間関係	演習		●2	
				保育内容・環境	演習		●2	
				保育内容・言葉	演習		●2	
				保育内容・表現A	演習		●2	
乳児保育		演習	2	乳児保育A	演習		●1	
				乳児保育B	演習		●1	
障害児保育		演習	2	障害児保育A	演習		●1	
				障害児保育B	演習		●1	
社会的養護内容		演習	1	社会的養護内容	演習		●1	
保育相談支援		演習	1	保育相談支援	演習		●1	
保育の表 現技術		保育の表現技術	演習	4	音楽教育A	演習	1	
	器楽A				演習		●1	
	造形A				演習	1		
	幼児体育A				演習	1		
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習Ⅰ	実習		●4	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ	演習		●2	
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習 (幼稚園)	演習		●2	
合 計			51	合 計		58		

【平成 27、26 年度入学者】（選択必修科目）

系列	児童福祉法施行規則告示 別表第 2 による教科目		指定 単位数	保育科第一部で 開設している授業科目名		開設単位数		備考	
	教科目	授業 形態		選択 必修	授業科目	授業 形態	必修		選択
保育の本 質・目的 に関する 科目			15 単 位 以 上 開 設	保育原理 B	講義		2	6 単 位 以 上 選 択 必 修	
保育の対 象の理解 に関する 科目				児童心理学	講義		2		
				青年心理学	講義		2		
				臨床心理学	演習		2		
				教育相談	講義		2		
保育の内 容・方法 に関する 科目									
保育の表 現技術	保育の表現技術	演習			音楽教育 B	演習			1
					音楽教育 C	演習			1
					音楽教育 D	演習			1
					器楽 B	演習			1
				造形 B	演習		1		
				幼児体育 B	演習		1		
保育実習	保育実習Ⅱ又は保 育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅱ	実習		●2	2 単位以上 選択必修	
				保育実習Ⅲ	実習		●2		
	保育実習指導Ⅱ又 は保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅱ	演習		●1	1 単位以上 選択必修	
				保育実習指導Ⅲ	演習		●1		
合 計（開設単位数）			18 単位 以上	合 計		22 単位		9 単位 以上	

（備考）

- （ア）保育士資格必修科目については、卒業必修科目のほかに、別表 B の「開設単位数」欄で●印を付している科目のすべてを履修しなければならない。〔ただし、「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」については（イ）参照〕
- （イ）選択必修科目については、「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」のうち 2 単位以上、「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」のうち 1 単位以上を含めて、9 単位以上を最低修得することとなっている。「保育実習Ⅱ」（2 単位）と「保育実習指導Ⅱ」（1 単位）を履修するか、「保育実習Ⅲ」（2 単位）と「保育実習指導Ⅲ」（1 単位）を履修するかを選択し、それ以外に、最低 6 単位を選択履修しなければならない。
- 選択必修科目は、卒業後の進路に応じて選択履修することが望ましい。詳しくは履修指導時に説明する。
- （ウ）別表 B に示す指定単位数は、「児童福祉法施行規則第 6 条の 2 第 1 項第 3 号の指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法」（2010 年 7 月 13 日厚生労働省告示第 278 号）に規定されている。

平成 27 (2015) 年度

基礎科目・教養科目

カリキュラム年次配当表

保育科第一部 平成27年度（2015年度）入学者対象

授業科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当(数字は週当り授業時間)		備考	ページ		
				必修	選択			1年				2年	
基礎科目	日本語（読解と表現）	C1011L - 001	演習		2			2			17		
	英語	C1011L 002	演習		2			2			18～19		
	コンピュータ演習	C1011L - 003	演習		2			2			20～21		
教養科目	宗教と人生	C1011LG G004	講義	2				2			22		
	文学	C1012L - - 005	講義		2				2		23		
	色彩学	C1011L - - 006	講義		2			2			24		
	日本国憲法	C1012L - - 007	講義		2				2		25		
	ジェンダー論	C1011L - - 008	講義		2			2			26		
	健康・スポーツ科学（講義）	C1012L 009	講義		2				2		27		
	健康・スポーツ科学（実技）	C1011L 010	実技		1			2			28～30		
	健康・スポーツ科学（実技）	C1012L 011	実技		1				2		31～33		

保育科第一部 平成26年度（2014年度）入学者対象

授業科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当(数字は週当り授業時間)		備考	ページ		
				必修	選択			1年				2年	
基礎科目	日本語（読解と表現）	C1011L - 001	演習		2			2					
	英語	C1011L 002	演習		2			2					
	コンピュータ演習	C1011L - 003	演習		2			2					
教養科目	宗教と人生	C1011LG G004	講義	2				2					
	文学	C1012L - - 005	講義		2				2				
	色彩学	C1011L - - 006	講義		2			2					
	日本国憲法	C1012L - - 007	講義		2				2				
	ジェンダー論	C1011L - - 008	講義		2			2					
	健康・スポーツ科学（講義）	C1012L 009	講義		2				2				
	健康・スポーツ科学（実技）	C1011L 010	実技		1			2					
	健康・スポーツ科学（実技）	C1012L 011	実技		1				2				

（注意）

印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必須科目を表す。

印は、保育士資格取得のための必須科目を表す。

印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。

印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。

学年配当欄において 囲みで表示している科目については、 囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

備考欄の は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

備考欄の は、学則第23条第1項第3号の但書に規定する授業科目を表す。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	日本語(読解と表現)	科目ナンバリング	C1011L - 001
担当者氏名	安井 重雄、小林 強、吉田 唯		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力		

《授業の概要》

大学での学習、就職活動、および日常生活、社会生活などにおいて必要な、漢字・慣用表現・主語と述語・助詞・敬語の用法などの日本語の基礎的知識と表現のあり方を学ぶ。毎回、配布プリントの問題を解いていく演習形式で行い、教員の説明のあと、実際に辞書などを引きながら問題を解いていく。

《テキスト》

授業時に、設問形式のプリントを配布する。

《参考図書》

授業時に、指示する。

《授業の到達目標》

漢字・慣用表現、主語と述語の呼応、適切な助詞の使い方、敬語を適切な用法など、日本語の基本的な表現方法を身につける。それによって、日本語の教養とコミュニケーション能力を高める。

《授業時間外学習》

当日の授業で不明であった点を辞書で調べ、あるいは先生に質問して不審箇所を明らかにしておく。また、次回の授業のプリントを読み、内容を確認しておく。

《成績評価の方法》

授業時に複数回実施する課題の提出(50%)と学期末の試験(50%)によって評価する。

《備考》

毎回、設問を解くなどの課題を行うので、国語辞典(電子辞書も可)を必ず持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の流れの説明・漢字の書き取り	15回の授業の進行と学習する内容の説明をする。
2	漢字の書き取り・四字熟語	漢字の音読み・訓読みを理解し、同音異義語・同訓異義語を書き分ける。
3	漢字の書き取り・四字熟語	四字熟語には日本文化のエッセンスが凝縮されている。多くの四字熟語を知り、それらを理解する。
4	ことわざ・故事成語	ことわざ・故事成語には、古くから伝わる生活の知恵や社会生活を送る上での教訓が詰まっている。現代にも生きているそれらの表現を学ぶ。
5	慣用句	現代でも、「気がおけない」「悪びれないで」など、よく使われるけれど、間違いやすい慣用句がある。それらの意味と使い方を学ぶ。
6	主語と述語	主語と述語を関係づけて文を理解することにより、正確に文章を読解する。
7	主語と述語	述語には、動詞・形容詞・形容動詞・～ある(ない)などの型があることを学ぶ。
8	修飾語と被修飾語、接続詞と副詞の用法	修飾語を被修飾語に近づけてわかりやすく書くことを学ぶ。文と文、語と語との接続や、副詞による用言の修飾について学ぶ。
9	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
10	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
11	敬語	尊敬語、謙譲語・、丁寧語、美化語という敬語の5分類について学ぶ。
12	敬語	尊敬語と謙譲語の動詞について学ぶ。
13	敬語	現代では通用しているが、本当は誤った敬語である過剰敬語について学ぶ。
14	敬語	社会的な場における敬語の使い方について学ぶ。
15	授業のまとめ	授業全体について振り返り、授業内容をまとめる。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語	科目ナンバリング	C1011L 002
担当者氏名	小泉 毅		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

リスニングの基礎から総復習をはかる。Phonicsによる基本の音を勉強し、歌、会話と発展していく。

《テキスト》

プリントを配布しますから、専用のバインダーと辞書を持ってきてください。〔Enjoy English〕(長崎出版)

《参考図書》

NHKラジオの「新基礎英語」を家で聴く事を宿題とします。本の購入は問いません。とにかく聴いて英語になれることです。

《授業の到達目標》

英語に親しませる事を目標とし、とくに基礎から聞いて話す事に力点をおき、英語が聴けるようになったと自信を持たせたい。そして、将来、英検、TOEIC、TOEFLにチャレンジする自信をつけさせたい。

《授業時間外学習》

毎回宿題を出します。宿題内容は、音読をして、丁寧にノートに書いて、暗唱までです。又、図書館の参考図書をよく利用してください。この他、DVD、VIDEO、TV等で生の英語にどんどん触れて感銘を受けた作品などの紹介や、感想文を英語で記録する。

《成績評価の方法》

英検ノートづくり、クラスでの発表、小テスト、宿題を総合して評価する。期末テストはしない。なぜなら英語学習は毎日コツコツ聞くことが大切だからです。発表(40%)、宿題(30%)、小テスト(30%)。

《備考》

1.出席重視です。2.席を決めていつもパートナーと一緒に発表する。3.恥ずかしがらないで、英語で話して下さい。4.授業は英語力アップのため全て英語で話します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	自己紹介	授業の説明、自己紹介、評価の説明
2	初めての人に会う ありがとう	小テスト、会話(挨拶)、Phonics(Alphabet)英検5級リスニングテスト
3	場所を聞く いつ練習するの?	小テスト、会話、Phonics(Alphabet)英検5級リスニングテスト
4	何時ですか?	小テスト、会話、Phonics(子音)英検4級リスニングテスト
5	電話で話す	小テスト、会話、Phonics(子音)英検4級リスニングテスト
6	なぜと理由を聞く	小テスト、会話、Phonics(母音)英検3級リスニングテスト
7	体調を聞く	小テスト、会話、Phonics(母音)英検3級リスニングテスト
8	計画を聞く	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習 英検5級(全体)
9	許しを得る	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習 英検5級(全体)
10	~しましょうか?~しませんか?	小テスト、会話、Phonics(silent E) 英検4級(全体)
11	値段を聞く	小テスト、会話、Phonics(silent E) 英検3級(全体)
12	~はいかがですか?と物をすすめる	小テスト、会話、Phonics(polite vowels) 英検準2級(全体)
13	乗り物で行き先を尋ねる・道を尋ねる	小テスト、会話、Phonics(polite vowels) 英検5、4級の総復習
14	いい考えねと自分の考えをいう	小テスト、会話総復習、Phonics総復習 英検3級総復習
15	総復習	小テスト、会話総復習、Phonics総復習 英検準2級総復習

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語	科目ナンバリング	C1011L 002
担当者氏名	Michael.H.FOX		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得することができる。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりと親切な指導を受け、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。

《テキスト》

教科書『Talk Time Student Book 1』を購買部で購入。先輩から古本を受けることは禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction & Orientation	自己紹介をする
2	Describing People	人を述べる事
3	Everyday Activities	毎日の活動・習慣を喋る
4	Food and Drinks	食べ物と飲み物の話し
5	Snacks	スナックの世界
6	Housing	家・住宅をデザインし、話す事
7	Free Time Activities	暇と活動
8	Popular Sports	人気なスポーツは？
9	Life Events	一生の一大事な行事
10	Weekend Plans	週末を過ごす
11	Movies	映画が好きですか？
12	TV Programs	テレビとその番組
13	Health Problems	健康と病気
14	On the telephone	電話の言葉
15	まとめ or 自己評価	まとめ or 自己評価

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	コンピュータ演習	科目ナンバリング	C1011L - 003
担当者氏名	河野 稔		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

大学・短大での学習活動に必要となる「情報リテラシー」、つまりICT（情報通信技術）による情報を活用する能力の修得を目指します。
 ネットワーク上の情報の活用、文書作成、データ処理、プレゼンテーションなど、ソフトウェアやサービスを利用するための技能を学習します。また、システムの仕組みや機能、情報倫理など、情報社会を生きる上で欠かせない知識も学習します。

《授業の到達目標》

パソコンやインターネットを学生生活の道具として適切に利用できる。
 目的にあわせてソフトウェアやシステムを選択して情報の収集・編集・発表に活用できる。
 ICTを活用して、日々生み出される膨大な情報を判断し、取捨選択できる。

《成績評価の方法》

実習での提出課題（70%）と情報倫理および総合的な演習での提出物（30%）で評価します。

《テキスト》

毎回の授業で、授業内容を説明したプリントを配布します。配布したプリントやその他の資料などは、eラーニングのシステムや授業用のWebサイトで公開します。

《参考図書》

矢野文彦監修(2013)『情報リテラシー教科書 Windows 8/Office 2013対応版』オーム社。
 情報教育学研究会・情報倫理研究グループ編(2013)『（新課程）インターネット社会を生きるための情報倫理』実教出版。その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介いたします。

《授業時間外学習》

この科目では復習が重要です。操作や利用方法を次の授業で活かせるように、日ごろからパソコンを利用して練習しておきましょう。
 とくに、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実習では『まとめ課題』と『総合的な演習』があります。学習した成果を実践できるように準備しておいてください。

《備考》

学習環境として、2号館のコンピュータ実習室を利用します。また、小テストや課題提出にはeラーニングのシステムを利用します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業全体の説明 / コンピュータ実習室の利用手続き / コンピュータ実習室の利用
2	学内ネットワークシステムの利用	学内システムの利用 / Webメールの利用 / eラーニングの利用
3	インターネット(1)	電子メールによるコミュニケーション
4	インターネット(2)	インターネット上の情報の検索
5	インターネット(3)	ウェブの最新トピック、情報倫理
6	文書作成(1)	レポート形式の文書の作成
7	文書作成(2)	文書のデザインとレイアウト / 文書作成のまとめ課題
8	プレゼンテーション(1)	文字による基本的なプレゼンテーションの作成
9	プレゼンテーション(2)	図やアニメーションを利用したスライドの作成
10	データ処理(1)	表形式データの簡単な処理とグラフ作成
11	データ処理(2)	関数を利用した処理とグラフの活用 / データ処理のまとめ課題
12	総合的な演習(1)	情報倫理を啓発するプレゼンテーションの作成
13	総合的な演習(2)	情報倫理を啓発するプレゼンテーションの作成および提出・公開
14	総合的な演習(3)	プレゼンテーションの相互評価、演習問題の作成
15	総合的な演習(4) / まとめ	相互評価の結果の集計 / 授業全体のふり返り

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	コンピュータ演習		科目ナンバリング	C1011L - 003	
担当者氏名	佐竹 邦子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力				

《授業の概要》

パソコンなどの情報機器やインターネットを使えることは現在の社会では必須の能力となっています。この授業では、学生生活のために必要な情報技術・知識を習得し、さらには将来にわたって長く役立つ知識を習得することも目指します。授業は毎回演習形式で行います。

《授業の到達目標》

コンピュータやインターネットが広く利用されている現在の社会で、将来にわたってそれらを使いこなしていくための基礎知識を身につけられる。メールやインターネット、各種ソフトウェアの基本的な使い方から、ネットワーク社会でのマナーも身につけられる。

《成績評価の方法》

- (1) 平常点 (20%)
- (2) 提出課題 (80%)

《テキスト》

「学生のためのアカデミック情報リテラシー(2013対応)」, noa出版

《参考図書》

- ・情報モラル&情報セキュリティ, FOM出版
- ・Microsoft Word 2013 ドリル, FOM出版
- ・Microsoft Excel 2013 ドリル, FOM出版
- ・Microsoft PowerPoint 2013 応用, FOM出版

《授業時間外学習》

- 1) 予習の方法：次回の授業範囲のテキストに読んでおくこと。分からない専門用語等が出てきた場合には、メモをして可能な限り事前に調べておくこと。
- 2) 復習の方法：授業範囲のテキスト・配布プリントを読み返すこと。分からない内容があるときは、関連図書を読んだり直接質問したりすること。

《備考》

- 1) 欠席した場合、次回までに自習する。プリントはオフィスアワーなどに受け取りに来る。2) 質問等はオフィスアワーなどに来る。授業時間直前には、質問や前回プリント要求は控える。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業概要の説明、学内情報システムに関する理解 実習室サインインアカウントの確認、パスワード管理方法の理解
2	Windowsの基礎、インターネットとメール(1)	Windowsの基本操作、 Webメールの送受信、署名の設定、連絡先機能の利用
3	インターネットとメール(2)	ファイル添付、メールに関するマナー 検索サイトの利用、検索オプションの活用
4	情報モラル	情報モラル、著作権・肖像権の理解 個人情報保護の理解
5	レポートをまとめる(1)	Wordの画面構成、ページ設定、表紙の作成、フッター、 フォントの装飾、インデント
6	レポートをまとめる(2)	表の作成、参考文献、脚注、全体の形式を整える、 印刷
7	Word演習課題	Wordを用いる演習課題
8	データを整理する(1)	Excelの画面構成、範囲指定、四則演算、SUM関数、AVERAGE関数等。 相対参照・絶対参照等。
9	データを整理する(2)	各種関数の利用。 セル書式の設定、罫線設定、グラフ作成、データの並べ替え、シート操作
10	Excel演習課題	Excelを用いる演習課題
11	スライド資料を作る(1)	目的、PowerPointの画面構成、スライド作成とプレゼンテーションの流れ、 テーマ、アウトラインペイン、入力
12	スライド資料を作る(2)	SmartArt、画面切り替え効果、アニメーション、スライドショー、 ノートの入力、スライドの印刷、リハーサル
13	PowerPoint演習課題	PowerPointを用いる演習課題
14	総合課題(1)	これまでのまとめとなる課題を行なう。
15	総合課題(2)	これまでのまとめとなる課題を行なう。

科目名	宗教と人生	科目ナンバリング	C1011LG G004
担当者氏名	本多 彩		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力		

《授業の概要》

この講義は、まず宗教へ多角的にアプローチすることによって、宗教に対する理解を深めることから始める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではない。宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（とくに仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に自ら取り組む力を養う。兵庫大学の建学の精神と仏教の理念についての学びを深める。

《授業の到達目標》

われわれの日常生活領域に潜むさまざまな宗教のあり方を通して、人間や世界や生や死を考える。自分自身を見つめなおす手掛かりや、異文化や他者理解へのきっかけとしてほしい。さらに現在、社会で起こっている様々な課題を宗教という視点からとらえなおしていく視点を養う。

《成績評価の方法》

受講態度 30%
 小テスト・レポート 20%
 筆記テスト 50%

この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教について、正の面や負の面、その機能についての理解を目指す
2	宗教の種類	分布や性格によって分けられる宗教の種類を理解することを目指す
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す
4	建学の精神	建学の精神である「和」や「睦」の精神を理解し、兵庫大学短期大学生としての誇りが持てるよう仏教思想の理解を目指す
5	建学の精神：学内宗教ツアー	学内にある宗教施設をまわり、体験を通して建学の精神についての学びを深めることを目指す
6	キリスト教を知る	キリスト教の歴史や教えの理解を目指す
7	キリスト教を知る	キリスト教が現代社会に与えた影響とユダヤ教について学ぶ
8	イスラームを知る	イスラームの歴史や教えの理解を目指す
9	イスラームを知る	イスラームの広がりやムスリムの生活についての理解を目指す
10	仏教を知る	建学の精神の基盤でもある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解することを目指す
11	仏教を知る	仏教の伝播と仏教が人間や社会とのかかわりをどのように考えてきたのかを学ぶ
12	仏教を知る	日本に伝来した仏教とその展開について学ぶ
13	日本の仏教を知る	身近にあるさまざまな仏教を取りあげて日本仏教の特性を理解することを目指す 建学の精神に関連の深い仏教の教えについて理解を目指す
14	日本の仏教を知る	仏教を中心に、日本宗教の特性を理解することを目指す
15	建学の精神	建学の精神と仏教について理解を深め自ら考える

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー
 宗教ツアー
 花まつり法要 など

《備考》

身の回りにある「宗教的なもの」をさがしてみよう。
 仏教の本を読んでみよう。

科目名	文学	科目ナンバリング	C1012L - - 005
担当者氏名	安井 重雄		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力		

《授業の概要》

古典文学について講義し、「古典」とは何かを考える。日本の古典文学作品は数百年、あるいは千年以上もの間読み継がれてきている。なぜその作品が現代まで残り、「古典」となるのか。「古典」とはただ古い作品ということではない。授業では、いくつかの作品を取り上げて少しずつ読みながら、テーマや構想、文章、また作者と制作された時代について説明し、如上の問題を考える。

《授業の到達目標》

文学作品の言葉を読み解き、作品のテーマについて考え、また作者と時代について考えること。および、そのことによって文学および「古典」について深く理解することを目指す。

《成績評価の方法》

10回以上出席すること。その上で、授業時に提出する課題やレポートによる平常点（40%）、及び、定期試験（60%）によって評価する。

《テキスト》

毎回、プリントを配布する。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業時間外学習》

配布したプリントを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『万葉集』を読む	最古の歌集である『万葉集』は8世紀半ばに成立した。内容は、宮廷を中心としたもの、防人や東歌など労働に関するものなどさまざまである。その歌を考える。
3	『古今和歌集』を読む	905年に成立し、和歌を春夏秋冬に分類して日本の四季の認識を確立するなど以降の文学や人間生活に大きな影響を及ぼした作品である。その歌を考える。
4	『伊勢物語』を読む	主人公在原業平が東国に下ったり、高貴な女性を盗んだりなど、当時としては驚かされる行動をとる。すべての章段に和歌がある物語であり、歌をめぐる面白さを読む。
5	『源氏物語』を読む	『源氏物語』第一部・第二部の、主人公光源氏の女性たちとの恋愛、またさまざまな困難を乗り越えて栄華に至り、さらに死を迎えるまでの物語を読む。
6	『源氏物語』を読む	『源氏物語』第三部の、光源氏死後、その子薫と孫匂宮が宇治を舞台として浮舟など女性たちをめぐる争い、恋のはかなさを認識するに至る物語を読む。
7	『新古今和歌集』を読む	最高権力者後鳥羽院が自ら撰集した勅撰和歌集である。藤原定家らの歌は、古典和歌との関係によって制作され、古典とは何かを考えさせる。
8	『方丈記』を読む	鴨長明作『方丈記』は無常をテーマとして災害の記述で有名である。災害は住居の破壊に繋がる。住居とはどうあるべきかを語る長明の思考について考える。
9	『愚管抄』を読む	著者慈円は撰家出身である。時代は鎌倉幕府を無視できない歴史の転換期にきている。そのとき貴族は歴史をどのように捉えるのか、考える。
10	『宇治拾遺物語』を読む	文学の担い手は貴族層から、武士や庶民に広がっていく。優雅さだけが価値ではなく、時代は俗を取り込み変化する。貴族文学とは異なる美意識や価値観について考える。
11	『奥の細道』を読む	江戸時代に入り、平和が訪れ、安全な旅が可能になる。松尾芭蕉の旅を追いながら、誹諧と紀行について考える。
12	『五輪書』『葉隠』を読む	『五輪書』は宮本武蔵が兵法の極意について語ったもの、『葉隠』は鍋島藩士山本常朝が、理想的武士像について説いたものである。江戸時代の武士について考える。
13	『雨月物語』を読む	江戸時代に書かれた上田秋成作の怪異小説を二回に分けて読む。恐怖の中にも人間を見つめたテーマ設定がなされている。この回は「白峯」「菊花の契り」を読む。
14	『雨月物語』を読む	女性や異類を主人公とした怪異譚である、「吉備津の釜」「蛇性の姪」を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた古典文学についてふりかえり、「古典」とは何かについて考える。

科目名	色彩学	科目ナンバリング	C1011L - - 006
担当者氏名	浜島 成嘉		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力		

《授業の概要》

私達の生活は色に囲まれた色彩化の時代となり、衣・食・住など生活環境はカラフルになっている。色は用い方を間違えると視覚上や心理面において、むしろ不快感を感じさせる場合もある。授業では快い色の調和を得るには、どのように考えればよいのか、また色彩が私達の生活にどのような影響を与えるのか解説する。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『生活と色彩』（朝倉書店）

《授業の到達目標》

色彩学の基本となる、「カラーシステム」「色の見え方」「色の感情効果」「配色調和論」等々の理論について学び、その色彩理論を理論だけでなく「色」でも理解しなければ、色彩学を理解した事にはならない。色彩理論の理解だけでなく、色で活用し応用する事ができなければ、その理論の知識は全く意味の無いものになってしまいます。理論を色でも理解することがポイントです。

《授業時間外学習》

「非常出口」の表示はベース(地色)のが白と緑色の2種類あるが、その違いは？フランスの国旗の青・白・赤、理髪店の赤・青・白のそれぞれの色は何を表わしているのか？子供の可愛らしい色はどのような色が注意して見ておくこと。

《成績評価の方法》

小テスト(50点)、カラーリング課題(50点)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	色彩と生活	色彩は日常生活でどのように活用されているのか、色彩の果たす役割を改めて見直す。
2	色の見え方	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され脳で感じているという色知覚について学ぶ。
3	色の感情効果(1)	赤、橙、黄、青などそれぞれの色相がもっている、色の感情効果について。
4	色の感情効果(2)	色の連想、象徴について解説し、色の好みと性格について説明する。
5	色彩体系(カラーシステム)	色彩学の基礎となる色の三属性を基に、カラーシステムの成り立ちを解説する。
6	色名	平安時代、江戸時代における、日本の伝統色名やヨーロッパの色名について理解する。
7	色のイメージ	同じ人でも着用する色によってその人のイメージが異なる。どのような色調がどのようなイメージ表現できるのかを学ぶ。
8	色の見え方の現象	日常生活において、同じ色でも見え方が異なる場合があり、それは何故そのような現象が起こるのかを考える。
9	配色調和(1)	美しい調和の配色を得るには、配色調和の基本形式を理解し、その調和理論に従って実際にカラーカードで配色を作成する。
10	配色調和(2)	「可愛い」「落ち着いた」感じなど、色相、トーンなどのカラーシステムを基本に、自分が思い描くイメージをカラーカードで作成する。
11	色の伝達性	言葉とか文章ではなく、色だけによって何かを伝える事ができる。色が私達の行動に与える影響について事例をもとに説明する。
12	色彩と文化	国によって色の捉え方が異なることを説明する。例えばリンゴは日本では赤をイメージするがフランスではアップルグリーンという色名があるように全く異なる。
13	「衣」(ファッション)の色彩	各シーズン(春、夏、秋、冬)に発表される流行色はどのように決まってくるのかについて解説する。
14	「食」の色	美味しそうに見える料理の配色について、また色と栄養価の関係から捉えた、食の五原色について説明。
15	「住」の色	「騒音」という言葉があるように、環境において「騒色」という言葉がある。それはどのようなことなのか解説する。

科目名	日本国憲法	科目ナンバリング	C1012L - 007
担当者氏名	笹田 哲男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「基本的人権の保障」「国民主権と権力の分立」「平和主義」など）について講義する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」「子どもの学習権」及び「日本の防衛と国際貢献」については、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
 『憲法第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法(国家の基本法)とは何か」「日本の憲法のおいたち」について理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりについて、裁判例の研究を通じ具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

第15週の授業時間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《備考》

法的思考を培い、現代社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	社会の規範、法の種類、法システム、国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	明治憲法の成立過程と特質、日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義(1)	前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義(2)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史(1)	人権の特色・種類、「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史(2)	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障(1)	「法の下での平等」原則について、また、「雇用労働と男女の平等」「家庭生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障(2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障(3)	経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障(4)	社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障(5)	「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	「国民主権」と「権力の分立」(1)	「象徴天皇制」の意義・内容、選挙制度の内容、「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	「国民主権」と「権力の分立」(2)	国会の組織・権能、内閣の組織・権能、議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	「国民主権」と「権力の分立」(3)	司法権独立の意義、裁判所の組織・権能、司法の民主的統制、また、「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

科目名	ジェンダー論	科目ナンバリング	C1011L - - 008
担当者氏名	吉原 恵子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

本講義では、「ジェンダー」概念と「ジェンダーの視点」の学習を通して、「女であること/男であること」の文化的・社会的側面について多面的に理解する。まず(1)諸データにより実態を把握し、次に(2)ジェンダーの視点をういながら諸問題を批判的に見る目を養う。また、各分野のまとめにあたって、(3)作業シートによって、知識の定着を確認するとともに、社会問題へのジェンダーの視点によるアプローチを身につける。

《授業の到達目標》

- (1) ジェンダーについて社会的に語るができる。
- (2) 日本社会の諸問題について統計データを用いて、ジェンダーの視点から説明できる。
- (3) 講義のなかから自分のテーマを見つけて、考えをまとめて、他の人に説明できる。

《成績評価の方法》

毎回実施する「作業シート」の提出（配点：文章作成能力および知識の定着度45%）
 「学習のまとめ」シート（「持ち込み可」）を完成させること（配点：協力して学ぶ力、データを読む力、社会問題に取り組みようとする意欲、批判的視点等の獲得度：55%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ジェンダー論の基礎(1)	ジェンダーとは何か？（ジェンダー概念の誕生、ジェンダー論と学問領域、セックス/ジェンダーという二分法、知識社会学とジェンダーの社会学）
2	ジェンダー論の基礎(2)	「性」の多様性と「女らしさ/男らしさ」の形成
3	結婚・家族はどう変わったか (1)	少子化社会、近代結婚制度、結婚の意義と配偶者選択：少子化とジェンダー
4	結婚・家族はどう変わったか (2)	男の子育て/女の子育て：ケアとジェンダー
5	結婚・家族はどう変わったか (3)	高齢者の生活実態：ケアとジェンダー
6	学習のまとめとワークショップ	ジェンダー論の基礎/結婚・家族はどう変わったか
7	女の時間/男の時間(1)	アンパイドワーク、サービス経済と女性、M字型就労パターン：労働とジェンダー
8	女の時間/男の時間(2)	非正規雇用、雇用管理、賃金格差：雇用とジェンダー：雇用とジェンダー
9	学習のまとめとワークショップ	女の時間・男の時間
10	学校の中のジェンダー(1)	ジェンダー・バイアス、隠れたカリキュラム：教育とジェンダー
11	学校の中のジェンダー(2)	進路形成と進学、専攻分野の分化：教育とジェンダー
12	マスメディアとジェンダー	メディアのなかの女性像/男性像、メディア行動、メディア産業：情報社会とジェンダー
13	学習のまとめとワークショップ	学校の中のジェンダー/マスメディアとジェンダー
14	性・こころ・からだ(1)	性意識と性行動、親密性とセクシュアリティ：性とジェンダー
15	性・こころ・からだ(2)	セクシュアリティと暴力、性の商品化：性とジェンダー

《テキスト》

『女性のデータブック 第4版』井上輝子・江原由美子編

《参考図書》

『ジェンダーの社会学』江原由美子（放送大学教育振興会）、
 『ジェンダーで学ぶ社会学』伊藤公雄/牟田和恵編、（世界思想社）、
 『社会学がわかる事典』森下伸也（日本実業出版社）、
 『ジェンダー入門』加藤秀一（朝日新聞社）、『女性学・男性学』伊藤公雄/樹村みのり/國信潤子（有斐閣）

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業の振り返りのためファイリングして活用してください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、毎回の講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく「考えながら聴く」ことがポイントである。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（講義）	科目ナンバリング	C1012L 009
担当者氏名	長尾 憲樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

健康を考えながらスポーツをする上で必要な知識を学習する。

《テキスト》

第2版 健康とスポーツを科学する
 これからの幸せを求めて
 監修：長尾光城、中央法規出版

《参考図書》

必要が生じた際に紹介する。

《授業の到達目標》

健康に役立つスポーツを実践し、これからの人生に有意義にチャレンジする基礎をつくる。

《授業時間外学習》

授業で得られた知識を、自分自身と家族について考えていく。

《成績評価の方法》

筆記試験70%
 レポート20%
 授業態度10%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康とは？	健康の概念と体力から健康寿命を考える。
2	肥満	メタボリックシンドローム等について学ぶ。
3	筋・骨格系とスポーツ	筋肉と骨の基礎知識から健康との関連を考える。
4	栄養とスポーツ	食事を通しての栄養素の必要性について学ぶ。
5	サプリメント	サプリメントの位置づけを考える。
6	メンタルヘルス	こころの健康とストレスについて学ぶ。
7	スポーツとストレス	スポーツのストレス軽減効果について考える。
8	熱中症	熱中症対策について学ぶ。
9	スポーツ障害	スポーツ障害を分類し予防・再発防止について学ぶ。
10	発育期の身体活動	スポーツ活動、体力の現状を考える。
11	青年期の身体活動	今の自分自身のスポーツ状況を考える。
12	高齢期の身体活動	生活習慣病予防、介護予防の運動について学ぶ。
13	超高齢期の身体活動	スーパーオールドの身体活動から、遠い将来のヒントを探す。
14	生存の為の体力	天災時に避難する体力の必要性について考える。
15	学習のまとめ	この授業を振り返りまとめる。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（実技）	科目ナンバリング	C1011L 010
担当者氏名	米野 吉則		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力		

《授業の概要》

スポーツの実践を通してコミュニケーション力および自己のライフステージや心身の状態に適した健康的なライフスタイルを形成する力を身につける。

《テキスト》

テキストは使用しない。

《参考図書》

- 『スポーツスキルの科学』宮下充正 大修館
- 『からだロジック入門』宮下充正 大修館
- 『スポーツ上達の科学』八木一正 大河出版

《授業の到達目標》

テニスの基礎技術の修得及びゲームを通してスポーツの真の楽しさを共有することができる。

《授業時間外学習》

・授業で紹介するストレッチを週3日程度実践し、翌週に臨むよう心掛けてほしい。

《成績評価の方法》

・技術点50%、取り組む姿勢50%とする。

《備考》

- ・医者から運動制限を指示されている場合は事前に申し出てください。
- ・技術習得状況によって内容を変更する場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・受講上の注意事項 ・種目選択
2	ボレーの技術	・ボレーの技術要素および要領
3	ボレーの技術および球出し	・球出しの要領を学び2人でボレーの練習ができるようになる。
4	ボレーの技術および球出し	・2人のボレー練習
5	ボレーとフォアハンドストローク	・フォアハンドストロークの要領 ・2人のフォアハンドストロークとボレーのラリー練習
6	ボレーとフォアハンドストローク	・フォアハンドストロークの要領 ・2人のフォアハンドストロークとボレーのラリー練習
7	サーブとレシーブ	・サーブとレシーブの要領
8	ミニゲーム	・ミニコートでのゲーム
9	ゲーム	・ゲーム(ダブルス)の進め方 ・2人の基本的な動き
10	ゲーム	ゲームの各場面における対処法
11	ゲーム	ゲームの各場面における対処法
12	ゲーム	ゲームの各場面における戦術および対処法
13	ゲーム	ゲームの各場面における戦術および対処法
14	ゲーム	ゲームの各場面における戦術および対処法
15	まとめ	技術の自己および他者評価を通して技術課題を把握する。

科目名	健康・スポーツ科学（実技）	科目ナンバリング	C1011L 010
担当者氏名	井上 眞美子		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力		

《授業の概要》

スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容で生活の中に取り入れ豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につける。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）『からだロジック入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

動きを上手に洗練させていくことを楽しむのが目的です。音楽に合わせたはずみ動作が多く、ビートに合わせたシャープでメリハリのある動きによって健康になり、強くなやかな美しい体をつくる。

～をフィジカル・フィットネスと捉えて、全てのプログラムを動く。

《授業時間外学習》

毎回の授業についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価(20%)、実技テスト(80%)の割合で評価する。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものを使用する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、種目選択などの説明
2	ウォーミングアップ	リズムにのって動きになれる・フォークダンス
3	スタートの体操	基本的な動きをリズムカルにバランスよく行う動く
4	全身の強化	Running・エクササイズ・エアロビック体操
5	背腹の強化	背と腹を中心に動く・フォークダンス
6	柔軟性を高める	ストレッチング・フォークダンス
7	パワーアップ	変化に富んだ動きをリズムカルに正しく行う・フォークダンス
8	クーリングダウン	リラックスをする動き
9	体力をつける	～ Repeat・フォークダンス
10	柔軟性を高める	～ Repeat・フォークダンス
11	腹筋力を高める	～ Repeat・フォークダンス
12	背筋力を高める	～ Repeat・フォークダンス
13	作品の創作	グループ別に好きなジャンルの曲に振り付けをし練習する
14	作品の創作	グループ別に好きなジャンルの曲に振り付けをし練習する
15	作品の発表会	グループ別に発表をし評価する

科目名	健康・スポーツ科学（実技）	科目ナンバリング	C1011L 010
担当者氏名	宮川 和三		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力		

《授業の概要》

スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成する能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習しスポーツを正しく実践する能力を身につける。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考図書》

- 『からだロジック入門』奈良女子大学体育学教室（大修館）
- 『スポーツスキルの科学』宮下充正著（大修館）
- 『筋肉はエンジンである。』宮下充正著（大修館）

《授業の到達目標》

授業の進め方は、球技の中で特にバレーボールを取り上げ、豊かなライフステージを形成するための能力を身につける。

《授業時間外学習》

毎回の授業内容を再確認し、不明な点は質問するなり自分で調べたことを指示する。

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価（20%）、実技テスト（80%）の割合で評価する。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものを使用すること。携帯電話持込禁止。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、種目選択などの説明を理解する。
2	パス、アタック	オーバーハンド、アンダーハンド、アタックを体得する。
3	アタック、サーブ	アタック、サーブを体得する。
4	アタック、サーブ、レシーブ	パス、アタック、サーブ、サーブレシーブを体得する。
5	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
6	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
7	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
8	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
9	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
10	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
11	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
12	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
13	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
14	ゲーム、学習のまとめ	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
15	ゲーム、学習のまとめ	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（実技）	科目ナンバリング	C1012L 011
担当者氏名	徳田 泰伸		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力		

《授業の概要》

スポーツの実践を通してコミュニケーション力および自己のライフステージや心身の状態に適した健康的なライフスタイルを形成する力を身につける。

《テキスト》

テキストは使用しない。

《参考図書》

「スポーツスキルの科学」宮下充正 大修館
 「からだロジック入門」宮下充正 大修館
 「スポーツ上達の科学」八木一正 大河出版

《授業の到達目標》

テニスの基礎技術の修得及びゲームを通してスポーツの真の楽しさを共有することができる。

《授業時間外学習》

・授業で紹介するストレッチを週3日程度実践し、翌週に臨むよう心掛けてほしい。

《成績評価の方法》

・技術点50%、取り組む姿勢50%とする。

《備考》

・医者から運動制限を指示されている場合は事前に申し出てください。
 ・技術習得状況によって内容を変更する場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・受講上の注意事項 ・種目選択
2	ボレーの技術	・ボレーの技術要素および要領
3	ボレーの技術および球出し	・球出しの要領を学び2人でボレーの練習ができるようになる。
4	ボレーの技術および球出し	・2人のボレー練習
5	ボレーとフォアハンドストローク	・フォアハンドストロークの要領 ・2人のフォアハンドストロークとボレーのラリー練習
6	ボレーとフォアハンドストローク	・フォアハンドストロークの要領 ・2人のフォアハンドストロークとボレーのラリー練習
7	サーブとレシーブ	・サーブとレシーブの要領
8	ミニゲーム	・ミニコートでのゲーム
9	ゲーム	・ゲーム(ダブルス)の進め方 ・2人の基本的な動き
10	ゲーム	ゲームの各場面における対処法
11	ゲーム	ゲームの各場面における対処法
12	ゲーム	ゲームの各場面における戦術および対処法
13	ゲーム	ゲームの各場面における戦術および対処法
14	ゲーム	ゲームの各場面における戦術および対処法
15	まとめ	技術の自己および他者評価を通して技術課題を把握する。

科目名	健康・スポーツ科学（実技）	科目ナンバリング	C1012L 011
担当者氏名	井上 眞美子		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力		

《授業の概要》

スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容で生活の中に取り入れ豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につける。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）『からだロジック入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

動きを上手に洗練させていくことを楽しむのが目的です。音楽に合わせたはずみ動作が多く、ビートに合わせたシャープでメリハリのある動きによって健康になり、強くしなやかな美しい体をつくる。～をフィジカル・フィットネスと捉えて、全てのプログラムを動く。

《授業時間外学習》

毎回の授業についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価(20%)、実技テスト(80%)の割合で評価する。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものを使用する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、種目選択などの説明
2	ウォーミングアップ	リズムにのって動きになれる・フォークダンス
3	スタートの体操	基本的な動きをリズムカルにバランスよく行う動く
4	全身の強化	Running・エクササイズ・エアロビック体操
5	背腹の強化	背と腹を中心に動く・フォークダンス
6	柔軟性を高める	ストレッチング・フォークダンス
7	パワーアップ	変化に富んだ動きをリズムカルに正しく行う・フォークダンス
8	クーリングダウン	リラックスをする動き
9	体力をつける	～ Repeat・フォークダンス
10	柔軟性を高める	～ Repeat・フォークダンス
11	腹筋力を高める	～ Repeat・フォークダンス
12	背筋力を高める	～ Repeat・フォークダンス
13	作品の創作	グループ別に好きなジャンルの曲に振り付けをし練習する
14	作品の創作	グループ別に好きなジャンルの曲に振り付けをし練習する
15	作品の発表会	グループ別に発表をし評価する

科目名	健康・スポーツ科学（実技）	科目ナンバリング	C1012L 011
担当者氏名	宮川 和三		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力		

《授業の概要》

スポーツの実践を通し、自己のライフステージや心身の状態に適した内容を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成する能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習しスポーツを正しく実践する能力を身につける。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考図書》

- 『からだロジック入門』奈良女子大学体育学教室（大修館）
- 『スポーツスキルの科学』宮下充正著（大修館）
- 『筋肉はエンジンである。』宮下充正著（大修館）

《授業の到達目標》

授業の進め方は、球技の中で特にバレーボールを取り上げ、豊かなライフステージを形成するための能力を身につける。

《授業時間外学習》

毎回の授業内容を再確認し、不明な点は質問するなり自分で調べたことを指示する。

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価（20%）、実技テスト（80%）の割合で評価する。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、種目に応じてその場に適したものをを使用すること。携帯電話持込禁止。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、種目選択などの説明を理解する。
2	パス、アタック	オーバーハンド、アンダーハンド、アタックを体得する。
3	アタック、サーブ	アタック、サーブを体得する。
4	アタック、サーブ、レシーブ	パス、アタック、サーブ、サーブレシーブを体得する。
5	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
6	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
7	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
8	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
9	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
10	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
11	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
12	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
13	ゲーム	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
14	ゲーム、学習のまとめ	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。
15	ゲーム、学習のまとめ	パス、サーブ、ゲーム（リーグ戦） 試合などの進め方を体得する。

平成 27 (2015) 年度入学者

学科教育科目

平成27年度(2015年度) 学年暦〔I期〕

27年	日		月		火		水		木		金		土	
	5		6		7		8		9	① I期授業開始	10	①		4
4月	12		13	①	14	①	15	①	16	②	17	②		18
	19		20	②	21	②	22	②	23	③	24	③		25
	26		27	③	28	③	29	昭和の日	30	④	1	④		2
	3	憲法記念日	4	みどりの日	5	こどもの日	6	振替休日	7	③ 水曜日科目授業日	8	⑤		9
	10		11	④	12	④	13	④	14	⑤	15	⑥		16
5月	17		18	⑤	19	⑤	20	⑤	21	⑥	22	⑦		23
	24		25	⑥	26	⑥	27	⑥	28	⑦	29	⑧		30
	31		1	⑦	2	⑦	3	⑧	4	⑧	5	⑨		6
	7		8	⑧	9	⑧	10	倉立記念日	11	⑨	12	⑩		13
6月	14		15	⑨	16	⑨	17	⑨	18	⑩	19	⑪		20
	21		22	⑩	23	⑩	24	⑩	25	⑪	26	⑫		27
	28		29	⑪	30	⑪	1	⑪	2	⑫	3	⑬		4
	5		6	⑫	7	⑫	8	⑫	9	⑬	10	⑭		11
7月	12		13	⑬	14	⑬	15	⑬	16	⑭	17	⑮		18
	19		20	海の日	21	⑭	22	⑭	23	⑮	24	⑭	月曜日科目授業日	25
	26		27	⑮	28	⑮	29	⑮	30	補講日	31	補講日		1
	2		3	補講日	4	補講日	5	補講日	6		7			8
	9		10		11		12		13		14			15
8月	16		17		18		19		20		21			22
	23		24		25		26		27		28			29
	30		31		1		2		3		4			5
9月	6		7		8		9		10		11			12

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

平成27年度(2015年度) 学年暦〔Ⅱ期〕

27年	日		月		火		水		木		金		土	
9月	6	7		9	10						11 ①	二期授業開始	12 ①	月曜日科目授業日
	13	14 ②		16 ①	17						18 ②		19	
	20	21	敬老の日	23	秋分の日	24 ②					25 ③		26	
10月	27	28	保育所見学観察実習	30	保育所見学観察実習	1	保育所見学観察実習	2	保育所見学観察実習	3	保育所見学観察実習	10	保育所見学観察実習	17
	4	5	保育所見学観察実習	7	保育所見学観察実習	8	保育所見学観察実習	9	保育所見学観察実習	16 ④				
	11	12	体育の日	14 ②		15 ③					23 ⑤			
	18	19 ③		21 ③		22 ④					30 ⑥			
	25	26 ④		28 ④		29 ⑤	月曜日科目授業日	6 ⑦			7 ⑥			
11月	1	2 ⑥		4 ⑥		3	文化の日	5 ⑤			13	大学祭準備	14	大学祭
	8	9 ⑦		11 ⑦		17	幼稚園見学観察実習	18	幼稚園見学観察実習	20	幼稚園見学観察実習	21	幼稚園見学観察実習	
	15	16	幼稚園見学観察実習	18	幼稚園見学観察実習	24 ⑧		25 ⑧		27 ⑧			28 ⑧	木曜日科目授業日
	22	23	勤労感謝の日	2		3 ⑨		2 ⑨		4 ⑨			5 ⑨	月曜日科目授業日
	29	30 ⑧		8 ⑩		15 ⑪		16 ⑫		18 ⑪			19	
12月	6	7 ⑩		9 ⑩		22 ⑫	天皇誕生日	23	24 ⑬	月曜日科目授業日	25 ⑫		26	
	13	14 ⑪		16 ⑫		29		30	31		1	元日	2	
	20	21 ⑫		23		5		6 ⑬	7 ⑫		8 ⑬		9	
	27	28		30		12 ⑬		13 ⑭	14 ⑬		15	センター試験準備	16	センター試験
	3	4		5		19 ⑭		20 ⑮	21 ⑭		22 ⑭		23	
28年 1月	10	11	成人の日	13 ⑭		26 ⑮		27	28 ⑮		29 ⑮		30	
	17	18 ⑭		17		2		3	4	施設観察参加実習	5	施設観察参加実習	6	施設観察参加実習
	24	25 ⑮		26 ⑮		9		10	11	建国記念の日	12	施設観察参加実習	13	施設観察参加実習
	31	1	施設観察参加実習	2	施設観察参加実習	3	施設観察参加実習	10	17	25	4	施設観察参加実習	5	施設観察参加実習
	7	8	施設観察参加実習	9	施設観察参加実習	16		23	24	2	3	4	5	
2月	14	15		16		8		9	10		11		12	
	21	22	施設観察参加実習 (~3/26)	23		15		16	17		18		19	
	28	29		1		8		9	10		11		12	
	6	7		8		15		16	17		18		19	
	13	14		15		22		23	24		25		26	
3月	20	21	春分の日	22		29		30	1		4		5	
	27	28		29		8		9	10		11		12	
				15		22		23	24		25		26	
				22		29		30	1		4		5	

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

カリキュラム年次配当表

保育科第一部 平成27年度（2015年度）入学者対象

授業科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当(数字は週当たり授業時間)				備考	ページ	
				必修	選択			1年		2年				
								I	II	I	II			
学	音楽教育A	C1011SG G001	演習	1				2					39	
	音楽教育B	C1012S◆○002	演習	1	◆	○		2					40	
	音楽教育C	C1021S-○003	演習	1		○				2				
	音楽教育D	C1022S-○004	演習	1		○					2			
	器楽A	C1011S◆●005	演習	1	◆	●		2					41	
	器楽B	C1012S◆○006	演習	1	◆	○			2				42	
	造形A	C1011SG G007	演習	1				2					43～44	
	造形B	C1012S◆○008	演習	1	◆	○			2				45～46	
	幼児体育A	C1011SG G009	演習	1				2					47	
	幼児体育B	C1012S◆○010	演習	1	◆	○			2				48	
科	算数		講義	2	◇							不開講		
	生活概論		講義	2	◇							不開講		
	子どもの保健ⅠA	C1011S-●013	講義	2		●		2					49	
	子どもの保健ⅠB	C1012S-●014	講義	2		●			2				50	
	子どもの保健Ⅱ	C1021S-●015	演習	1		●				2				
	子どもの食と栄養A	C1021S-●016	演習	1		●				2				
	子どもの食と栄養B	C1022S-●017	演習	1		●					2			
	家庭支援論	C1022S-●018	講義	2		●					2			
	社会福祉	C1021SG G019	講義	2						2				
	相談援助	C1022S-●020	演習	1		●					2			
教	児童家庭福祉	C1011S-●021	講義	2		●		2					51	
	教育原理	C1021SG G022	講義	2						2				
	保育原理A	C1011SG G023	講義	2				2					52	
	保育原理B	C1022S-○024	講義	2		○					2			
	社会的養護	C1012S-●025	講義	2		●			2				53	
	保育相談支援	C1022S-●026	演習	1		●					2			
	教育実習	C1011S◆-027	実習	5	◆					5			54	
	保育実習Ⅰ	C1011S-●028	実習	4		●		4					55～56	
	保育実習指導Ⅰ	C1011S-●029	演習	2		●		2					57～58	
	保育実習Ⅱ	C1021S-○030	実習	2		○					2			
育	保育実習指導Ⅱ	C1021S-○031	演習	1		○					1			
	保育実習Ⅲ	C1021S-○032	実習	2		○					2			
	保育実習指導Ⅲ	C1021S-○033	演習	1		○					1			
	保育の心理学Ⅰ	C1011SG G034	講義	2				2					59	
	保育の心理学Ⅱ	C1021S-●035	演習	1		●				2				
	教育心理学	C1021S◆-036	講義	2	◆					2				
	児童心理学	C1012S◆○037	講義	2	◆	○			2				60	
	青年心理学	C1022S-○038	講義	2		○					2			
	臨床心理学	C1012S-○039	演習	2		○			2				☆	61
	教育制度論	C1021S◆-040	講義	2	◆						2			
科	教師・保育者論	C1012SG G041	講義	2						2			62	
	保育課程総論	C1011SG G042	講義	2				2					63	
	保育内容総論	C1011S◆●043	演習	1	◆	●		2					64	
	保育内容・健康	C1021S◆●044	演習	2	◆	●				2			☆	
	保育内容・人間関係	C1012S◆●045	演習	2	◆	●			2				☆	65
	保育内容・環境	C1021S◆●046	演習	2	◆	●				2			☆	
	保育内容・言葉	C1012S◆●047	演習	2	◆	●			2				☆	66
	保育内容・表現A	C1021S◆●048	演習	2	◆	●				2			☆	
	保育内容・表現B	C1012S◆●049	演習	2	◆	●			2				☆	67
	保育方法論	C1012S◆-050	講義	2	◆				2					68
目	社会的養護内容	C1021S-●051	演習	1		●				2				
	乳児保育A	C1011S-●052	演習	1		●		2					69	
	乳児保育B	C1022S-●053	演習	1		●					2			
	障害児保育A	C1012S-●054	演習	1		●			2				70	
	障害児保育B	C1022S-●055	演習	1		●					2			
	教育相談	C1022S◆○056	講義	2	◆	○					2			
	保育・教職実践演習(幼稚園)	C1022S◆●057	演習	2	◆	●					2			☆

(注意) ◆印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必須科目を表す。
◇印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。

●印は、保育士資格取得のための必須科目を表す。
○印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。

※備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《学科教育科目》

科目名	音楽教育 A	科目ナンバリング	C1011SG G001
担当者氏名	田中 敬子		
授業方法	演習	単位・必修	1・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

保育現場で音楽活動を行うにあたっては、まず楽譜に書かれている内容が理解できることが必須です。本授業では音楽の基礎である音楽理論を学びます。

《テキスト》

『やさしい楽典』（ドレミ楽譜出版社）
『やさしく弾けるピアノ伴奏 保育のうた12か月』（新星出版社）
『標準バイエルピアノ教則本』（全音楽譜出版社）

《参考図書》

その他、資料等は必要に応じて担当教員から指示・配布します。

《授業の到達目標》

音楽理論を理解し、楽譜を理解して演奏できるようになる。
コードネームを見て伴奏付けができる。
律動や保育現場での音楽活動に必要なリズムが理解できる。
子供の声の高さに合わせて移調ができる。
初見で歌ったり、演奏したりできる。

《授業時間外学習》

【復習】毎回の授業が理解できないと次の授業で更に理解できなくなります。
必ず前回の授業内容を復習し理解したうえで毎回の授業を受けること。

《成績評価の方法》

平常点 30%（授業中に指示する課題）
筆記試験 70%

《備考》

1. 保育者として相応しいマナーを身に付けるため、授業を受ける前、受けた後の挨拶を徹底します。
2. 大きめ（小学生用）の五線ノートを持ってくること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	楽譜の基礎	五線、音部記号、音名（イタリア語、日本語、英語）、音高、 \sharp 、異名同音課題の指示（理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います）
2	拍子、音の長さ	拍子、4分の4拍子、4分の3拍子、4分の2拍子、小節、反復記号、3連符、リズム打ち、弱起の曲、タイとスラー、シンコペーション
3	拍子、音の長さ	拍子、8分の6拍子、8分の3拍子、付点音符、リズム打ち、リズム総復習課題の指示（理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います）
4	音階、八長調、記号	音階、八長調の簡単なメロディーの初見奏、強弱記号、奏法記号課題の指示（理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います）
5	主要三和音とコードネーム（八長調）	C 、 F 、 G 、 $\text{G}7$ の理解、和音の基本形と転回形、カデンツ（和声）
6	主要三和音とコードネーム（八長調）	八長調の初見奏（和音あり、両手）、コードネーム付きメロディー譜で伴奏付け課題の指示（理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います）
7	主要三和音とコードネーム（へ長調）	へ長調の音階、 F 、 B 、 C 、 $\text{C}7$ の理解、へ長調の初見奏
8	主要三和音とコードネーム（ト長調）	ト長調の音階、 G 、 C 、 D 、 $\text{D}7$ の理解、ト長調の初見奏課題の指示（理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います）
9	三和音の種類、その他のコードネーム	長三和音、短三和音、増三和音、減三和音とコードネーム、2度、3度の音程の理解
10	イ短調	イ短調の自然短音階、和声短音階、旋律短音階、イ短調の主要三和音とコードネーム課題の指示（理解確認を器楽Aの個人レッスン時に行います）
11	調について	調号の理解、 C 系の調、 F 系の調
12	移調	調の理解の確認、移調の方法、移調奏
13	復習	音、拍子、リズムの復習
14	復習、伴奏法	調、主要三和音、コードネームの復習、分散和音などの伴奏法
15	まとめ	理解の確認

《学科教育科目》

科目名	音楽教育 B	科目ナンバリング	C1012S 002
担当者氏名	井上 朋子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

音楽教育Bでは、身体や楽器を使った音・音楽遊び、様々な楽器によるアンサンブル演奏を通して、保育者に必要な音楽的表現力及び実践力を身に付けます。また、学生コンサートに向けて、合奏練習を行う中で合奏指導法を習得します。

《テキスト》

『やさしく弾けるピアノ伴奏 保育のうた12か月』（新星出版社）

《参考図書》

その他、資料等は必要に応じて配布します。

《授業の到達目標》

○楽器の基礎的な知識及び奏法を理解し、演奏することができる。

身体や楽器を使った音・音楽遊び、アンサンブル、合奏の指導ができる。

○保育者自身の音楽表現力及び実践力を向上させる。

《授業時間外学習》

授業で取り扱った曲は、各自復習しておくこと。

《成績評価の方法》

試験70%

平常点（授業中に指示する課題）30%

《備考》

保育者として相応しいマナーを身に付けるため、授業を受ける前、受けた後の挨拶を徹底します。学生コンサートの日程により、授業内容の順番を変更することがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	リズム楽器	リズム楽器の基礎的知識・奏法・活用法（カスタネット、鈴、タンブリン） リズム合奏（3歳児用）
2	リズム楽器	リズム楽器の基礎的知識・奏法・活用法（トライアングル） リズム合奏（4歳児用）
3	リズム楽器	リズム楽器の基礎的知識・奏法・活用法（ギロ、ウッドブロック、マラカス） リズム合奏（5歳児用）
4	リズム楽器 合奏	リズム楽器の基礎的知識・奏法・活用法（小太鼓、大太鼓等） 学生コンサートに向けての合奏練習
5	リズム楽器 合奏	保育現場で使われているリズム楽器の基礎的知識・奏法・活用法（まとめ） 学生コンサートに向けての合奏練習
6	民族楽器 合奏	様々な民族楽器を使った音・音楽遊び 学生コンサートに向けての合奏練習
7	ボディパーカッション 合奏	ボディパーカッション 学生コンサートに向けての合奏練習
8	紙・新聞紙を使って 合奏	紙を使った音・音楽遊び、新聞紙アンサンブル 学生コンサートに向けての合奏練習
9	指揮法 合奏	2、3、4拍子の指揮法。2、3、4拍子の拍子感を言葉や身体を使って体得する。 学生コンサートに向けての合奏練習
10	さまざまなアンサンブル	ボイスアンサンブル ドレミパイプを使ったアンサンブル
11	手作り楽器	楽器づくりと絵楽譜づくり
12	編曲・アンサンブル	合奏譜の書き方。子どもの歌をリズム合奏曲へ編曲する。
13	編曲・アンサンブル	編曲した曲をグループで実際に演奏する。
14	編曲・アンサンブル	グループ発表
15	まとめ	理解度の確認

《学科教育科目》

科目名	器楽 A	科目ナンバリング	C1011S 005
担当者氏名	井上 朋子、宋 容希、田村 幸造、津田 安紀子、藤田 浩恵、小林 未季、佐藤 裕子、森本 満穂子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

個人レッスン（ピアノ）と集団レッスン（歌）を組み合わせで行い、保育現場における音楽活動の基礎技能を身に付けます。個人レッスンでは、ピアノ曲のレパートリーを増やす他、弾き歌いができるようにします。一方、集団レッスンでは、弾き歌いの歌唱に関する部分を学習します。

《テキスト》

『標準バイエルピアノ教則本』（全音楽譜出版社）、
 『やさしく弾けるピアノ伴奏 保育のうた12か月』（新星出版社）
その他、進度に合わせた教材や追加教材も活用します。
《参考図書》
 『ブルグミュラー 25の練習曲集』（全音楽譜出版社）
 『ソナチネアルバム 1』（全音楽譜出版社）

《授業の到達目標》

- バイエル70番以上の曲を弾くことができる。
- 基礎的な歌唱技能を身に付けて、弾き歌いをすることができる。
- ピアノ曲、歌の曲のレパートリーを多くつくる。

《授業時間外学習》

各自毎日十分な練習を行い、完成度を高くしてレッスンを受けるようにすること。

《成績評価の方法》

「グレード試験100%」。グレード試験の最終結果に基づき、点数化します。器楽Aはグレード2が合格しないと単位が出ません。*授業時間外に別途実施されるグレード試験も必要に応じて任意で受けること（グレード試験についてはオリエンテーション時に説明します。）

《備考》

保育者として相応しいマナーを身に付けるため、授業を受ける前、受けた後の挨拶を徹底します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の説明、グレード試験の説明、担当教員との顔合わせ
2	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
3	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
4	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
5	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
6	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
7	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
8	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
9	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
10	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
11	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
12	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
13	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
14	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
15	期末発表	期末発表

《学科教育科目》

科目名	器楽B	科目ナンバリング	C1012S 006
担当者氏名	田中 敬子、宋 容希、田村 幸造、津田 安紀子、藤田 浩恵、小林 未季、佐藤 裕子、森本 満穂子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

器楽Aに引き続き、個人レッスン（ピアノ）と集団レッスン（歌）を組み合わせて行い、保育現場における音楽活動の基礎技能をさらに高めます。

個人レッスンではピアノ曲のレパートリーを増やす他、弾き歌いができるようにします。集団レッスンでは、弾き歌いの歌唱に関する部分を学習します。

《テキスト》

器楽Aと同じ
 ピアノが上達した場合は、バイエル ブルグミュラー ソナチネと進む（担当教員の指示を受けること）

《参考図書》

『標準バイエルピアノ教則本』（全音楽譜出版社）
 『ブルグミュラー25の練習曲集』（全音楽譜出版社）
 『ソナチネアルバム1』（全音楽譜出版社）

《授業の到達目標》

- ブルグミュラー程度以上の楽曲が弾けるようになる。
- 弾き歌いの伴奏が余裕を持ってできるようになる。
- 表現豊かな歌唱ができるようになる。
- ピアノ曲、歌の曲のレパートリーを多く作る。

《授業時間外学習》

各自毎日十分な練習を行い、完成度を高くしてレッスンを受けるようにすること。

《成績評価の方法》

「グレード試験100%」。グレード試験の最終結果に基づき点数化します。器楽Bはグレード5が合格しないと単位が出ません。*授業時間外に別途に実施されるグレード試験も、必要に応じて任意で受けること。（グレード試験についてはオリエンテーション時に説明します。）

《備考》

保育者として相応しいマナーを身に付けるため、授業を受ける前、受けた後の挨拶を徹底します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業内容、グレード制の説明、担当教員との顔合わせ
2	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
3	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
4	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
5	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
6	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
7	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
8	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
9	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
10	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
11	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
12	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
13	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
14	個々の能力に応じたピアノと歌のレッスン	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】弾き歌いの歌唱部分を充実させるレッスン
15	期末発表	期末発表

《学科教育科目》

科目名	造形 A	科目ナンバリング	C1011SG G007
担当者氏名	柳楽 節子		
授業方法	演習	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

子どもの成長において造形遊びは重要な要素の一つです。創造性豊かな人を育むための大切な役割を担っているといえます。造形遊びの楽しさを子ども達に伝えるには、保育者自身が造形の楽しさを知っていなければなりません。この演習では造形の基礎となる描写力、色彩の知識、画面構成力を養うためにさまざまな課題を準備し、受講生自身が作品制作に打ち込みながら造形の楽しさを発見できることをめざします。

《授業の到達目標》

子どもの心の動きを感じ取りながら、造形遊びを楽しいものとして伝えることができる。体験したことを絵に描く場合にそれぞれの子どもに対し、適切な言葉をかけることができる。造形遊びのための多様な材料や用具をよく知り、正しく使うことができる。

《成績評価の方法》

提出作品（100％）で成績評価を行います。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

授業内容に応じて紹介します。

《授業時間外学習》

描写のための画材や色面構成に使用する雑誌等、事前に連絡のあった準備物は時間外に調査・購入すること。

《備考》

授業の後片付けは、指示に従って丁寧に行うこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教員の自己紹介 授業計画の説明	担当教員の作品制作活動と造形に対する考え方を知り、これからの授業計画を理解する。
2	描写-1（植物）	観察したものを描写するための視点を理解し、鉛筆の使い方と効果を体験する。
3	描写-2（植物）	観察したものを描写するための視点を理解し、鉛筆の使い方と効果を体験する。
4	描写-3（立方体）	シルクスクリーンで立方体の展開図を刷り、組み立てた後、鉛筆でデッサンする。立体描写・遠近法の考え方を理解する。
5	描写-4（立方体）	画面構成と線・面の捉え方を理解し、描く事を体験する。
6	描写-5（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方と効果、画面構成を体験する。
7	描写-6（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方と効果、画面構成を体験する。
8	描写-7（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方と効果、画面構成を体験する。
9	描写-8（自画像）	鏡を使い、自身の顔を描くことで人物の描写、水彩絵の具の使い方と効果、画面構成を体験する。
10	色彩の知識	テキストを使い説明を受けた後、カラーペーパーを貼り、色彩の基礎的な知識を理解する。
11	色面構成-1	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
12	色面構成-2	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
13	色面構成-3	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
14	色面構成-4	課題に添って色面構成を行い、構成の基本的な知識と色彩の効果を体験し、理解する。
15	色面構成作品集制作	作品集としてまとめ、表紙を付けて提出する。作品集として残す意味を理解する。

《学科教育科目》

科目名	造形 A	科目ナンバリング	C1011SG G007
担当者氏名	岩見 健二		
授業方法	演習	単位・必修	1・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

子どもが絵を描きものを創るという行為は、とりもなおさず[心]を造形することであり、成長過程の中で重要な位置を占めている。子どもの[心]を的確に受け止め、生き生きと創作活動に打ち込めるようにするには、まず保育者自身が豊かな感性を持たなければならない。その為にも保育者が創作体験を持っていることが大切な要素になる。楽しく創作体験を重ねることで、材料経験を豊富にし、感覚を磨いてほしい。

《授業の到達目標》

自らの感性を磨くことにより、子どもの[心]を的確に受け止め、感性豊かな子どもを育てることが出来る。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

適宜指示する。

《授業時間外学習》

毎回の授業で得られた造形体験を各自発展させ、主体的に多くの作品を創作してほしい。

《成績評価の方法》

・作品評価（100％）

《備考》

特にない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	クロッキー	短時間に 線だけで人物の動きを表現することができる。
3	鉛筆デッサン	遠近・立体感・明暗・質感などの要素を理解し、正確に物体を表現することができる。
4	鉛筆デッサン	遠近・立体感・明暗・質感などの要素を理解し、正確に物体を表現することができる。
5	鉛筆デッサン	遠近・立体感・明暗・質感などの要素を理解し、正確に物体を表現することができる。
6	水彩画（静物）	色彩豊かに静物を表現することができる。
7	水彩画（静物）	色彩豊かに静物を表現することができる。
8	水彩画（静物）	色彩豊かに静物を表現することができる。
9	水彩画（静物）	色彩豊かに静物を表現することができる。
10	色彩指導	色彩の三属性（色相・明度・彩度）を理解し、色彩についての科学的な知識を身につける。
11	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
12	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
13	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
14	色面構成	色彩それぞれの特性及び美しさを理解し、感性豊かにデザインすることができる。
15	子供の絵の見方	実際の子供の絵を鑑賞し、子供の感性をのびのびと伸ばすにはどのような助言が望ましいかを理解することができる。

《学科教育科目》

科目名	造形 B	科目ナンバリング	C1012S 008
担当者氏名	柳楽 節子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

この演習では、造形の基礎から応用へと発展させる課題を設定し、受講生が作品制作に打ち込むことによって、造形力と柔軟な発想力を養うことを目標とします。さまざまな素材と技法を体験し、考え、試みることで、造形あそびへの興味と理解を深め、受講生がやがて保育の現場に役立てることができる経験となる授業をめざします。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

授業の必要に応じて紹介します。

《授業の到達目標》

自然や日常生活のなかに造形のヒントを探し出す視点が持てる。子どもの発達段階に応じた造形遊びの計画を立てることができ、その場に必要材料・用具を準備することができる。子どもの成長と造形遊びに関連する情報収集を自主的に行うことができる。

《授業時間外学習》

各授業時に、必要な事前準備及び授業後の補足作業について指示を行います。

《成績評価の方法》

提出作品（100％）で成績評価を行います。

《備考》

事前に連絡を受けた、授業に必要な準備物は必ず持参すること。授業の準備と後片付けは確実にすること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業計画説明	授業計画と目標を理解する。
2	割りピン人形制作－1	キャラクターを作り出すために、イメージを段階的に形にする方法を理解する。
3	割りピン人形制作－2	画用紙とトータルカラーを使い、2体の人形制作を計画し、実行することができる。
4	割りピン人形制作－3	画用紙とトータルカラーを使い、2体の人形を制作することができる。
5	割りピン人形制作－4	画用紙とトータルカラーと割りピンを使い、2体の人形を制作することができる。
6	割りピン人形制作－5	2体の人形による展示効果の説明を理解し、実行することができる。
7	立体作品制作－1	園における季節行事の意味と目的を理解し、制作の計画を立てることができる。イメージからラフスケッチを作成し、プランを絞り込むことができる。
8	立体作品制作－2	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
9	立体作品制作－3	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
10	立体作品制作－4	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
11	立体作品制作－5	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
12	立体作品制作－6	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。
13	立体作品制作－7 スクリーンプリント	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。スクリーンプリントの原画を作成することができる。
14	立体作品制作－8 スクリーンプリント	プランに添って材料用具を準備し、制作を自主的に進めることができる。製版と刷りのプロセスを体験する。
15	作品提出とまとめ	すべての作品を提出する。園における造形についての考え方と役割について、理解することができる。

《学科教育科目》

科目名	造形 B	科目ナンバリング	C1012S 008
担当者氏名	岩見 健二		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

とらわれない心を持つ幼児の表現を理解するには、自らも豊かな感性を磨かなければならない。身近な材料を駆使し、既成概念にとらわれない斬新な作品を制作してほしい。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考図書》

適宜紹介。

《授業の到達目標》

自らの感性を磨くことにより、子どもの[心]を的確に受け止め、感性豊かな子どもを育てることが出来る。

《授業時間外学習》

毎回の授業で得られた造形体験を各自発展させ、主体的に多くの作品を創作してほしい。

《成績評価の方法》

・作品評価（100%）

《備考》

特になし。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	壁画制作	明るく楽しい保育室にする為、子どもたちと保育者が協力して制作することを念頭に個性豊かな半立体壁画を制作することができる。
3	壁画制作	明るく楽しい保育室にする為、子どもたちと保育者が協力して制作することを念頭に個性豊かな半立体壁画を制作することができる。
4	壁画制作	明るく楽しい保育室にする為、子どもたちと保育者が協力して制作することを念頭に個性豊かな半立体壁画を制作することができる。
5	壁画制作	明るく楽しい保育室にする為、子どもたちと保育者が協力して制作することを念頭に個性豊かな半立体壁画を制作することができる。
6	壁画制作	明るく楽しい保育室にする為、子どもたちと保育者が協力して制作することを念頭に個性豊かな半立体壁画を制作することができる。
7	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
8	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
9	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
10	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
11	とびだす絵本制作	飛びだす仕組みを理解し、見る者に感動を与えるようなユニークで楽しい絵本を制作することができる。
12	指人形制作	紙粘土で立体を造形することを学び、保育現場で子供たちに楽しく話しかける人形を制作することができる。
13	指人形制作	紙粘土で立体を造形することを学び、保育現場で子供たちに楽しく話しかける人形を制作することができる。
14	指人形制作	紙粘土で立体を造形することを学び、保育現場で子供たちに楽しく話しかける人形を制作することができる。
15	指人形制作	紙粘土で立体を造形することを学び、保育現場で子供たちに楽しく話しかける人形を制作することができる。

《学科教育科目》

科目名	幼児体育 A	科目ナンバリング	C1011SG G009
担当者氏名	宮川 和三		
授業方法	演習	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

幼児期の発育発達の特徴を踏まえ、幼児の各年齢に応じた遊びや援助法を考える。また、これを保育現場において、応用実践できる能力の習得を目指す。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

幼稚園、保育所教育に必要な体操、スポーツ、レクリエーション種目及び集団行動を遊びゲームを通して子どもに身につかせる為の研究を主なねらいとし、幼児期の特徴を踏まえ、実技の研修からそれぞれにふさわしい指導法を習得する。

《参考図書》

『健康』原田碩三他著（エデケーション）
 『体操ハンドブック』浜田靖一他著（ビジネス出版）
 『幼児期の運動遊びの指導と援助 - 鉄棒・跳び箱・マットあそびの補助を中心に』菊池秀範著（萌文書林）

《授業時間外学習》

毎回の授業内容を再確認し、不明な点は質問するなり自分で調べられることを指示する。

《成績評価の方法》

各種目毎に実技試験を実施。
 毎回の授業毎の評価（20%）、実技テスト（80%）の割合で評価する。

《備考》

授業計画については、進行状況に応じて適宜変更することがある。学生同士の協調性を求め、実技を主体とする。服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。携帯電話持込禁止。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児期の発育発達	発育発達の特徴について理解する。
2	マットを使った運動	匍匐、バランス運動と援助法を体得する。
3	マットを使った運動	匍匐、バランス、ジャンプ運動と援助法を体得する。
4	マットを使った運動	横転、前転、後転運動と援助法を体得する。
5	マットを使った運動	前転、後転、側転、倒立、開脚前転運動と援助法を体得する。
6	学習のまとめ	前転、後転、開脚前転運動の組合せを体得する。
7	跳び箱を使った運動	踏切板の蹴り、腕支持、ジャンプ運動と援助法を体得する。
8	跳び箱を使った運動	とびのり、とびおり運動と援助法を体得する。
9	跳び箱を使った運動	蹴り、腕支持、ジャンプ、横とび運動と援助法を体得する。
10	跳び箱を使った運動	開脚とび、台上前転、閉脚とび運動と援助法を体得する。
11	跳び箱を使った運動	開脚とび、台上前転、閉脚とび運動と援助法を体得する。
12	学習のまとめ	開脚とび運動（縦・横）いずれかを体得する。
13	ごっこ遊び	ごっこ遊びを体得し、具体的に説明、指導することができる。
14	ごっこ・ゲーム遊び	ごっこ・ゲーム遊びを体得し、具体的に説明、指導することができる。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容を再確認し、その具体的な成果を説明、指導することができる。

《学科教育科目》

科目名	幼児体育 B	科目ナンバリング	C1012S 010
担当者氏名	宮川 和三		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

幼児期の発育発達の特徴を踏まえ、幼児の各年齢に応じた遊びや援助法を考える。また、これを保育現場において、応用実践できる能力の習得を目指す。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

幼稚園、保育所教育に必要な体操、スポーツ、レクリエーション種目及び集団行動を遊びゲームを通して子どもに身につかせる為の研究を主なねらいとし、幼児期の特徴を踏まえ、実技の研修からそれぞれにふさわしい指導法を習得する。

《参考図書》

『健康』原田碩三他著（エデケーション）
 『体操ハンドブック』浜田靖一他著（ビジネス出版）
 『幼児期の運動遊びの指導と援助 - 鉄棒・跳び箱・マットあそびの補助を中心に』菊池秀範著（萌文書林）

《授業時間外学習》

毎回の授業内容を再確認し、不明な点は質問するなり自分で調べたことを指示する。

《成績評価の方法》

各種目毎に実技試験を実施。
 毎回の授業毎の評価（20%）、実技テスト（80%）の割合で評価する。

《備考》

授業計画については、進行状況に応じて適宜変更することがある。学生同士の協調性を求め、実技を主体とする。服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。携帯電話持込禁止。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児期の発育発達	発育発達の特徴について理解する。
2	鉄棒を使った運動	腕支持、ぶらさがり、踏み越しおり、足ぬき、ぶたの丸やき運動と援助法を体得する。
3	鉄棒を使った運動	腕支持、逆さおり、前まわりおり、倒立おり、持ちかえおり運動と援助法を体得する。
4	鉄棒を使った運動	倒立おり、足かけあがり、逆あがり運動と援助法を体得する。
5	鉄棒を使った運動	足かけあがり、逆あがり、前まわり、後まわり運動と援助法を体得する。
6	鉄棒を使った運動	足かけあがり、逆あがり、前まわり、後まわり運動と援助法を体得する。
7	学習のまとめ	足かけあがり、逆あがり、前まわり、後まわり運動のいずれかを体得する。
8	トランポリンを使った運動	あがり方、おり方、とまり方、1人・2人ジャンプ運動と援助法を体得する。
9	トランポリンを使った運動	1人・2人ジャンプ、ニードロップ、シートドロップ運動と援助法を体得する。
10	トランポリンを使った運動	ニードロップ、シートドロップ、ニードロップ連続運動と援助法を体得する。
11	トランポリンを使った運動	ジャンプ1/2、ニードロップ、シートドロップ連続運動と援助法を体得する。
12	トランポリンを使った運動	ジャンプ1/2、シートドロップ、ニードロップ、シートドロップ連続運動と援助法を体得する。
13	学習のまとめ	ジャンプ1/2、シートドロップ、ニードロップ、シートドロップ連続運動を体得する。
14	ゲーム遊び（ユニホック）	ごっこ遊びを体得し、具体的に説明、指導することができる。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容を再確認し、その具体的な成果を説明、指導することができる。

《学科教育科目》

科目名	子どもの保健 A	科目ナンバリング	C1011S - 013
担当者氏名	西村 美穂代		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

子どもの保健 Aを学ぶ意義と胎生（胎児）から青年期に至るまでの特性を理解し、胎生から子どもが健全に発育・発達・成長できるようにかかわることができるための学習であり、必要に応じてVTRを導入しながらイメージがしやすいようにする。

《テキスト》

『子どもの保健 心身の発達・健康と安全』
山崎知克 編著（建邦社）2013年11月25日

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

胎生（胎児）から青年期に至るまでの、心と身体のメカニズム、および成長発達ごとの子どもの心身の健康を保持増進するための条件や方法を理解することができる。

《授業時間外学習》

テレビ番組の小児保健と関連する番組を視聴する。
【ten! 『めばえ』よみうりテレビ 月曜日～金曜日18:52～18:57】乳幼児の特徴や親の子どもに対する想い・関わり方を感じ取り、講義中にイメージできるようにしておくこと。

《成績評価の方法》

- ・VTR視聴後に課すレポート（20％）
- ・学期末テスト（80％）

《備考》

ニュースや新聞での「子どもの健康」「子どもの事故」に関する記事を講義に取り入れることもあるので、着目しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの保健の意義	保育学に子どもの保健が欠かせないことが解り、健康な子ども像を明確にできる。
2	人の一生の中での小児期	人の一生の中での各小児期が解り、社会的広がり・自立への過程を理解することができる。
3	出生前期の子ども（胎児）	出生前期の成長発達の特徴が解り、成長・発達を保持増進する取り組みを理解することができる。
4	小児の特性	発達の方向性サイクルと大まかな運動発達の順序を理解することが出来て、説明することができる。（VTR視聴予定）
5	新生児の成長発達	新生児の形態的・機能的・精神的成長発達を理解することができる。
6	新生児の成長発達	新生児期の成長・発達を保持増進する取り組みを理解することができる。
7	乳児の成長発達	乳児期全般の成長発達と、各時期ごとの主な体と心の発達を理解することができる。
8	乳児の成長発達	7回目で学んだ『乳児期全般の成長発達と各時期ごとの主な体と心』の発達が理解できているか、VTRを視聴しながら確認する。
9	幼児の成長発達	幼児が健全に成長できるように幼児の成長発達を阻害する要因を理解することができる。
10	幼児の成長発達	幼児期前期・幼児期後期の主な養護の目的と導入方法、かかわり方のポイントが解り、理解することができる。
11	乳幼児の健康管理	乳幼児の健康管理の目的、乳児・幼児の健康状態の観察項目が解り、その観察結果が異常か正常か、が解ることができる。
12	乳幼児の身体発育の評価	乳幼児が年齢に応じて発育できているか、身体発育の評価であるカウプ指数・パーセントイル値曲線を用いて説明することができる。
13	予防接種	集団での予防接種の意義が解り説明することができ、乳幼児に関係するワクチンの特徴・ワクチンの種類と感染症が理解できる。
14	小児保健行政	乳幼児を取り巻く主な行政対策が理解できる。
15	まとめ	1回目～14回目までの学習内容がどこまで理解できているかを確認する。

《学科教育科目》

科目名	子どもの保健 B	科目ナンバリング	C1012S - 014
担当者氏名	西村 美穂代		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

子どもの保健 A で学習した乳幼児の発育・発達の特徴を想起しながら、乳幼児に起こりやすい疾患・症状・事故についての理解を深めると共に、保育者として子どもの異変時にその様子から『子どもたちの命を守る』ための的確な判断と対応が行えるようになるための学習であり、必要に応じてVTRを導入しながらイメージがしやすいように展開していく。

《テキスト》

『子どもの保健 心身の発達・健康と安全』
山崎知克 編著（建邦社）2013年11月25日

《参考図書》

その都度紹介する。

《授業の到達目標》

乳幼児特有の疾患・症状の理解ができ、その予防と対応方法及び事故に対する安全対策・事故時の対応が行え、常に『危機管理』のしかかっていることを理解することができる。

《授業時間外学習》

テレビ番組の小児保健と関連する番組を視聴する。
【NHK教育テレビ『すくすく子育て』土曜日21:00～21:29】乳幼児が病気になった時の状態を知り、その対応方法を観て授業時にその病気と対応方法が想起できるようにしておくこと。
番組テーマは、毎週異なる。

《成績評価の方法》

- ・VTR視聴後に課すレポート（20%）
- ・学期末テスト（80%）

《備考》

園児たちに『命の大切さ』を教えてほしいと願う思いから、疾患の授業では『難病に罹り死にゆく子ども』のビデオを視聴する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの疾病の特徴	発達段階ごとの病気の特徴とそれらをふまえての保育者の役割を理解する。
2	子どもに起こりやすい症状とその対応	発熱 吐き気と脱水 頭痛 咳と喘鳴 下痢と便秘 についての種類と発達段階ごとの対応が解る。
3	子どもの病気とその予防	感染症と伝染病の定義が解り『学校において予防すべき伝染病』の種類と出席停止期間の基準を理解する。
4	子どもの病気とその予防	子どもによくみられる呼吸器の病気が理解ができ、その対応・予防ができるようになる。
5	子どもの病気とその予防	子どもによくみられるアレルギー性の病気が理解ができ、その対応・予防ができるようになる。
6	子どもの病気とその予防	子どもによくみられるウイルスによる感染症とそのウイルスによる食中毒の病気が理解できて、その対応・予防ができるようになる。
7	子どもの病気とその予防	子どもによくみられる細菌による感染症とその細菌による食中毒の病気が理解でき、その対応・予防ができるようになる。
8	子どもの病気とその予防	子どもによくみられる整形外科の病気・耳鼻咽喉科の病気・皮膚の病気・泌尿器の病気の理解ができ、その対応・予防ができるようになる。
9	子どもの病気とその予防	乳幼児期によくみられやすい『こころ』の病気が理解でき、その対応・予防、及び保育者のかかわり方が解る。
10	子どもの病気とその予防	子どもによくみられる血液の病気と小児がんの病気を理解するために『白血病』に罹患した幼児のVTR視聴をして、その子どもの状態やおもいに寄り添うことができる。
11	保育所・幼稚園に備えておくべき医薬品	保育所・幼稚園での『保健室』の役割と備品、保健室に備えておく医薬品等が解る。
12	子どもの事故と安全管理、及び安全教育	子どもの事故の特徴と発達段階ごとの事故の種類・予防が解り、子どもへの安全教育は子どもの保健、養育の上で大事なことが理解できる。
13	看護と救急処置	子どもによく起こる発達段階別の事故の種類とその予防ができるようになる。
14	看護と救急処置	13回目の講義内容を想起しながらその対応ができる。（けが・やけど・出血・熱中症・異物）
15	まとめ	1回目～14回目までの学習内容が理解できているかを確認する。

《学科教育科目》

科目名	児童家庭福祉	科目ナンバリング	C1011S - 021
担当者氏名	黒澤 祐介		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷、児童家庭福祉と保育、児童家庭福祉の制度と実施体系について学習し、児童家庭福祉の現状を把握し、その課題について考察する。

《テキスト》

福田・山縣編、新・プリマーズ／保育／福祉『児童家庭福祉』、ミネルヴァ書房

《参考図書》

《授業の到達目標》

現代社会における児童家庭福祉の現状と課題について理解する。
 児童家庭福祉の歴史の変遷、制度や実施体系等について学ぶ。
 児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。

《授業時間外学習》

授業で指示する課題をこなして授業に参加すること。また、日ごろから子どもの福祉に関するニュースに積極的に関心を持ち、今日的な課題を知っておくこと。

《成績評価の方法》

筆記試験80%
 授業中のレポート課題20%

《備考》

グループワークを行いながら授業をすすめることもあるので、積極的な姿勢で受講することを期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童家庭福祉の概要	現代社会における児童家庭福祉の理念と意義について学ぶ
2	子どもの権利	子どもの権利に関する条約の特徴を概観する
3	児童家庭福祉を取り巻く現状	少子化と子どもを取り巻く福祉問題について知る
4	児童家庭福祉の歴史(1)	近代以前の日本の児童家庭福祉について概観する
5	児童家庭福祉の歴史(2)	戦後日本の児童家庭福祉について概観する
6	児童家庭福祉行政	児童家庭福祉を支える法律と行政機関を知る
7	児童家庭福祉の関連機関・施設	児童家庭福祉にかかわる機関と施設との関連について学ぶ
8	子どもの健全育成の目標	子どもの全面的な発達保障について学ぶ
9	児童厚生施設	児童館をはじめとした児童厚生施設と児童厚生員について知る
10	母子保健施策の概要	母子保健の歴史と現状について概観する
11	保育施策の概要	保育施策の現状と課題について概観する
12	社会的養護の現状	子どもの養護の体系と社会的養護サービスの内容について概観する
13	障害児福祉施策の概要	障害児の早期発見と早期療育について学ぶ
14	ひとり親家庭への福祉	ひとり親家庭に対する支援の展開と内容について学ぶ
15	学習のまとめ	児童家庭福祉についてまとめ、保育士として必要な知識を確認する(筆記試験実施)

《学科教育科目》

科目名	保育原理 A	科目ナンバリング	C1011SG G023
担当者氏名	福田 規秀		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

今の社会に必要とされる保育について、システムや法令、歴史の変遷や現代的ニーズ等を中心として真摯に考えながら、何が子どもにとっての最善の利益なのかを、社会変化やそれに伴う保育の課題を軸に考察を深めていく。学生諸君の幼い日の経験が考える原点とも言えます。その中の何が現在の自分に影響しているのか、学びながら解き明かしていきましょう。

《授業の到達目標》

自らの保育や子どもへの想いを自覚する。
 多様な角度から保育について考察し、子どもを理解することや保育のあり方について探求する中で、自らの子ども観・保育観の形成、向上を目指す。
 保育実践に必要な基礎的知識を習得する。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等（10%）と筆記試験（90%）の総合評価。課題の提出は期限内でお願いします。

《テキスト》

『新・保育原理(第2版) - すばらしき保育の世界 - (みらい 2012)』『最新保育資料集2015』森上史朗編(ミ礼ガア書房 2015)
 『保育所保育指針解説書』厚生労働省編(ルーベル館 2008)

《参考図書》

『ルーベルの生涯と思想』 荘司雅子著(玉川大学出版部1984),
 『子どもの世界をどうみるか』 津守真著(NHKブックス1987), 『セソブ・ワンダー』レイチェル・カーソ著 上遠恵子訳(新潮社 1996), 『クリティカル進化論』 道田泰司・宮元博章著秋月りす画(北大路書房 1999), 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省(ルーベル館 2008), またその他授業中に随時紹介する。

《授業時間外学習》

次回講義の予告を出来る限りで行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。講義中に取ったメモをもとに、講義内容を自分なりの方法でノートにしっかりまとめておくこと。適宜課題を出すので真面目に取り組んでください(子どもに関する新聞記事のスクラップやネットを利用した情報収集、メディアを駆使したレポート課題の提出等)。

《備考》

子どもに関し、授業で教えられるだけでなく、自分でも調べてください。また実際の子どもの観察する機会を多く持つてほしい。出席や受講態度、事前準備に気をつけること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業のオリエンテーション、保育の意義	保育とは何か
2	保育の意義を考える	なぜ保育が必要なのか
3	保育の場について知る	家庭 - 保護者の責務と限界
4	保育の場について知る	保育施設 - 社会的意義
5	保育の思想とその歴史を学ぶ	諸外国
6	保育の思想とその歴史を学ぶ	諸外国
7	保育の思想とその歴史を学ぶ	日本
8	保育の思想とその歴史を学ぶ	保育制度の成立
9	どのように保育を考え進めるべきかを考える	保育所保育指針 - 保育の原理
10	どのように保育を考え進めるべきかを考える	養護と教育・環境・発達過程・連携
11	どのように保育を考え進めるべきかを考える	子ども理解と保育観・倫理観
12	保育の内容を学ぶ	基本的な考え方・方法とは
13	保育の現状と課題	諸外国の現状
14	保育の現状と課題	保育のあした 保育制度の未来 幼保連携型認定こども園
15	まとめ	子どもへの想いを確認 基礎的知識の確認

《学科教育科目》

科目名	社会的養護	科目ナンバリング	C1012S - 025
担当者氏名	高谷 博之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

社会的養護の今日的課題と意義について学ぶ。家庭の養育機能の脆弱化が進む中、子育て支援、子どもの自立支援が重要な課題となっている。今後の社会的養護は、家庭的養護推進の方向であることを理解する。又、社会的養護実践の大きな部分を占める児童福祉施設の機能を理解すると共に、児童養護の体系の理解を深める。保育士として、子どもと向かい合い、子どもの自立を支援するための対人援助の方法を理解する。

《授業の到達目標》

- ・児童憲章、子どもの権利条約、社会的養護の基本原則と原理について理解し、説明できる。
- ・専門職としての専門性を理解し、施設実習に役立てることができる。

《成績評価の方法》

- ・筆記テスト（70%）
- ・課題レポート（30%）

《テキスト》

シリーズ福祉新時代を学ぶ『新選・児童の社会的養護原理』
神戸賢次、喜多一恵・編（株）みらい

《参考図書》

《授業時間外学習》

- ・テキストの指定箇所を読んでおくこと（予習、復習）

《備考》

- ・授業開始時に出欠の確認を行うため始業時間を厳守すること
- ・授業中の私語や携帯メール、居眠りは厳禁

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的養護の現状	子どもを取り巻く環境、社会的養護を必要としている子どもについて、児童憲章、児童福祉のキーワードについて
2	児童養護の定義、児童虐待問題	児童養護の定義について、虐待の種類、虐待の社会的背景、発生要因、虐待への対応、オレンジリボン運動について
3	SIDS、捨てられ体験	乳幼児突然死症候群の死別反応の特徴、「喪の営み」、「喪の過程」について、「捨てられ体験」からくる対人関係への影響、現実感の障害について
4	社会的養護の歴史と今日的課題	慈善救済事業の始まり、明治・大正時代、児童福祉法施行、ホスピタリズム論、子どもの権利条約、児童福祉施設最低基準について
5	社会的養護の基本理念と原理	「子どもの最善の利益のために」、「社会全体で子どもを育む」について、「子どもの権利条約」について
6	施設養護の基本原則	基本的人権の尊重と情緒安定性の原理、集団と個の統一的原理、生活支援と学習支援保障の原理、親・家族関係の調整の原理、積極的社会参加促進の原理について
7	施設養護実践における専門性の課題	地域での協働子育てシステムの構築、自立支援計画票、チームケア、第三者評価、苦情解決について、要養護児童の発達課題、トラウマ、PTSD、軽度発達障害について
8	施設養護の実践と方法	施設養護の意義と目的について、「日常生活」や「自立支援」について
9	施設養護の実践と方法	「治療的援助」について、「親子関係・学校・地域との関係調整」について
10	地域の社会的養護機関	地域の相談機関、援助機関について、児童相談所の機能等について
11	次世代育成支援と地域の子育て支援	エンゼルプラン、新エンゼルプラン、少子化対策プラスワン、次世代育成支援対策推進法、「子ども・子育て新システム」について
12	地域の子育て家庭支援施策	子育て短期支援事業、特別支援教育、認定こども園、総合こども園について
13	施設養護の職員	施設職員に求められる倫理、職員の専門性の課題、専門職に求められる技術、ケースワークについて、施設運営と財政措置
14	児童養護における養育のあり方	子どもの養育論の確立、施設職員に求められる専門性、子どもが求めている大人像について
15	学習のまとめ、筆記テスト	社会的養護の将来像、児童養護施設の将来像と課題について

《学科教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C1011S - 027
担当者氏名	黒崎 令子、諸富 眞知子		
授業方法	実習	単位・必選	5・選択
		開講年次・開講期	1年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

教育実習の授業は、習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟することを目的とします。保育の概要を理解した上で、記録のとり方や指導案の立案並びに子どもとの接し方などを模擬保育、また附属加古川幼稚園見学観察実習を通して、体験的な学びをし、保育技術や実践力を身につけることを目的とします。

《授業の到達目標》

幼稚園教育の基本を知る。
 幼稚園生活における幼児の姿を理解し、保育実践につながるようにする。
 指導計画の意義を理解し、立案できるようにするとともに、保育技術の習得を図る。

《成績評価の方法》

- ・実習における評価 70%
- ・授業中に課す提出物（提出遅れは、減点する）10%
- ・発表内容、模擬保育等への参加と成果 20%

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 2008年
 『幼稚園教育実習』大方美香・滝川光治 他（編）建帛社
 『保育実技』久富陽子（編）萌文書林

《参考図書》

適宜授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

事前指導には、絵本、歌等の教材研究を行い、ファイリングすること。子どもの発達について知識を深め、子ども理解と保育者の援助につなげること。

《備考》

実習スケジュールについては初回オリエンテーション時に配布します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事前指導	教育実習に係る事前指導 1 教育実習の意義と課題
2	事前指導	教育実習に係る事前指導 2 教育実習の意義と課題
3	事前指導	教育実習に係る事前指導 3 教材研究－絵本・歌等
4	事前指導	教育実習に係る事前指導 4 教材研究－遊び・制作教材
5	事前指導	教育実習に係る事前指導 5 教育課程、保育指導の実際、施設や環境構成についての学び
6	事前指導	教育実習に係る事前指導 6 観察記録の取り方 実習ノート記入の仕方
7	学外実習指導(1年1週間、2年3週間)	学外実習指導
8	学外実習指導(1年1週間、2年3週間)	学外実習指導
9	学外実習指導(1年1週間、2年3週間)	学外実習指導
10	学外実習指導(1年1週間、2年3週間)	学外実習指導
11	事後指導	教育実習に係る事後指導 1 実習の自己評価
12	事後指導	教育実習に係る事後指導 2 グループ討議による反省、評価及び課題の明確化
13	事後指導	教育実習に係る事後指導 3 実習の意義、取り組むべき課題について発表
14	事後指導	教育実習に係る事後指導 4 自己の課題の明確化
15	事後指導	教育実習に係る事後指導 5 個別面談による振り返り

《学科教育科目》

科目名	保育実習 《保育所実習》	科目ナンバリング	C1011S - 028
担当者氏名	石川 恵美、金谷 公子		
授業方法	実習	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	1年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力		

《授業の概要》

保育所の生活に参加し、子どもたちへの理解を深めるとともに、それぞれの施設の機能やそこでの保育士の業務内容等について具体的、体験的に学ぶ。

《授業の到達目標》

1 保育所の役割や機能について具体的に理解する 2. 観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を少しでも深める
 3 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの実状に応じた保育について具体的に学ぶ 4. 保育の記録に基づく省察や自己評価、計画に基づく実践について具体的に学ぶ 5. 保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める

《成績評価の方法》

実習園の評価に、保育実習指導 の受講状況を加味したもの（60%）、実習ノート（40%）。なお保育実習 は保育所10日間、施設10日間の両実習をクリアしないと単位認定されない。

《テキスト》

決まったものではありません。実習の中で自分で探してください。

《参考図書》

各教科や保育実習指導 で使用した教科書、参考文献、配布物等。自分で書き溜めたノート。自分で調べたり、体験したこと。実習先の先生方にも紹介してもらってください。

《授業時間外学習》

積極的に保育現場等を訪問し、子どもとの出会いを経験しておくこと。実習までに少しでも遊びのレポーターを増やしておくこと。実習に入る少し前から、体調管理等実習に臨む気持ちを高めること。実習中はアルバイト禁止です。実習ノートを1日でも溜めると次の日の睡眠が大きく損なわれます。実習ノートは丁寧に書いてください。態度は素直が一番です。

《備考》

実習園にも学校にも、ほう（報告）・れん（連絡）・そう（相談）を忘れないこと。実習内容については、各実習園の指示に従ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	見学観察実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2		詳細は、保育実習実施要項参照
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《学科教育科目》

科目名	保育実習 《施設実習》	科目ナンバリング	C1011S - 028
担当者氏名	小林 洋司、黒澤 祐介、松下 房枝、大西 輝彦、村田 観弥		
授業方法	実習	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	1年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

施設の役割と機能（施設の生活と一日の流れ）。子ども理解（子どもの観察とその記録、個々の状態に応じた援助やかかり）。養護内容・生活環境（子どもの心身の状態に応じた対応、健康管理、安全対策の理解）。計画と記録（支援計画の理解と活用、記録に基づく省察と自己評価）。専門職としての保育士の役割と倫理（保育士の業務内容、職員間の役割分担や連携、保育士の役割と職業倫理）。

《授業の到達目標》

児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について具体的に理解する。観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。既習の教科の内容をを踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

《成績評価の方法》

施設の評価表に基づく評価（60%）、学習成果の表れである実習ノート（40%）

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編、（株）みらい、2013

《参考図書》

『最新保育資料集2013』子どもと保育総合研究所監修、ミネルヴァ書房、2013

《授業時間外学習》

万全の体調で実習に臨めるように、実習10日前から検温し、自己管理する。実習中は慣れない環境と緊張とで著しく体力を損なう可能性が高いので、生活のリズムを整えることに尽力し、実習に集中できるように努める。

《備考》

「保育実習指導」においての諸注意に気を配り、必要に応じて実習事務室等への連絡を行うようにする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	観察参加実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2		「詳細は実習要項参照」
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導 《保育所実習》	科目ナンバリング	C1011S - 029
担当者氏名	石川 恵美、金谷 公子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

保育所の見学観察実習に備え、乳幼児の理解及び、保育所の内容と機能について学び、生きた子ども観・保育観を習得する。また、実習の意義、具体的な内容、方法、心得等を事前に学習し、必要な手続きを行う。実習後、グループディスカッションを行い観察実習の課題達成度を話し合う。

《テキスト》

『保育の学びスタートブック』久富陽子 萌文書林 2012
 『保育所保育指針解説書』フレーベル館 2008

《参考図書》

適宜、講義時に紹介する

《授業の到達目標》

保育所の社会的な役割と機能を学び、一日の保育の流れや設備について理解する。

保育を必要とする子どもと保護者の理解を深め、生きた子ども観と保育観を理解する。

保育士の役割とその内容を理解する。

《授業時間外学習》

居住地近くの保育所（園）を見学させてもらう（外からでも良い）

トライやる・ウィークで保育所（園）を経験した人は、その内容を思い出し実習に生かせるようにする。

家事の手伝いを積極的にする。

《成績評価の方法》

事前指導（30％）事後指導（30％）実技（20％）提出物（20％）保育実習指導（施設）と運動しての総合評価とする。なお、保育実習と同時に成績評価される。実習の取り決めに基づいて出席を原則とする。

《備考》

授業には実習にふさわしい服装と態度で臨むこと。欠席する場合は、必ず実習事務室に連絡を入れ、後日補講を受けること。常に掲示板を確認して行動すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・保育実習とは（実習全体の説明） 保育士資格について
2	保育所の概要と実習の意義	・保育所と幼稚園の違い・公立保育所と私立保育園の違い 実習までにしておくこと 実習先希望調査
3	保育実習の手続き	・実習までにしておくこと 連休中に実習先の決定 私立園は内諾依頼
4	実習保育所希望受付	実習までにしておくこと 個人票記入（写真用意）
5	保育実習指導 1	・保育所の生活（乳児） 実習までにしておくこと 事前訪問について
6	保育実習指導 2	・保育所の生活（幼児1） 実習までにしておくこと 理解しておくこと - 障害児保育
7	保育実習指導 3	・保育所の生活（幼児2） 実習までにしておくこと 理解しておくこと - 保育所最低基準
8	保育実習指導 4	・実習の心構え 実習生として（1）
9	保育実習指導 5	・実習の心構え 実習生として（2） 公立保育所実習先順次発表
10	保育実習指導 6	・実習の心構え 子どもたちとの関わり
11	保育実習指導 7	・実習中に学ぶこと 観察の視点と記録 実習の目標と課題
12	保育実習指導 8	・実習中に学ぶこと 観察の視点と記録 記録の書き方 巡回カード
13	保育実習指導 9	・実習中に学ぶこと 実習中の注意事項 実習までの日程（夏休み中に実習先へ挨拶など）巡回カード回収 細菌検査容器配布
14	保育実習指導 10	見学観察実習を終えての振り返りおよびグループディスカッション
15	保育実習指導 11	見学観察実習の反省および参加指導実習の目標と課題

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導 《施設実習》	科目ナンバリング	C1011S - 029
担当者氏名	小林 洋司、黒澤 祐介、松下 房枝、大西 輝彦、村田 観弥		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

本演習では、保育実習の意義・目的を理解し、児童福祉施設等での実習を円滑に進めるために、授業等で習得した知識・技術を再確認する。実習前には、実習課題を設定し、目的を明らかにして実習にのぞみ、実習後は実習の自己評価、他者評価をもとにして実習報告書を作成する。

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編、(株)みらい、2013

《参考図書》

『最新保育資料集2013』子どもと保育総合研究所監修、ミネルヴァ書房、2013 そのほか実習施設に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

実習施設における子どもの人権と子どもの最善の利益を考える姿勢、個人を尊重する考え方を理解できる。 プライバシーの保護と守秘義務について理解できる。 実習計画書の作成、実習中の観察、日誌等記録の書き方、養護技術を学習し、習得できる。 実習終了後は、実習全体を振り返り、「実習報告書」を作成するとともに新たな課題や学習目標を明確にすることができる。

《授業時間外学習》

実習施設の種別に応じた課題を出します。各自それによって自主学習をしてください。

《成績評価の方法》

事前指導：実習計画書の作成（50%）
 事後指導：報告書の作成（50%）

《備考》

実習のとりきめに基づいて出席を原則とします。やむを得ず欠席をする場合は、事前に実習事務室に連絡をしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	「保育実習」（施設）の内容説明、評価基準・方法、使用テキストと参考書の活用について・予定表の配布 ・個人票の作成 ・安全・疾病予防
2	実習施設の選定	・実習ノートの配布と内容説明 ・実習計画書の作成について ・個人票の作成（清書） ・実習施設種別ごとの「保育実習指導」の予定表配布
3	事前指導1	視聴覚教材による学習 1
4	事前指導2	視聴覚教材による学習 2
5	事前指導3	書籍 専門雑誌による学習
6	事前指導4	実習施設の特徴、具体的実習内容についての学習、実習計画書の書き方と提出方法
7	事前指導5	養護系施設、障害系施設の実際について学ぶ ・実習生に求められること
8	事前指導6	養護系施設、障害系施設の実際について学ぶ ・実習日誌の書き方・記録について
9	事前指導7	施設でのオリエンテーション（4クラス合同）、オリエンテーションの意義と諸注意 ・実習生の立場と心構えについて
10	事前指導8	報告書の書き方と提出方法/実習報告書作成の意味/
11	事前指導9	実習直前指導
12	事後指導1	「実習報告会」の準備・発表内容の作成、確認、実習報告書の作成
13	事後指導2	「実習報告会」の準備・発表内容の作成、確認、実習報告書の作成
14	事後指導3	「実習報告会」・実習施設ごとの報告
15	事後指導4	「実習報告会」・実習施設ごとの報告

《学科教育科目》

科目名	保育の心理学	科目ナンバリング	C1011SG G034
担当者氏名	杉田 律子		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

保育を行う上では子どもの発達を理解することが不可欠である。保育の心理学では、人間の生涯にわたる発達過程の理解を目標とし、誕生から死に至るまでの人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。また、発達のみずきについて理解することも目標とする。

《授業の到達目標》

保育実践に関わる心理学の知識を習得すること。子どもの発達に関わる心理学の基礎的事項を理解すること。子どもが人をはじめとする周囲の環境との相互作用を通して成長していく過程を理解すること。人間の生涯発達の過程と、発達における初期経験の重要性を理解すること。発達障がいについて正しく理解すること。発達観さらには子ども観・保育観を涵養すること。

《成績評価の方法》

第15回目に行う試験の評価70%
 授業中に実施する小テストやレポート課題および授業への取り組みの評価30%

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』厚生労働省編
 他科目で使用しているもので可。

《参考図書》

『シードブック 保育の心理学』本郷一夫(編) 建帛社 2011、『図で理解する発達～新しい発達心理学への招待』川島一夫・渡辺弥生(編著) 福村出版 2010、『よくわかる発達心理学』無藤隆・岡本祐子・大坪治彦(編) ミネルヴァ書房 2004、『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学』岡本依子著 新曜社 2004

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読む、保育に関わる新聞報道に注目するなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深める努力をしてください。
 また、保育所見学やボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に行ってください。
 まずは、自分の言語表現力を高める努力から始めて下さい。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておくこと。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育と心理学	心理学とはどのような学問か、保育における発達の理解の重要性について、そして「保育の心理学」ではどのような内容を学ぶのかについて解説する。
2	発達とは何か	心理学の歴史の流れを理解する。人間が発達するとはどういうことなのか、発達のイメージを明確にする。人間発達の多面性について理解する。
3	発達をささえる遺伝と環境	人間はなぜ発達することができるのかという根本的な問いを設定し、遺伝と環境という2つの観点から発達に影響を与える要因について理解する。
4	さまざまな発達理論	ハヴィガースト、エリクソンなどの発達理論の概要を理解し、各発達段階の課題について理解する。
5	胎生期の発達の特性と発達上の諸問題	胎児期の発達の特徴と発達上の諸問題について理解する。また、大脳生理の基礎的事項、出生前検診の概要を知り、理解を深める。
6	乳児期の発達の特性と発達上の諸問題	赤ちゃんに生まれつき備わっている様々な特徴と生後1年までの赤ちゃんの発達について学ぶ。
7	乳児期の発達の特性と発達上の諸問題	運動面、情動面、言語面などに焦点を当てて、乳児の発達の特性と発達上の諸問題について学ぶ。
8	幼児期前期の発達の特性と発達上の諸問題	自我の芽生え、自己意識の形成などに焦点を当てて、幼児の発達の特性と発達上の諸問題について学ぶ
9	幼児期後期の発達の特性と発達上の諸問題	認知・思考の発達、社会性の発達などに焦点を当てて、幼児の発達の特性と発達上の諸問題について学ぶ
10	児童期の発達の特性と発達上の諸問題	児童期の発達に関して、仲間関係、学校生活の問題に焦点を当てて児童期の発達の特性について学ぶ
11	青年期の発達の特性と発達上の諸問題	青年期の発達に関して、アイデンティティの確立に焦点を当てて、青年期の発達上の諸問題について学ぶ
12	成人期の発達の特性と発達上の諸問題	成人期の発達に関して、職業人としての社会性の発達について学ぶ。また、親としての成長をテーマにして保護者支援の方向性についても学ぶ。
13	老年期の発達の特性と発達上の諸問題	老年期の発達に関して、定年後の社会や家族との関係に焦点を当てて、心理的諸問題について学ぶ
14	子どもの発達における諸問題	自閉症、ADHDなどの発達障害について、保育者として最低限身につけるべき事柄について学ぶ。
15	学習のまとめ	第1回目から第14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験を行う。試験の解説により理解を深める。

《学科教育科目》

科目名	児童心理学	科目ナンバリング	C1021S 037
担当者氏名	杉田 律子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

幼児期の子どもたちが、大人をはじめとする周囲の環境との関わりの中で、どのように発達していくのかを学ぶ。子どもの成長のプロセスを、人間関係やコミュニケーション、そして認知など様々な側面から学ぶ。

また、養護系の児童福祉施設で生活する子どもたちが抱えやすい諸問題について理解し、心理的アプローチについて理解する。

《授業の到達目標》

子どもの発達について、人間関係や言語そして知力など様々な角度から捉えられるようになること。

子どもの発達にとって、大人をはじめとする周囲の環境との関わりがなぜ重要なのかを理解できること。

特別な支援が必要な子どもたちへの支援の重要性について理解し、基本的な支援について学ぶこと。

《成績評価の方法》

第15回目を行う試験の評価70%

授業中に実施する小テストやレポート課題および授業への取り組みの評価30%

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。プリントをまとめるファイルを用意すること。

《参考図書》

『はじめて学ぶ乳幼児の心理-こころの育ちと発達の支援』桜井茂男(編) 有斐閣 2006 『グラフィック乳幼児心理学』若井邦夫・高橋道子・高橋義信・堀内ゆかり(著) サイエンス社 2006 『シードブック 保育の心理学』本郷一夫(編) 建帛社 2011

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献等を自ら進んで読むことを通じて、授業内容について理解を深めてもらいたい。

また、ボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に行ってください。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておくこと。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童心理学の概要 子どもの発達の特徴	児童心理学の概要について理解する。また、児童心理学を学ぶ意義について、子ども時代の発達の特徴について理解を深める。
2	大脳生理の基礎的事項/ 感覚・知覚・認知	中枢神経系の発達や大脳機能の局在など大脳生理の基礎的事項、また、感覚・知覚・認知の概要について理解する。
3	運動機能の発達	乳幼児期の運動面の発達について理解を深める。運動面に遅れのある子どもへの支援についても考える。
4	情動の発達	乳幼児期の情動の発達について理解を深める。情動面に問題のある子どもへの支援についても考える。愛着とは何か。親子間の愛着形成の重要性について理解を深める
5	社会性の発達	乳児期の社会性の発達、特に愛着について理解を深める。。遊びとは何か。遊びの発達を通して、乳幼児の社会性や認知の発達について理解を深める。
6	言語の発達	言語とは何か。内言語と外言語それぞれの機能について理解を深め、言語の持つ象徴性について理解する。
7	認知・思考の発達 ピアジェの認知発達理論	ピアジェの認知発達理論について学び、認知思考の発達過程について理解を深める。
8	自我の発達	自己統制や自己実現、動機づけの発達について理解を深める
9	人格の発達	養育態度と人格の発達との関連性について理解を深める
10	知能と知能検査	知能の概要と知能検査の概要について知り、その活用する方法について理解を深める。
11	発達障害 発達障害の概要	広汎性発達障害、ADHD、学習障害などの発達障害の概要を理解する。
12	発達障害 発達障害児への支援	発達障害のある子どもへの基本的な支援についても考える。また、保護者に対する対応のあり方について学ぶ。
13	特別な支援が必要な子ども達 問題の概要	外国籍の子どもの問題、社会的貧困、家庭の養育の不良、児童虐待など子どもをめぐる諸問題の概要を理解し、その支援についても考える。
14	特別な支援が必要な子ども達 支援の方法	さまざまな問題を抱える子どもに対する基本的な支援の方法について学ぶ。
15	学習のまとめ	第1回目から第14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験を行う。試験の解説により理解を深める。

《学科教育科目》

科目名	臨床心理学	科目ナンバリング	C1012S - 039
担当者氏名	原 志津		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

臨床心理学は「意味」を考える心理学である。人のこころの研究の創始者であるフロイトは、大人の患者との精神分析治療の中で、人のこころの発達における幼児期の体験を重視した。それ以降の研究者たちは、もっと小さな乳幼児期の母子関係に焦点をあて「関係性」の研究をすすめた。この授業ではこころの研究の歴史を辿り人と人が関わることを意味を学んでほしい。

《テキスト》

保育・教育に生きる臨床心理学
 松島恭子監修・篠田美紀編著
 光生館

《参考図書》

スクールカウンセラーがすすめる112冊の本
 滝口俊子・田中慶江編 創元社

《授業の到達目標》

- ・人の不安の源泉はどこにあるのかを知る。
- ・乳幼児期の子どもこころの発達について知る。
- ・子どもの関係性の発達理論を知り、関わりに活かす。
- ・対人関係上の問題を呈する人々への理解と自己理解を深める。

《授業時間外学習》

テキストをよく読んで、授業にのぞむこと。
 こころを理解するのに役立つ参考文献一覧を授業初回に配布するので、できるだけ多くの本を手にとって、子どもとかかわる現場にでるまでに読んでおいてください。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%
 授業内容の理解70%（まとめ）

《備考》

集中講義で実施する。第5回・第10回・第15回の授業でその日学んだ学習内容のまとめレポートを作成する。配布した資料と授業のポイントを各自ノートにまとめておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業のすすめ方、臨床心理学の基本的な考え方について知る
2	こころについての探求	フロイトの発見したことを知る
3	精神分析	フロイトの精神分析について知る
4	精神分析	フロイトの精神分析の用語を学ぶ
5	まとめ	第4回までの授業のまとめ（筆記試験）
6	こころの世界の研究	乳幼児のこころの世界・・・メラニー・クラインの研究を知る
7	こころの世界の研究	乳幼児のこころの世界・・・マーガレット・マラーの研究を知る
8	こころの世界の研究	乳幼児のこころの世界・・・ウィニコットの研究を知る
9	こころの世界の研究	乳幼児のこころの世界・・・親子関係観察ビデオから学ぶ
10	まとめ	第9回までのまとめ（筆記試験）
11	心理療法について	ユングの心理学について知る
12	心理療法について	箱庭療法を知る
13	心理療法について	来談者中心療法・・・ロジャーズのカウンセリングについて学ぶ
14	カウンセリングのプロセスについて	体験過程とフォーカシングについて・・・セルフカウンセリングを知る
15	まとめ	第14回までのまとめ（筆記試験）

《学科教育科目》

科目名	教師・保育者論	科目ナンバリング	C1012SG G041
担当者氏名	前田 美智代		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

学生がめざす保育者像を明確にし、その実現に必要な学習過程を計画する。また、保育に関する知識を深め、1年生から積み重ねてきた理論や実習からの学びを通して、保育者としての資質の向上を図る。さらに、学生の人生経験を振り返らせ、その結果を今後の進路選択に活用し、自らの望ましい保育者像を構想する。

《テキスト》

『保育者論』榎沢良彦・上垣内伸子編著 同文書院

《参考図書》

『幼稚園教育要領』 文部科学省 『保育所保育指針』 厚生労働省 その他授業中に随時紹介する。

《授業の到達目標》

教職の意義と保育者の役割を理解することができる。
教職（保育）に対する自らの適性を探求し、保育実践者としての意欲を高めることができる。
保育者像を形成することの意義を理解する。

《授業時間外学習》

- (1) 次回の授業範囲を予習しておく。
- (2) 出題課題について調べたり、まとめたりする。
- (3) 授業で学んだことを振り返り、ノート等にまとめる。

《成績評価の方法》

- [1] 授業内討議や発表などへの参加・態度と成果 20%
- [2] レポート課題等の提出物 30%（提出遅れは、減点）
- [3] 筆記試験 50%

《備考》

- ・幼稚園・保育所などに関する情報（特に教職に関すること）を常に意識して、収集しておく。
- ・教科書は必ず持参する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 目指す保育者像	授業の進め方・評価方法などのガイダンス 現時点で考え、目指す保育者像
2	保育するということ	保育者という仕事の特徴を理解し、教職の意義について深く学ぶ。
3	保育者をめざす	何故、保育者をめざしたかを問い直し、各自の努力目標を具現化することにより学びを深める。
4	子どもと生きる保育者の生活	子どもも保育者も主体的に生きる保育の創造について、意見交流を行う。（環境構成・生活のしかた・子ども同士を繋ぐ等々）
5	保育者の専門性	幼稚園における保育者の役割について理解を深める。
6	保育者の専門性	保育者の実践活動を通して、保育者の専門性について深く学ぶ。＜視聴覚教材＞
7	保育者の専門性	保育所における保育者の役割について理解を深める。
8	保育者の専門性	保育士の実践活動を通して、保育士の専門性について深く理解する。＜視聴覚教材＞
9	法と保育者	法的・制度的側面から保育者がどのような存在か、そしてどうあるべきかについて理解し、法律上、制度上の位置づけや意味づけを知る。
10	法と保育者	保育者の研修は、職責遂行のため、保育者の権利と位置づけられていることを理解する。
11	保育の歴史と保育者像	海外で幼稚園や保育所の発展に力を尽くした教育者や保育者の思想と実践について理解する。
12	保育の歴史と保育者像	日本で幼稚園や保育所の発展に力を尽くした教育者や保育者の思想と実践について理解する。
13	保育者への学習課題	討議「保育者の資質」
14	現代社会の課題と保育者	本講義で学んできたことをもとに、子どもと親、園、社会とをつなぐ保育者に求められる役割について論じる。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容と得られた知見とその成果をまとめる。

《学科教育科目》

科目名	保育課程総論	科目ナンバリング	C1011SG G042
担当者氏名	黒崎 令子		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

教育・保育課程の意義を十分に理解し、理論と実践をつなぐことが出来るように、基礎的な知識を習得します。実際の保育を視聴覚機器を通して視聴し、保育に対する基本を理解した上で、子どもの主体性を尊重する指導計画の作成について理解することを目的とします。さらに、保育を巡る今日的課題を新聞やニュースなどから察知し、子どもや保育に関する様々な専門的知識を習得し保育の実践力を養います。

《授業の到達目標》

教育課程・保育課程の全体構造や具体的な編成等を知る。
 保育を巡る諸課題を情報収集し、保育に対する基本を理解した上で、子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する指導計画の作成を考える。
 保育者の専門性を明確にし、保育者の役割と保育の計画性の関係について学ぶ。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討議や発表などへの参加・態度と成果、20%
- (2) レポート課題等の提出物 30% (提出遅れは、減点する)
- (3) 筆記テスト50%

《テキスト》

『教育課程・保育課程論』
 神長美津子、塩谷 香 (編) 光生館 2010

《参考図書》

『幼稚園教育要領』 文部科学省、2008
 『保育所保育指針』 厚生労働省、2008
 『人の教育』
 小原國芳 荘司雅子 (監修) 玉川大学出版部 1976

《授業時間外学習》

- (1) 次回の授業範囲を予習しておくこと。特に教科書をよく読んでおくこと。
- (2) 適宜課題を出すので、その課題について深く考えたり、調べたりしてまとめてきてください。

《備考》

- ・幼稚園・保育所・認定こども園などに関する情報(新聞、ニュースなど)を常に意識して収集しておいてください。
- ・教科書は必ず持参してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション保育とは何か	授業の目的、内容、方法、評価について知る。「保育とは何か」について考え、幼児時代を振り返ることで授業への興味・関心・意欲を持つ。
2	教育課程・保育課程の意義	教育課程や保育課程の編成と、指導計画や保育の展開との関係について説明することができる。
3	幼児期の遊びと学び	なぜ、幼児期の遊びが大切なのかを説明することができる。
4	保育内容の変遷と教育課程	日本の保育の歴史において保育計画の考え方がどのように変遷してきたのか、まとめることができる。
5	幼稚園における教育課程(1)	1956年から2008年までの幼稚園教育要領における教育課程の編成についての考え方を説明することができる。
6	幼稚園における教育課程(2)	幼稚園の教育課程と保育所の保育課程の共通点と相違点について説明ができる。
7	保育所における保育課程	保育所の子どもの1日の生活と幼稚園の子どもと比べ、違うところはどんなことか、また、その違いから、必要な保育上の配慮事項について説明することができる。
8	教育課程・保育課程の編成と実際	さまざまな園の教育課程・保育課程から、それぞれの園の特性がどのように表れているか調べて説明することができる。
9	教育課程・保育課程の実施と指導計画作成(1)	教育課程・保育課程と指導計画の関係について説明することができる。
10	教育課程・保育課程の実施と指導計画作成(2)	長期の指導計画と短期の指導計画の関連について説明することができる。
11	幼稚園における指導計画作成の実際	毎日の「日案」の記録をどのように「週案」に生かしていくかを説明することができる。
12	保育所における指導計画作成の実際	長期の指導計画立案する際に保育所や地域の実態、園の乳幼児の実態をどのような視点で把握したらよいかを考えることができる。
13	保育における評価	保育におけるさまざまな評価について説明ができる。(幼稚園・学校評価、教育課程の評価、日々の保育の評価)
14	教育課程・保育課程の課題と展望	本講義で学んできたことをもとに、自分が考える教育課程・保育課程について論じることができる。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容と得られた知見とその成果を保育実践の場で生かすことができる。

《学科教育科目》

科目名	保育内容総論	科目ナンバリング	C1011S 043
担当者氏名	前田 美智代、青木 好代		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

- ・乳幼児のより良い成長発達を願って幼児理解や発達理解、保育者の援助等について学ぶとともに保育するということの総合的な内容について理解する。
- ・教材演習（手遊びや絵本、折り紙等）を行い、保育技術を培う。

《テキスト》

『保育内容総論』神蔵幸子・宮川萬寿美編著 青踏社

《参考図書》

- 『幼稚園教育要領』文部科学省
- 『保育所保育指針』厚生労働省

《授業の到達目標》

- ・保育をするということの総合的な内容について理解する。
- ・幼児理解や保育者の援助の重要性、遊びの中の学びについて具体的事例や演習を通して理解し、説明することができる。
- ・様々な教材演習をしたり、模擬保育を経験したりして、保育することへの期待感をもつ。

《授業時間外学習》

- ・身近な乳幼児の行動を観察し、親しみの気持ちをもったり、ほほえましさを感じたりする。
- ・授業で学んだことを振り返り、まとめておく。
- ・模擬保育に必要な教材の選択と実施のための練習をする。

《成績評価の方法》

- ・筆記試験 40%
- ・課題レポート 40%
- ・受講態度 20%

《備考》

保育に役立つ演習や講義を中心に進める。受講者の前向きな姿勢で多くを吸収し、保育に活かせることを願う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方と、授業計画及び受講態度について共通理解を図る。
2	保育内容とは	幼稚園教育要領、保育所保育指針における保育内容について理解する。
3	領域と幼児理解	五領域と幼児理解について学ぶ
4	幼児期の遊びと学び	遊びを通して子どもは何を学ぶのか考察する。
5	「命を守る」とは	東日本大震災から学ぶ。
6	子どもの発達と保育	乳幼児の発達の過程について理解を深める
7	子どもの発達と保育	月例・年齢による子どもの発達の姿を知る。
8	子どもの育成と保育者の計画	主体性を持った子どもの育成と保育計画について学ぶ
9	子どもの育成と保育者の計画	具体的に指導案を作成し、計画の重要性を知る。
10	指導計画と実践	作成した指導案に基づいて実践することにより、課題等を見出す。
11	保育の実際	保育園の子どもの様子を知る（視聴覚教材）
12	保育の実際	幼稚園の子どもの様子を知る
13	環境を通して行う保育	環境を通して行う保育とは
14	幼・保・小の交流	交流の成果と課題
15	授業のまとめ	授業の振り返り

《学科教育科目》

科目名	保育内容・人間関係	科目ナンバリング	C1012S 045
担当者氏名	小原 義子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

近年、家庭の子育て力は低下しつつあり、子どもをめぐる様々な問題が起きている。子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培うため、人とのかわりに関する領域「人間関係」を学ぶ事を通して“生きる力の基礎となる 心情 意欲 態度を培う内容を明確にし、目標である自主・自律、及び協同の精神、並びに規範意識（道徳性）等を培うための保育内容を求めていく。

《授業の到達目標》

「他の人々と親しみ、支えあって生活するために自立心を育て人とかわかる力を養う」保育の内容について知る。

《テキスト》

保育所保育指針解説書 幼稚園教育要領解説 幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集 保育所保育指針 幼稚園教育要領

《参考図書》

《授業時間外学習》

今回の授業内容を確認し予習しておくこと。
実習現場における「人間関係」について記録しておくこと。

《成績評価の方法》

筆記試験（60%）
レポート課題提出（40%）

《備考》

受講態度について：保育者は、子どもや保護者のモデルとしての役割を担っている部分が多く、そのため、授業中の学ぶ態度については、規範意識を強く求めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	人間関係の授業の内容を知る 授業の概要、到達目標の理解をする
2	領域「人間関係」の基本理解 "目的と目標"	乳幼児期に育てたい目的・目標と領域「人間関係」との関連について知る
3	領域「人間関係」の基本理解 "ねらい・内容"	領域のねらい及び内容の考え方について知る（幼稚園） 保育の内容よりねらい及び内容について知る（保育所）
4	領域「人間関係」の基本理解 "子どもの発達"	乳幼児期の発達の特性より誕生から始まる人間関係を知る
5	領域「人間関係」の基本理解 "養護の観点より"	養護に関わるねらい及び内容より人間関係を学ぶ 情緒の安定について
6	領域「人間関係」の基本理解 "ねらい"	生きる力の基礎となるねらいについて学ぶ
7	領域「人間関係」の基本理解 "内容"	ねらいを達成するための内容について学ぶ
8	領域「人間関係」の基本理解 "内容"	ねらいを達成するための内容について学ぶ 幼稚園と保育所の共通点や違いについて理解する
9	領域「人間関係」の基本理解 "内容の取り扱い"	ねらいや内容を取り扱うに当たった留意点について学ぶ
10	領域「人間関係」の基本理解 "配慮事項"	保育の実質上の配慮事項について知る（保育所）
11	人とのかわりと保護者支援	保護者支援について知り、信頼関係を築く人間関係について学ぶ
12	道徳性と人間関係	道徳性の芽生えを培う保育について学ぶ 1.道徳性の芽生えを培うための基本的な考え方
13	道徳性と人間関係	道徳性の芽生えを培う保育について学ぶ 2.道徳性の芽生えを培うための指導と指導計画から探る
14	道徳性と人間関係	道徳性の芽生えを培う保育について学ぶ 3.実践事例より探る
15	まとめ 理解度の確認	乳幼児期における人と関わる力を培う保育の内容についてまとめ、理解を深める

《学科教育科目》

科目名	保育内容・言葉	科目ナンバリング	C1012S 047
担当者氏名	石川 恵美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

言葉の機能と、乳幼児の言葉の獲得のプロセスを学ぶ。乳幼児は日常生活の中で、人とかかわりを通して言葉を獲得していく。また、言葉を使ってものを認識し想像力や創造力が育つ。その指導方法について具体的に学ぶ。

《テキスト》

『保育と言葉』 嵯峨野書院 2013
 『幼稚園教育要領解説書』『保育所保育指針解説書』

《参考図書》

適宜、講義時に紹介する。

《授業の到達目標》

乳幼児期の「言葉」の発達を知り、その獲得とプロセスを学ぶ。また、保育者としての援助方法を考える。

《授業時間外学習》

子どもとかかわる機会を作り、乳幼児期の子どもの「言葉」について興味を持ち、「言葉」の発達について理解を深めるように意識する。より多くの絵本に触れ、絵本のレパトリーを増やす。

《成績評価の方法》

筆記試験 50%
 創作絵本 20%
 授業姿勢 30%

《備考》

・授業中の飲食、携帯電話、私語は厳禁
 ・提出期限厳守

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション領域「言葉」のねらいと内容	講義の概要 履修上の注意 授業の進め方 絵本の読み聞かせの意義について
2	保育の基本と保育内容「言葉」	保育内容「言葉」のねらいと内容を理解し、保育者の役割を知る。
3	乳幼児期の言葉の発達	乳児期の「言葉」の発達段階と他者とかかわりを知る。
4	幼児期の言葉の発達	幼児期の「言葉」の発達段階を知り、生活や遊びのなかの「言葉」を理解する。
5	自分の考えや思いを伝えるための言葉	言語的コミュニケーションとしての「言葉」を理解し実践する。
6	体験と言葉	乳幼児期の体験が「言葉」に及ぼす影響を知り、自身の乳幼児期を振り返る。
7	保育内容「言葉」の指導計画と評価	「言葉」に関する指導計画を立て、保育をシミュレーションする。
8	保育内容「言葉」と保育実践(1) 保育所	保育所における「言葉」の具体例を学び、保育者の援助についても理解を深める。
9	保育内容「言葉」と保育実践(2) 幼稚園	幼稚園における「言葉」の具体例から子ども同士の「言葉」のやりとりや保育実践の留意点を学ぶ。
10	発達障害のある子どもに対する「言葉」の支援	発達障害についての理解を深め、特別支援教育について学ぶ。
11	小学校における「言語活動充実」実践	小学校における言語活動について学び、保育所・幼稚園との連携を考える。
12	これからの幼児教育の課題と保育内容「言葉」	保育環境をとりまく現状と今後の課題について考える。
13	創作絵本発表会(1)	自作の創作絵本を学友の前で読み聞かせ、保育実践を行う。
14	創作絵本発表会(2)	自作の創作絵本を学友の前で読み聞かせ、保育実践を行う。
15	まとめ	筆記試験 授業理解の確認。

《学科教育科目》

科目名	保育内容・表現 B	科目ナンバリング	C1012S 049
担当者氏名	谷内 繁子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

感性と表現に関する領域「表現」の造形的分野において、理解を深めていくとともに、豊かで柔軟な感性を磨き、保育の場面での実践力を身につける。また感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、表現する力を養い創造性を豊かにする。

《授業の到達目標》

保育所保育指針、幼稚園教育要領の領域「表現」に示された「ねらい」および「内容」の理解を深める。
 幼児の「表現活動」を総合的に引き出し、柔軟に受け止めることのできる保育者としての感性を養う。
 豊かな造形的表現を引き出すための具体的な教材研究を行う。

《成績評価の方法》

筆記テスト60%
 授業や演習への参加意欲と態度20%
 レポート課題等への提出物20%

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』厚生労働省、フレーベル館、2008
 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館、2008

《参考図書》

『演習保育内容表現』岡健、金澤妙子編著、建帛社、2009
 『保育内容造形表現の探求』黒川健一編著、相川書房、1997
 『保育内容表現』花原幹夫編著、北大路書房、2009
 『保育をひらく造形表現』槇 英子著、萌文書林、2008
 『保育内容表現』森上史朗編著、光生館、2004

《授業時間外学習》

予習の方法
 テキストの指定箇所を読んでください。また、適宜課題を出すので、その課題をやってください。
 復習の方法
 授業内容を再確認し、不明な点は質問するなり自分で調べるなりしてください。

《備考》

授業に関する資料と演習課題は授業時に指示します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	領域「表現」が意味するもの	今回の改訂のポイントを認識した上でねらいと内容を理解する。また、内面的な意味を捉えその子らしさを大切にすると共に表現者として向き合うことの重要性を理解する。
2	造形的な感性と表現の育つ基礎(1)	体験への導入、体験、活動の意味について理解する。 演習「古新聞を使って、ビリビリ破きをすることにより、楽しみと開放感を味わう。」
3	造形的な感性と表現の育つ基礎(2)	探索、見たて補強、創意工夫の段階を経て、イメージが刺激されることを理解する。 演習「牛乳パックを使って、バクバク人形を作る。」
4	造形的な感性と表現の育つ基礎(3)	イメージの蓄積、想像力を発揮、表現する喜びへと発展させていくことの大切さを学ぶ。
5	造形的な感性と表現の育つ基礎(4)	演習「手作り紙芝居をグループ単位で作成し、実演することを通してイメージを形にする課程を認識する。」
6	造形的な感性と表現の育つ基礎(5)	豊かな表現を引き出すために、いかに生活体験や環境や人とのかかわりが大切であるかを理解する。
7	幼児の造形表現へのアプローチ	造形表現の誕生、幼児期とイメージの誕生を発達段階にそって理解する。 創作人形を作り、グループ単位で人形劇を演じる。
8	造形表現の特質と理解	いろいろな作品を通して、子ども自身の言いたい思いや願いがその表現の中に表わされているかどうか探って、幼児画の理解を深める。
9	幼児の造形表現の特性とその援助	発達段階をよく理解した上での対応が大切で、そこでは保育者自身の感性やイメージの豊かさが大きく左右することを認識する。演習「自分の感性やイメージをチェック」
10	造形表現指導の実際(1)	指導計画を作成するにあたり、ねらいや内容が意図的発展的に構成され、系統立てて行わなければならないことを理解する。その上で自由な表現を楽しむ等の方法を探る。
11	造形表現指導の実際(2)	安全保育のため、保育者の心構え、用具使用についての指導原則について理解する。また、危険な用具の使用については、平素より配慮しておく大切さを認識する。
12	造形表現指導の実際(3)	障害をもつ子どもに充実した生活を送ることができる機会を提供するために、主体的な意欲や表現を楽しむ活動が大切なことを理解する。対応や指導のポイントを学ぶ。
13	造形表現指導の実際(4)	園外保育での造形表現指導のあり方を学ぶ。 人権教育の観点から造形表現指導のあり方を学ぶ。
14	造形表現指導の実際(5)	各学期の行事と造形活動の関係性を理解する。 幼児教育と小学校教育の連続性、授業に生きる幼児期の体験の重要性を認識する。
15	学習のまとめ	一年の総まとめの「生活発表会」を通して造形表現指導における計画性と心得を学ぶ。 演習「幼児に人気のスライム作りを体験し、楽しさを味わう。」

《学科教育科目》

科目名	保育方法論	科目ナンバリング	C1012S - 050
担当者氏名	福田 規秀		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

保育のあり方や具体的な課題を、事例等との関連の中でともに考え理解を深めていく。そして子どもたちが充実し、しかもその時期にふさわしい園生活を送れるような保育環境や保育指導の方法について、学生間で意見を出し合い、それを実践に結びつける方策について考察を進めていく。また環境構成については具体的な遊具や視聴覚教材を提示し、その利用法や新たな活用法についても理解を深められるようにする。

《授業の到達目標》

主体的に活動する子どもを援助し、子どもと一緒に保育を創る方法について、いろいろなアイデアが出せる。

過去の知見や現代的な事例に触れながら考察する中で、保育方法についての基本的な考えと自分なりの実践の方法が示せる。

自らの子ども観、保育観を向上させ、実習で得た課題へのヒントを見いだすことが出来る。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等（10％）と筆記試験（90％）の総合評価。課題の提出は期限内でお願いします。

《テキスト》

『幼児教育の方法』小田豊・青田倫子編著(北大路書房 2009)
 『幼稚園教育要領解説』文部科学省(フレーベル館 2008)

《参考図書》

『専門家の知恵』ドナルド・ショーン著 佐藤学・秋田喜代美訳(ゆみる出版 2005), 『マインド・ストーム』シモア・バート著 奥野貴世子訳(未来社 1995), 『幼稚園教育指導資料第3集幼児理解と評価』文部科学省(チャイルド本社 2005), 『幼稚園教育指導資料第4集 一人一人に応じる指導』文部科学省(フレーベル館 2006), その他授業中随時紹介。

《授業時間外学習》

次回講義の予告を出来る限り行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。メモ等に基づき、講義内容を自分なりの方法でノートにまとめておくこと。適宜課題を出すので真面目に取り組んでください(実習で出会った遊具についてのレポート、小さい頃に居心地のよかった場所についてのイメージ表現やメディアを駆使した課題の提出等)。

《備考》

子どもとメディアについて柔軟な思考で対応できること。講義に持参した遊具等は積極的に触ってください。適切な出席・受講態度・事前準備を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業のオリエンテーション、保育方法とは	保育方法といっても特定の方法がある訳ではない
2	環境を通しての保育	豊かな学びを保障する環境構成
3	遊びを通しての保育	遊びをはぐくむ環境
4	幼児の主体的な生活と保育	意図的・計画的な保育
5	保育者の役割	活動の理解者 援助者 モデル
6	遊びから学びを育む保育	感じる 気付く
7	遊びから学びを育む保育	友だちと関わる 共通の課題に向って
8	プロジェクトアプローチとチーム保育	レジャョ・エミリアの実践
9	保育における評価	リフレクション 記録 保育カンファレンス
10	小学校教育との連携	互恵性 継続性
11	家庭や地域との連携	保護者とのパートナーシップ
12	カウンセリングマインド	積極的な関心 傾聴 受容 ケアリング
13	保育に活かす遊具・視聴覚・情報メディア	子どものいうことを聞く遊具
14	保育に活かす遊具・視聴覚・情報メディア	表現の可能性 創造の可能性 コミュニケーションの可能性
15	まとめ	自分の想いの再確認 事例への具体的な対応

《学科教育科目》

科目名	乳児保育 A	科目ナンバリング	C1011S - 052
担当者氏名	石川 恵美		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

保育所・乳児院・家庭保育における「乳児保育」について学ぶ。乳児保育の歴史、現状、課題を知り、保育所の役割及び乳児保育に必要な理論、知識、技術を学ぶ。0、1、2歳児の発達のだすじと保育の方法について学ぶ。

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』フレーベル館 2008

《参考図書》

適宜、講義時に紹介する

《授業の到達目標》

乳児保育の歴史と役割を理解し、乳児保育の今日的な課題を考察する。

0歳児（出生から）2歳児（3歳半頃まで）の子どもの発達を理解する。

乳児保育の保育内容をビデオと演習を通して理解する。

《授業時間外学習》

乳児の発達に基づいた手作りおもちゃを作成する。乳児への読み聞かせのための絵本の選書と読み方の提起。保育所など乳児のいる所に行きできるだけ触れるようにする。

《成績評価の方法》

筆記試験 50%

作品・レポート提出・授業内発表 30%

授業態度 20%

《備考》

- ・授業中の飲食、携帯電話、私語は厳禁
- ・提出期限厳守

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	乳児の概念、乳児保育の概念について ビデオ - 『赤ちゃんからのメッセージ』
2	乳児保育の歴史と現状	女性労働と乳児保育の関わり 乳児保育への期待と課題
3	乳児の発達	新生児から0歳児前半 ビデオ 母子関係の形成と人間らしさの発見
4	乳児の発達	0歳児後半 ビデオ 0歳児の発達のだすじと特徴
5	乳児の発達	1歳児 ビデオ 1歳児の発達のだすじと特徴
6	乳児の発達	2歳児 ビデオ 2歳児の発達のだすじと特徴
7	0歳児の生活と保育者の関わり	食事、排泄、睡眠、衣生活、保健等 ビデオ オムツ交換
8	1、2歳児の生活と保育者の関わり	基本的生活習慣の自立
9	0、1、2歳児のあそびと保育者の関わり	あそびいろいろ
10	あそびの演習	手作りおもちゃの作成
11	あそびの演習	お散歩マップの作成
12	あそびの演習	お散歩マップの作成
13	家庭との連携	保護者への援助、家庭・地域との連携方法
14	乳児と家庭を取り巻く現状	地域の子育て支援を考える
15	まとめ	筆記試験 授業理解の確認

《学科教育科目》

科目名	障害児保育 A	科目ナンバリング	C1012S - 054
担当者氏名	柳田 洋		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

障害を理解すると共に、障害児保育の基本的な理念と実践について学ぶ。

《テキスト》

『新版テキスト障害児保育』白石正久・近藤直子・中村尚子編（全障研出版部）

《参考図書》

『幼児の発達的基础』加藤直樹・中村隆一編（全障研出版部）
 『発達の扉 下 障害児の保育・教育・子育て』白石正久著（かがわ出版）
 『多動症の子どもたち』太田昌孝著（大月書店）
 その他、授業中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

障害の科学的な理解やひとの発達のすじみちを理解することによって、障害がある子どもたちについて理解を深めるとともに、発達を保障していくための保育場面でできる援助について考える。また、健常児との関わりや家庭・社会との連携の大切さについても保育者という実践者の立場から考えていく。

《授業時間外学習》

今回の授業範囲のテキストを読んでおくこと。

《成績評価の方法》

試験（テキスト・ノート等持ち込み可）。
 適宜、レポート等の提出を課す。
 試験（50%）、授業後レポート（50%）で評価する。

《備考》

毎時間、出席表（感想・質問等を記入）の提出をもって出席を確認する。提出物の期限は厳守し、返却されたものについては配付資料等とともにファイルしておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	障害児保育を学ぶために	障害児保育の現状と課題
2	障害児保育のあゆみ	障害児保育と発達保障の歴史
3	障害児保育の前提	保育者に求められること
4	障害児保育の内容と方法	生活の中で信頼感に支えられ、集団の中で育つ
5	障害児保育の目的	人格そのものの豊かな発達を支え導く
6	子どもの発達の道すじ	見通しある保育をするために
7	障害児の保育計画	あそびを軸に日々の保育計画を築く
8	知的障害	障害の理解
9	知的障害	保育上の留意点
10	広汎性発達障害	LD、ADHD、高機能自閉症などの理解
11	広汎性発達障害	保育上の留意点
12	自閉症	障害の理解
13	自閉症	保育上の留意点
14	医療的ケアの必要な子ども	その理解と保育上の留意点
15	家族と共に保育を築く	保護者への支援と支えあう仲間づくり

平成 26（2014）年度入学者

学科教育科目

27年	日		月		火		水		木		金		土		
	5		6		7		8		9	① I期授業開始		10	①	11	
4月	12		13	①	14	①	15	①	16	②		17	②	18	
	19		20	②	21	②	22	②	23	③		24	③	25	
	26		27	③	28	③	29	昭和の日	30	④		1	④	2	
	3	憲法記念日	4	みどりの日	5	こどもの日	6	振替休日	7	③ 水曜日科目授業日		8	⑤	9	④ 月曜日科目授業日
5月	10		11	⑤	12	④	13	④	14	⑤		15	⑥	16	
	17		18	⑥	19	⑤	20	⑤	21	⑥		22	⑦	23	
	24		25	⑦	26	⑥	27	⑥	28	⑦		29	⑧	30	⑦ 水曜日科目授業日
	31		1	⑧	2	⑦	3	⑧	4	⑧		5	⑨	6	⑧ 火曜日科目授業日
6月	7		8	⑨	9	⑨	10	創立記念日	11	⑨		12	⑩	13	
	14		15	保育所参加指導実習 施設参加指導実習	16	保育所参加指導実習 施設参加指導実習	17	保育所参加指導実習 施設参加指導実習	18	保育所参加指導実習 施設参加指導実習		19	保育所参加指導実習 施設参加指導実習	20	保育所参加指導実習 施設参加指導実習
	21		22	保育所参加指導実習 施設参加指導実習	23	保育所参加指導実習 施設参加指導実習	24	保育所参加指導実習 施設参加指導実習	25	保育所参加指導実習 施設参加指導実習		26	保育所参加指導実習 施設参加指導実習	27	保育所参加指導実習 施設参加指導実習
	28		29	⑩	30	⑩	1	⑨	2	⑩		3	⑪	4	
7月	5		6	⑪	7	⑪	8	⑩	9	⑪		10	⑫	11	⑪ 水曜日科目授業日
	12		13	⑫	14	⑫	15	⑫	16	⑫		17	⑬	18	
	19		20	海の日	21	⑬	22	⑬	23	⑬		24	⑬	25	予備日
	26		27	⑭	28	⑭	29	⑭	30	⑭		31	⑭	1	
	2		3	⑮	4	⑮	5	⑮	6	⑮		7	⑮	8	
8月	9		10		11		12		13			14		15	
	16		17		18		19		20			21		22	
	23		24		25		26		27			28		29	
	30		31		1		2		3			4		5	
9月	6		7		8		9		10			11		12	

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

平成27年度(2015年度) 学年暦〔Ⅱ期〕

保育科第一部2年生

27年	日		月		火		水		木		金		土	
9月	6	7			8	9	10		11	①	II期授業開始	12		
	13	14	①		15	16	①		17	①		18	②	19
	20	21		敬老の日	22	国民の休日	23	秋分の日	24	②		25	③	26
	27	28	②		29	②	30	②	1	③		2	④	3
10月	4	5		幼稚園参加指導実習	6	幼稚園参加指導実習	7	幼稚園参加指導実習	8		幼稚園参加指導実習	9		幼稚園参加指導実習
	11	12		体育の日	13	幼稚園参加指導実習	14	幼稚園参加指導実習	15		幼稚園参加指導実習	16		幼稚園参加指導実習
	18	19		幼稚園参加指導実習	20	幼稚園参加指導実習	21	幼稚園参加指導実習	22		幼稚園参加指導実習	23		幼稚園参加指導実習
	25	26	③		27	③	28	③	29	④	月曜日科目授業日	30	⑤	31
11月	1	2	⑤		3	文化の日	4	④	5	④		6	⑥	7
	8	9	⑥		10	⑤	11	⑤	12	⑤	大学祭準備	13		14
	15	16	⑦		17	⑥	18	⑥	19	⑥		20	⑦	21
	22	23		勤労感謝の日	24	⑦	25	⑦	26	⑦		27	⑧	28
12月	29	30	⑧		1	⑧	2	⑧	3	⑧		4	⑨	5
	6	7	⑨		8	⑨	9	⑨	10	⑨		11	⑩	12
	13	14	⑩		15	⑩	16	⑩	17	⑩		18	⑪	19
	20	21	⑪		22	⑪	23	天皇誕生日	24	⑫	月曜日科目授業日	25	⑫	26
12月	27	28			29		30		31			1	元日	2
	3	4			5		6	⑫	7	⑪		8	⑬	9
	10	11		成人の日	12	⑫	13	⑬	14	⑫		15		16
	17	18		センター試験	19	⑬	20	⑭	21	⑬		22	⑭	23
12月	24	25	⑭		26	⑭	27	予備日	28	⑭		29	⑮	30
	31	1	⑮		2	⑮	3	⑮	4	⑮		5		6
	7	8			9		10		11		建国記念の日	12		13
	14	15			16		17		18			19		20
2月	21	22			23		24		25			26		27
	28	29			1		2		3			4		5
	6	7			8		9		10			11		12
	13	14			15		16		17			18		19
3月	20	21		振替休日	22		23		24			25		26
	27	28			29									

※上記日程のほか、休講となった授業を補うために、土曜日等に補講を実施することがある。

カリキュラム年次配当表

保育科第一部 平成26年度（2014年度）入学者対象

授業科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当(数字は週当たり授業時間)				備考	ページ	
				必修	選択			1年		2年				
								I	II	I	II			
学	音楽教育A	C1011SG G001	演習	1				2						
	音楽教育B	C1012S◆○002	演習	1	◆	○			2					
	音楽教育C	C1021S-○003	演習	1		○				2			75	
	音楽教育D	C1022S-○004	演習	1		○					2		76	
	器楽A	C1011S◆●005	演習	1	◆	●		2						
	器楽B	C1012S◆○006	演習	1	◆	○			2					
	造形A	C1011SG G007	演習	1				2						
	造形B	C1012S◆○008	演習	1	◆	○			2					
	幼児体育A	C1011SG G009	演習	1				2						
	幼児体育B	C1012S◆○010	演習	1	◆	○			2					
科	算数		講義	2	◇							不開講		
	生活概論		講義	2	◇							不開講		
	子どもの保健ⅠA	C1011S-●013	講義	2		●		2						
	子どもの保健ⅠB	C1012S-●014	講義	2		●			2					
	子どもの保健Ⅱ	C1021S-●015	演習	1		●				2			77	
	子どもの食と栄養A	C1021S-●016	演習	1		●				2			78	
	子どもの食と栄養B	C1022S-●017	演習	1		●					2		79	
	家庭支援論	C1022S-●018	講義	2		●					2		80	
	社会福祉	C1021SG G019	講義	2						2			81	
	相談援助	C1022S-●020	演習	1		●					2		82~83	
教	児童家庭福祉	C1011S-●021	講義	2		●		2						
	教育原理	C1021SG G022	講義	2						2			84	
	保育原理A	C1011SG G023	講義	2				2						
	保育原理B	C1022S-○024	講義	2		○					2		85	
	社会的養護	C1012S-●025	講義	2		●			2					
	保育相談支援	C1022S-●026	演習	1		●					2		86	
	教育実習	C1011S◆-027	実習	5	◆					5			87	
	保育実習Ⅰ	C1011S-●028	実習	4		●			4					
	保育実習指導Ⅰ	C1011S-●029	演習	2		●			2					
	保育実習Ⅱ	C1021S-○030	実習	2		○					2		88	
育	保育実習指導Ⅱ	C1021S-○031	演習	1		○					1		89	
	保育実習Ⅲ	C1021S-○032	実習	2		○					2		90	
	保育実習指導Ⅲ	C1021S-○033	演習	1		○					1		91	
	保育の心理学Ⅰ	C1011SG G034	講義	2				2						
	保育の心理学Ⅱ	C1021S-●035	演習	1		●				2			92	
	教育心理学	C1021S◆-036	講義	2	◆						2		93	
	児童心理学	C1012S◆○037	講義	2	◆	○			2					
	青年心理学	C1022S-○038	講義	2		○					2		94	
	臨床心理学	C1012S-○039	演習	2		○			2				☆	
	教育制度論	C1021S◆-040	講義	2	◆						2		95	
科	教師・保育者論	C1012SG G041	講義	2					2					
	保育課程総論	C1011SG G042	講義	2				2						
	保育内容総論	C1011S◆●043	演習	1	◆	●		2						
	保育内容・健康	C1021S◆●044	演習	2	◆	●				2		☆	96	
	保育内容・人間関係	C1012S◆●045	演習	2	◆	●			2			☆		
	保育内容・環境	C1021S◆●046	演習	2	◆	●				2		☆	97	
	保育内容・言葉	C1012S◆●047	演習	2	◆	●			2			☆		
	保育内容・表現A	C1021S◆●048	演習	2	◆	●				2		☆	98	
	保育内容・表現B	C1012S◆●049	演習	2	◆	●			2			☆		
	保育方法論	C1012S◆-050	講義	2	◆				2					
目	社会的養護内容	C1021S-●051	演習	1		●				2			99	
	乳児保育A	C1011S-●052	演習	1		●		2						
	乳児保育B	C1022S-●053	演習	1		●					2		100	
	障害児保育A	C1012S-●054	演習	1		●			2					
	障害児保育B	C1022S-●055	演習	1		●					2		101	
	教育相談	C1022S◆○056	講義	2	◆	○					2		102	
	保育・教職実践演習(幼稚園)	C1022S◆●057	演習	2	◆	●					2		☆	103

(注意) ◆印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必須科目を表す。
◇印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。

●印は、保育士資格取得のための必須科目を表す。
○印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。

※備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《学科教育科目》

科目名	音楽教育C	科目ナンバリング	C1021S - 003
担当者氏名	井上 朋子、宋 容希、田村 幸造、津田 安紀子、藤田 浩恵、小林 未季、佐藤 裕子、森本 満穂子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

2クラスが2つに分かれて、集団授業 個人レッスンを90分の中で交互に行います。集団授業では、電子ピアノを使って、スキップやマーチなどのリズム曲、そして情景や動物等のイメージに合った伴奏法の練習をします。個人レッスンでは、実習や就職試験に備えて、演奏力の向上を目指すとともに、レパートリーを増やします。

《テキスト》

【個人レッスン】今までに音楽の授業で使った教材
【集団授業】適宜プリントを配布

《参考図書》

その他、資料等は必要に応じて配布します。

《授業の到達目標》

- マーチやスキップ等のリズム曲を弾くことができる。
- 電子ピアノの機能を生かして、様々な情景や動物等のイメージに合った伴奏を考えたり、弾いたりすることができる。
- 実習や就職試験に備え、自信をもってピアノ演奏や弾き歌いをすることができる。
- ピアノ曲、弾き歌いのレパートリー曲を増やす。

《授業時間外学習》

各自毎日十分な練習を行い、完成度を高くして授業を受けるようにすること。

《成績評価の方法》

実技試験100%

《備考》

保育者として相応しいマナーを身に付けるため、授業を受ける前、受けた後の挨拶を徹底します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の説明、個人レッスンの担当教員との顔合わせ
2	リズム曲 とピアノレッスン	【集団授業】スキップ、マーチ、ギャロップ、走る等のリズム曲 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
3	リズム曲 とピアノレッスン	【集団授業】スキップ、マーチ、ギャロップ、走る等のリズム曲 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
4	リズム曲 とピアノレッスン	【集団授業】スキップ、マーチ、ギャロップ、走る等のリズム曲 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
5	季節の音楽活動 とピアノレッスン	【集団授業】6、7月の季節に合った音楽活動（実習に向けて） 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
6	季節の音楽活動 とピアノレッスン	【集団授業】6、7月の季節に合った音楽活動（実習に向けて） 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
7	伴奏法（生活音）とピアノレッスン	【集団授業】生活音のイメージに合ったピアノ伴奏法 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
8	伴奏法（動物）とピアノレッスン	【集団授業】動物のイメージに合ったピアノ伴奏法 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
9	伴奏法（動物）とピアノレッスン	【集団授業】動物のイメージに合ったピアノ伴奏法 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
10	伴奏法（感情）とピアノレッスン	【集団授業】様々な感情のイメージに合ったピアノ伴奏法 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
11	伴奏法（天気）とピアノレッスン	【集団授業】天気のイメージに合ったピアノ伴奏法 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
12	音・音楽づくり とピアノレッスン	【集団授業】絵本や物語に合う音、音楽を作る 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
13	音・音楽づくり とピアノレッスン	【集団授業】絵本や物語に合う音、音楽を作る 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
14	グループ発表とピアノレッスン	【集団授業】グループ発表 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
15	まとめ、発表	期末発表（ピアノ・弾き歌い）

《学科教育科目》

科目名	音楽教育D	科目ナンバリング	C1022S - 004
担当者氏名	田中 敬子、宋 容希、田村 幸造、津田 安紀子、藤田 浩恵、小林 未季、佐藤 裕子、森本 満穂子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

2クラスが2つに分かれて、集団授業 個人レッスンを90分の中で交互に行います。集団授業では、履修人数を考慮して、ハンドベル、トーンチャイムなどのアンサンブルを行います。また、学生コンサートに向けての合唱練習も行います。個人レッスンではピアノ曲のレパートリーを増やします。また、実習や就職試験に備えて毎週ピアノの個人レッスンを受けます。

《授業の到達目標》

- より表現豊かな歌唱、ピアノ演奏、弾き歌いができるようになる。
- アンサンブルや合唱を体験することにより、人の音を聴く耳が養われ、呼吸を合わすなど協調性が築かれる。
- 実習や就職試験の課題に慌てることなく、十分な準備で本番に臨むことができる。

《成績評価の方法》

実技試験 100%

《テキスト》

【個人レッスン】今までに音楽の授業で使った教材
【集団授業】適宜プリントを配布

《参考図書》

その他、資料等は必要に応じて、担当教員から指示・配布します。

《授業時間外学習》

各自毎日十分な練習を行い、完成度を高くして授業を受けるようにすること。

《備考》

保育者としてのマナーを身に付けるため、授業を受ける前後の挨拶を徹底します。学生コンサートの日程により、アンサンブル、合唱の授業の順番、回数が変更することがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の説明、個人レッスンの担当教員との顔合わせ
2	アンサンブルとピアノ	【集団授業】ハンドベル、トーンチャイムなどのアンサンブル 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、歌のピアノ伴奏など
3	アンサンブルとピアノ	【集団授業】ハンドベル、トーンチャイムなどのアンサンブル 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、歌のピアノ伴奏など
4	アンサンブルとピアノ	【集団授業】ハンドベル、トーンチャイムなどのアンサンブル 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、歌のピアノ伴奏など
5	アンサンブルとピアノ	【集団授業】ハンドベル、トーンチャイムなどのアンサンブル 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、歌のピアノ伴奏など
6	アンサンブルとピアノ	【集団授業】ハンドベル、トーンチャイムなどのアンサンブル 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、歌のピアノ伴奏など
7	アンサンブルとピアノ	【集団授業】ハンドベル、トーンチャイムなどのアンサンブル 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、歌のピアノ伴奏など
8	合唱とピアノ	【集団授業】発声法、合唱など 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、歌のピアノ伴奏など
9	合唱とピアノ	【集団授業】発声法、合唱など 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、歌のピアノ伴奏など
10	合唱とピアノ	【集団授業】発声法、合唱など 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、歌のピアノ伴奏など
11	合唱とピアノ	【集団授業】発声法、合唱など 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、歌のピアノ伴奏など
12	合唱とピアノ	【集団授業】発声法、合唱など 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、歌のピアノ伴奏など
13	アンサンブルまとめとピアノ	【集団授業】ハンドベル、トーンチャイムなどのアンサンブル 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、歌のピアノ伴奏など
14	アンサンブルまとめとピアノ	【集団授業】ハンドベル、トーンチャイムなどのアンサンブル 【個人レッスン】ピアノ曲のレパートリー作り、歌のピアノ伴奏など
15	まとめ、発表	期末発表（ピアノ・弾き歌い）

《学科教育科目》

科目名	子どもの保健	科目ナンバリング	C1021S - 015
担当者氏名	西村 美穂代		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

乳児保育や子どもの保健で学んだ知識を基礎として、子どもの心とからだの健康問題や事故の特徴とその予防について理解し、保育現場において起こりうる様々な状況に対応するのに必要な技術を習得するとともに実践力を養う。さらに地域保健活動等についても理解を深める。

《テキスト》

『子どもの保健演習』 大西文子編集、中山書店 2012

《参考図書》

『小児保健の基礎知識』 巷野悟郎監修、日本小児医事出版社、2005・『小児保健実習ノート』 榊原洋一監修、診断と治療社、2009・『こどもの保健1』 佐藤益子編著、みなみ書房、2011

《授業の到達目標》

- ・子どもの健康状態を把握する観察方法や測定技術を学ぶ。
- ・子どもの心身の健康増進と保育に必要な援助を学ぶ。
- ・子どもの疾病とその予防及び適切な対応について学ぶ。
- ・救急時の対応や事故防止、安全管理について学ぶ。
- ・子どもの心の健康問題や地域保健活動等について理解する。

《授業時間外学習》

この教科は、子どもの保健 A・子どもの保健 Bの総まとめのため、講義ごとのテーマについて、復習をしておくこと。ニュース等で、子どもに関する事故を視聴した場合、あなたがその場に出くわしたとして、どのような応急処置を行うか、をイメージしておく。また、実習時、園児の病気や怪我の時にどのような応急処置をされていたかを想起して、講義に臨むこと。

《成績評価の方法》

- ・講義（実習）に臨む態度（10%）
- ・学期末テスト（90%）

《備考》

実習（講義）に必要な物品を持参しない場合は、実習（講義）を受けることができないため注意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	小児保健を学ぶ意義 援助技術の基本	小児保健を学ぶ目的、保健活動のあらまし、保健活動と保健計画について理解する。 援助技術の基本としてボディメカニクスを理解する。
2	小児の発達・健康観察	子どもの発達段階に応じて、健康状態の観察と記録について理解する。
3	小児の発達・健康観察	子どもの身体発育の特徴、身体測定と評価について理解し、測定方法を演習する。
4	小児の発達・健康観察	子どもの生理機能の特徴、生理機能測定と評価について理解し、測定方法を演習する。
5	小児の健康と養護	子どもの健康増進と保育の環境を理解する。
6	小児の健康と養護	子どもの生活習慣と心身の健康について理解する。
7	小児の健康と養護	衣服の着脱、おむつ交換・沐浴方法等をモデル人形を使用し演習する。
8	小児の疾病と対応	子どもによく起こる症状に対する看護を理解する。薬法や与薬の方法を理解する。
9	小児の疾病と対応	子どもによく起こる病気に対する看護と慢性疾患や障害をもつ子どもの保育について理解する。
10	小児の疾病と対応	感染の予防、子どもに起こりやすい感染症と対処、予防接種、保育環境の保健管理・消毒等について理解する。
11	子どもを取り巻く事故とその対応	園児を取り巻く事故の現状を知り、事故防止のための保育士・幼稚園教諭の役割について理解する。
12	事故と応急手当	ビデオを視聴しながら、子どもの救急処置について理解する。
13	事故と救急処置	ビデオを視聴しながら、子どもの心肺蘇生法を理解し、人形を使用して実際に演習する。
14	救急処置・救急蘇生法	救急処置・心肺蘇生法の実際を人形を使用し演習する。
15	まとめ	1回目～14回目までの学習内容がどこまで理解できているかを確認する。

《学科教育科目》

科目名	子どもの食と栄養 A	科目ナンバリング	C1021S - 016
担当者氏名	藤田 裕子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

保育士として、子どもの食に関する支援をするうえで必要な知識を習得し、実践力につなげていく。小児期の食生活の大切さを理解する。身体に必要な栄養素の働きと、それを含む食品について学ぶ。乳児期・幼児期の食生活の実際を学び、正しい食指導や支援ができる能力を培う。

《授業の到達目標》

食べ物に含まれている栄養素がわかり、その働きが説明できる。
子どもたちの成長発達段階に適した望ましい食生活指導ができる。

《成績評価の方法》

期末試験 60%
レポート・課題提出・受講態度 40%

《テキスト》

「子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養」
堤ちはる・土井正子著 萌文書林

《参考図書》

「食べない子が食べてくれる幼児食」
加藤初枝/井桁容子著 女子栄養大学出版部
「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」
厚生労働省 平成23年3月
「幼児期の保育と食育 保育園・幼稚園での食育のすすめ方」
小川 雄二/須賀 瑞枝著 芽ばえ社

《授業時間外学習》

授業中に予告した内容について教科書をよく読み、内容を把握してこること。

《備考》

学外実習で子どもたちの食環境について学んでください。
また、授業で得た知識を実践に活かすためには、普段の自分の食生活を見直し、積極的に料理に取り組むことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもの心身の健康、および食生活の現状と課題について理解し、健康的な生活習慣の大切さを学ぶ。
2	子どもの発育・発達と食生活	子どもの発育と栄養状態の評価、食べる機能・消化吸収機能の発達、排せつ機能を理解し、幼児にわかりやすく説明できる。
3	栄養に関する基本的知識	食品の分類を楽しい教材の使用により理解する。食べ物の働きを幼児にわかりやすく説明する方法を考える。
4	栄養に関する基本的知識	糖質、脂質、たんぱく質の種類と機能について理解する。
5	栄養に関する基本的知識	ビタミン、ミネラルの種類と機能について理解する。水分の機能についても理解する。
6	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活	育児用ミルクの種類や特徴、冷凍母乳の取り扱いについて理解する。離乳の必要性、離乳食の進め方について理解する。
7	人工乳栄養と離乳	無菌操作法による調乳の実際について学ぶ。
8	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	食物アレルギーのある子どもへの対応について理解する。
9	児童福祉施設における食事と栄養	保育所給食の実際を理解し、保育士としての役割や保育者とのかわりについて学ぶ。
10	児童福祉施設における食事と栄養	児童福祉施設の食事の役割、栄養管理のあり方、食育のあり方について理解する。
11	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の心身の特徴と食生活の関係を理解する。幼児期の食生活の特徴を理解し、食事支援の方法を学ぶ。
12	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の間食の意義と食生活の問題点について理解する。
13	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の食生活上の問題と健康への対応を理解し、指導法を考える。
14	献立作成と調理の基本	食中毒の知識を得る。幼児期に適した調理の基本を理解する。
15	まとめ	これまでの学習内容が十分理解でき、その成果が具体的に説明できる。

《学科教育科目》

科目名	子どもの食と栄養 B	科目ナンバリング	C1022S - 017
担当者氏名	藤田 裕子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

食育の基本と内容について学び、実践力につなげる。食事のバランスについて理解し、自身および幼児の献立作成、調理へとつなげていく。調理保育を理解し実践できるよう、その計画と模擬実習を行う。さらに体調不良時の子どもの食事を理解するほか、障がいのある子どもの特徴や食生活について学ぶ。また、高齢期までのライフステージにおける食生活についても学び、自身や家族の食についても考えを深める。

《授業の到達目標》

食育の計画や内容について説明ができ、幼児にとって、楽しくわかりやすい食育を実践できる。
 子どもの症状に応じた食事の与え方が判断できる。
 障がいのある子どもに合ったペースで支援することができる。
 生涯発達での食生活のあり方について説明できる。

《成績評価の方法》

期末試験 60%
 レポート・課題提出・受講態度 40%

《テキスト》

「子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養」
 堤ちはる/土井正子著 萌文書林

《参考図書》

「幼児期の保育と食育 保育園・幼稚園での食育のすすめ方」
 小川 雄二/須賀 瑞枝著 芽ばえ社
 「食を育む-食育実践ガイドブック」師岡 章監修 ルーベル館
 「食育のアイデア 実践ガイド」吉田 隆子監修 メイト
 「子どもと作る食育レシピ12か月」小西律子著 ファイルド本社

《授業時間外学習》

授業中に予告した内容について教科書をよく読み、内容を把握してこること。

《備考》

子どもたちの食の問題点を思い浮かべながら学びましょう。また、授業で得た知識を実践に活かすためには、普段の自分の食生活を見直し、積極的に料理に取り組むことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	食育の基本と内容	食育基本法について学ぶ。保育所、幼稚園における食育の目標、内容について理解する。
2	食育の基本と内容	食育のための環境、地域の関係機関との連携、食を通じた保護者への支援について理解する。
3	食育の基本と内容	幼稚園参加指導実習での食育内容をクラスで発表し、他園での食育内容の情報を得る。
4	食事摂取基準と献立作成	食事摂取基準とは何か、食事摂取基準はどのように使用すればよいのかを理解する。各栄養素のとり方を理解できる。
5	食事バランスガイド 家庭における食事と栄養	食事バランスガイドについて学ぶ。自分の食事の現状把握と改善箇所をみつけることができる。また乳児期・幼児期の家庭における食事の役割について理解する。
6	献立作成と調理の基本	献立作成の方法、留意点について学び、バランスのとれた献立を作成することができる。
7	献立作成と調理の基本	食品についての知識、表示制度と調理の目的、調理方法について学ぶ。
8	調理保育の模擬実習	園児に楽しく安全に調理を実践させることができるよう、その計画と模擬実習を行い、理解を深める。
9	妊娠期（胎児期）の食生活	妊娠期の母体の変化、胎児の発育、妊娠期の栄養と食生活について理解する。
10	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活	母乳栄養の意義、母乳の成分、母乳の留意点について理解する。
11	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	疾病及び体調不良の子どもへの食事対応を理解する。
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	障がいのある子どもへの食事対応を理解する。
13	学童期・思春期の心身の発達と食生活	学童期・思春期の身体特徴、食生活の特徴、問題点を理解する。学校給食の目標、栄養管理、衛生管理、食に関する指導について理解する。
14	生涯発達と食生活	生涯発達と加齢変化をふまえ、成人期・高齢期の食生活上の問題と健康への対応を理解する。
15	まとめ	これまでの学習内容が十分理解でき、その成果が具体的に説明できる。

《学科教育科目》

科目名	家庭支援論	科目ナンバリング	C1022S - 018
担当者氏名	太田 顕子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

乳幼児期、子どもが適切な環境の中で育っていく上で家庭の役割は非常に大きい。しかし現代においては少子化や核家族化等に伴い育児不安の高まりや教育力の低下が指摘されている。また、それを支える地域の教育力の低下も指摘されている。そのような背景において近年子育て家庭が機能することを支える役割が保育者に求められている。本講義では近年の背景を踏まえた家庭支援の在り方について学ぶ。

《授業の到達目標》

保育者が保育の専門性に基づく固有の理念や方法をもって行う家庭支援の在り方について主体的に考えることができる。
 保育所や幼稚園、福祉機関での事例を検討しながら実践的に学習することにより、保育現場等で起こりうる諸問題に対し、見通しをもつ力を身につける。

《成績評価の方法》

期末試験70%、レポート課題の提出20%（提出遅れについては減点する）、授業への参加態度10%

《テキスト》

『学び、考え、実践料をつける家庭支援論』
 木村志保・津田尚子編、保育出版社、2014

《参考図書》

『よくわかる家庭支援論』橋本真紀・山縣文治編、ミネルヴァ書房
 『発達障害の子どもを育てる家族への支援』
 柘植雅義・井上雅彦編著、金子書房、2010
 『家族心理臨床の実際-保育カウンセリングを中心に』
 上里一郎監修・滝口俊子・東山弘子編、ゆまに書房、2008

《授業時間外学習》

- ・事前学習として教科書の指定箇所を目を通しておくこと。
- ・復習として授業内容を再確認し、不明な点は質問する若しくは調べる等して解決しておくこと。

《備考》

近年保護者や地域社会への適切な援助が保育者の専門性として求められています。「信頼される保育者とは？」という問いをもち授業に臨んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子育て家庭の歴史	何故今家庭支援が求められているのか、その理念と構造、意義について歴史的な背景を知ると共に理解する。
2	家族・家庭の現状	現代社会において家族が抱える問題について、その特性を説明することができる。
3	子どもにとっての家族と家庭	発達に応じた家族の役割について乳幼児期における家族の姿やその問題点について理解説明することができる。
4	子育て家庭支援の必要性	乳幼児期における保育者の役割、姿勢について、保育スキルを用いた現場での事例から考察する。
5	子育て支援の法的な制度	子育て支援に関わる法的な制度、保育サービス等について説明することができる。
6	次世代育成支援施策	子育て支援に関する法的な制度の変遷を知り様々な子育て支援について説明することができる。
7	子育て家庭支援の制度と関係機関	子育て支援に携わる様々な機関の役割と福祉サービスについて説明することができる。
8	子育て家庭支援の方法・やり方	支援を必要とする家庭が抱える問題について、その特性を理解し説明をすることができる。
9	幼稚園保育所における子育て支援DVD視聴	家庭支援の具体的な方法及び保育者の役割について理解する。
10	特別な対応を要する家庭への支援	家庭支援の必要なケースにおける展開過程と評価、終結について理解する。
11	障害のある子どもの家族への支援DVD視聴	障害のある子どもをもつ親への支援の必要性について説明することができる。
12	相談事例の検討	保育現場における相談事例に基づき援助の計画を立てることができる。
13	相談事例の検討	援助計画の評価方法について理解する。
14	相談事例の検討	保育現場における相談事例から、他機関との連携を視野に入れた援助の在り方について計画を立てることができる。
15	これからの保育者の専門性 家庭支援とは	これからの保育者に求められるスキル、固有の理念について今後の展望について説明することができる。

《学科教育科目》

科目名	社会福祉	科目ナンバリング	C1021SG G019
担当者氏名	竹中 祐二		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

社会福祉は、人間の基本的、社会的ニーズを充足し、多様な社会問題を解決するための社会的努力である。本科目では、一人の市民としての関わりを入り口として、ボランティア活動の実践、さらにその先の、専門職としての関わりまでを連続的に捉え、社会福祉が生活上の問題を解決するための単なるサービスではなく、人としての生き方にも深く関わるものであることを実感できることを願っている。

《テキスト》

特に指定しない。
各回の講義でレジュメを配付する。

《参考図書》

山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房（2011）

《授業の到達目標》

- (1) 社会福祉に関する価値観や理念を理解する。
 - (2) 社会福祉における援助技術を理解する。
 - (3) 社会福祉に関する諸制度を理解する。
 - (4) 社会福祉に関わる専門職の役割と課題を理解する。
- 以上のことを通じて、専門職として社会福祉に従事する知識・技術・姿勢を習得する。

《授業時間外学習》

具体的に指定はしないが、講義内容をよく復習し、新聞をはじめとする各種報道に当てはめることにより、理論と実践の両側面から理解を深めることを期待する。

《成績評価の方法》

平常点（20％）、小課題（ミニレポート）（30％）、筆記試験（50％）により評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに：社会福祉の意義・社会福祉を学ぶ意義	一般市民／専門職という二つの立場から社会福祉に関わるという将来像を見据え、多様な視点があることを紹介し、社会福祉を「学ぶ」意義について考える。
2	社会福祉の歴史：近代社会の成立と福祉	社会福祉が制度として確立されていく近代の成り立ちを学び、その根底にある理念を学ぶと共に、社会福祉制度にどう反映されているのか理解する。
3	社会福祉の歴史：社会福祉の現代的展開	社会そのものや社会福祉制度が成熟していくにしたがって、新たに登場した諸問題、その解決に向けて生み出された新たな理念や価値観について学ぶ。
4	社会福祉の歴史：日本における社会福祉の歴史	前2回で学習した内容が、日本社会ではどの様に立ち現れているのかを確認し、日本社会特有の事象や特徴についても学ぶ。
5	社会福祉の援助と方法：制度としての社会福祉	これまでに学習してきた内容を踏まえて、社会において福祉が公的な制度として存在していることの意義について考える。
6	社会福祉の援助と方法：援助者としての関わり	制度としての社会福祉のあり方を学んだ上で、マクロな理念や資源を実践の場面でどの様に活かすのか、姿勢や技術・方法論と共に学ぶ。
7	社会福祉の援助と方法：社会福祉に関わる理念	マクロな制度とミクロな実践という両輪に触れながら、歴史的に大切に積み重ねられてきた社会福祉に関わる理念とその現れ方について学ぶ。
8	社会保障：社会保障制度の概要	生存権をはじめとする根底にある理念を学び、広義／狭義それぞれの社会福祉と比較し、社会保障制度の全体像を把握し、その機能についても学ぶ。
9	社会保障：公的扶助	社会保障制度の内、特に重要となる公的扶助について学ぶ。我が国の公的扶助である生活保護について、理念や現状等について理解する。
10	社会保障：社会保険	社会保険の中でも特に年金制度と健康保険制度について学び、その意義、並びに歴史と現状について理解する。
11	子ども家庭福祉	子ども家庭福祉の制度展開について歴史と現状を学ぶ。また、様々な社会資源や支援の実例についても学ぶと共に、子ども家庭福祉に特徴的な概念や問題についても学ぶ。
12	高齢者福祉	高齢者福祉の制度展開について歴史と現状を学ぶ。また、様々な社会資源や支援の実例についても学ぶと共に、高齢者福祉に特徴的な概念や問題についても学ぶ。
13	障害者福祉	障害者福祉の制度展開について歴史と現状を学ぶ。また、様々な社会資源や支援の実例についても学ぶと共に、障害者福祉に特徴的な概念や問題についても学ぶ。
14	地域福祉	前3回で学習した内容と対比させながら、様々な領域における当事者の地域生活をいかに成り立たせるかという地域福祉のエッセンスについて学ぶ。
15	おわりに：社会福祉実践者としての振り返り	初めに考えた社会福祉を「学ぶ」意義について振り返り、学習内容が一般市民／専門職という二つの立場にどう反映されるのか、整理し直す。

《学科教育科目》

科目名	相談援助	科目ナンバリング	C1022S - 020
担当者氏名	黒澤 祐介		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

相談援助の歴史、理論、実態、方法について総合的に学ぶ。また、保育における相談援助の事例検討やグループワークを行い、専門職として必要な相談援助の知識と技術を身につける。

《テキスト》

特に指定しない。適宜、プリントを配布する

《参考図書》

片山義弘・李木明德編（2014）『新保育ライブラリ 相談援助 [新版]』（北大路書房）

《授業の到達目標》

相談援助の基本的な知識を身につける
 保育場面において相談援助技術がどのように必要とされているか理解できる。
 援助者として必要な実践力を身につける。

《授業時間外学習》

授業で指示する課題をこなして授業に参加すること。また、日ごろから子どもの福祉に関するニュースに積極的に関心を持ち、今日的な課題を知っておくこと。

《成績評価の方法》

筆記試験80%
 授業中のレポート課題20%

《備考》

グループワークを行いながら授業をすすめるので、積極的な姿勢で受講することを期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	今日的な福祉や相談援助とは何かについて概観する。
2	相談援助の価値	相談援助における価値について、社会福祉士の倫理要綱などから知る。
3	相談援助の歴史	社会福祉相談援助の発展過程について、諸外国および日本の歴史を概観する。
4	相談援助の体系	相談援助のモデルと実践展開の要素について学ぶ。
5	相談援助の方法	さまざまなアプローチ方法について学ぶ。
6	社会資源の活用	相談援助におけるコーディネート、ネットワーキングについて学ぶ。
7	相談援助の専門職と保育士	相談援助が行われる機関、施設との協働について学ぶ。
8	自己覚知	相談援助における自己覚知の必要性について演習を通して知る。
9	ケアマネジメント	ケアマネジメントの一連の過程について理解する。
10	保育所における相談援助の実際	保育所における相談援助の事例をもちいて、家庭支援の状況を知る。
11	児童養護施設における相談援助の実際	児童養護施設における相談援助の事例をもちいて、ファミリーソーシャルワークについて理解する。
12	児童発達支援センターにおける相談援助の実際	児童発達支援センターにおける相談援助の事例をもちいて、発達支援における相談援助について理解する。
13	面接技法	面接技法と相談援助におけるコミュニケーションについて、グループワークを通して学ぶ。
14	事例学習	相談援助の今日的な課題と対応について、事例学習から学ぶ。
15	学習のまとめ	相談援助についてのまとめを行い、保育士として必要となる相談援助技法、技術についてまとめる。（筆記試験実施）

《学科教育科目》

科目名	相談援助	科目ナンバリング	C1022S - 020
担当者氏名	丸目 満弓		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

相談援助（ソーシャルワーク）活動は、知識はもちろんのこと、援助者にとって必要となる態度や姿勢を身につけることが大切である。本演習では、講義とロールプレイや個人ワーク及びグループワークなどを取り入れた演習方式を組み合わせ、援助者にとって必要な技能、技術を獲得することをめざす。

《テキスト》

特に指定しない。適宜、プリントを配布する。

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

相談援助の基本的な知識を身につける
 保育場面において相談援助技術がどのように必要とされているか理解できる。
 援助者として必要な実践力を身につける。

《授業時間外学習》

新聞に目を通すなどして、保育や福祉分野で何が起きているのかを把握するよう努めてください。
 そして、日頃から複眼的な視点でものごとを捉える“クセ”をつけて下さい。
 復習がとても大切です。

《成績評価の方法》

筆記試験 80%
 単元ごとに課すレポート 10%
 小テスト 10%

《備考》

授業では受け身ではなく、自分の頭で考え、それを文字や言葉を用いて人に伝えるという作業が要求されます。ぜひ積極的に参加するようにしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	相談援助とはなにか。また保育領域で、今日相談援助に求められていることはなにかについて、概観する。
2	変化する子育て環境と相談援助	今日の子育て環境について考え、どのような相談援助が必要かについて考える。
3	相談援助の体系	相談援助（ソーシャルワーク）の定義について学ぶ。
4	ソーシャルワークの構成要素	ソーシャルワークの構成要素について学ぶ。
5	対人援助の原則	相談援助における対人援助の原則について学ぶ。
6	ソーシャルワーク実践の方法	ソーシャルワーク実践の方法と技術について学ぶ。
7	事例でみるソーシャルワーク実践	ソーシャルワーク実践の方法を事例を通して考える。
8	ソーシャルワークの構成要素展開過程	ソーシャルワーク実践がどのような展開過程で行われるのかを学ぶ。
9	相談援助の専門職と保育士	ソーシャルワーク実践が行われる機関、施設とその担い手について学ぶ。
10	相談援助の技術や技法と自己覚知	自己覚知とその必要性について実践的に学ぶ。
11	相談援助の価値	相談援助の価値観について演習を通して学ぶ。
12	コミュニケーション面接技法	コミュニケーション技法としてのノンバーバルコミュニケーションについて学ぶ。
13	コミュニケーション面接技法	コミュニケーション技法としてのバーバルコミュニケーションについて学ぶ。
14	コミュニケーション面接技法	面接技法について学ぶ。
15	学習のまとめ	相談援助についてのまとめを行い、保育士として必要となる相談援助技法、技術についてまとめる。（筆記試験実施）

《学科教育科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	C1021SG G022
担当者氏名	三浦 摩美		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

人間が成長発達する過程には、必ず「教育」の営みが介在していると言える。この、「教育」という人間の営みについて、できるだけ多角的な観点から理解を深めるようにする。とくに、教育の本質、目的、方法に関し、教育の歴史と現在の取組みの概観を通して、今日の教育とこれからの教育を考える機会になるように努めたい。

《テキスト》

改訂・保育士養成講座編纂委員会/編第9巻『教育原理』

《参考図書》

そのつど紹介する。

《授業の到達目標》

教育の必要性と意義、役割と目的について、学際的・理論的な観点から理解できるようにする。また、教育の歴史と理念、教育の方法と学習形態について、体系的に把握できるようにする。これらについて理解することで、現代教育の問題と課題に関する洞察力をもてるようにしたい。とくに、幼児教育の役割と意義について理解を深めるようにする。

《授業時間外学習》

- ・教科書や配布資料等をよく読み、授業内容の理解が定着するように努める。
- ・現在の教育問題について情報を収集し、自分なりの意見をまとめることができるようにする。

《成績評価の方法》

平常のレポートその他の提出物（30%）、および授業最終日のまとめの課題テスト（70%）で評価する。

《備考》

授業中の私語や携帯の使用は厳禁とする。また、授業最終日のまとめの課題テストには、自筆ノートを仕上げ、よく予習をして臨むようにする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育における教育の意義と役割	保育の理念や目標と教育との関連性について学ぶ。
2	保育の環境・方法における教育の視点	人間にとっての「環境」の意味や環境を通じた教育の意義について学ぶ。また、保育の計画性と教育課程の関連性への理解を通して、意図的教育の意味について考察する。
3	教育の意義と目的	「教育」の字義を通して教育の意義や目的について学ぶ。
4	保育および幼児教育の目的・目標、ねらい	保育指針や幼稚園教育要領、その他の教育法規に定められた教育の目的や目標を通して現在の教育に求められている事柄について学ぶ。
5	教育と人間の文化の関係	人間にとっての文化の意味と役割について学ぶとともに、社会化の過程と学習の関係について理解する。
6	社会化に関わる諸課題	社会化とアイデンティティの形成、子どもの主体性の形成について考察する。
7	教育の基礎的概念と諸理論(1)	西欧における近代教育の樹立について学ぶ。とくに体系的教育学と子どもの発見について理解する。
8	教育の基礎的概念と諸理論(2)	作業教育の歴史と幼稚園の創設について学ぶ。
9	教育の基礎的概念と諸理論(3)	経験主義の教育理論および感覚訓練による教育法の開発について学ぶ。
10	日本の教育理論(1)	江戸時代の教育施設と教育理論について学ぶ。
11	日本の教育理論(2)	明治初期の教育理論について学ぶ。
12	日本の教育理論(3)	大正期・昭和初期の教育理論について学ぶ。
13	学習過程をふまえた教授活動論	教授活動の意義と教授段階説、そして様々な保育形態について学ぶ。
14	現代教育の課題	現代社会の教育問題と課題について考察する。
15	まとめ	学習内容のまとめと課題

《学科教育科目》

科目名	保育原理 B	科目ナンバリング	C1022S - 024
担当者氏名	三浦 摩美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

心の教育の観点から見た保育活動のあり方を考察することで、子ども理解の視点を広げることができるように努める。とくに、幼児期の保育活動のみならず、児童（生徒）の教科外活動を通じた心の教育について知ることにより、広く人間形成と保育活動の関わりを理解できるようにしたい。

《テキスト》

田沼茂起著『心の教育と特別活動』北樹出版2013年

《参考図書》

そのつど紹介する。
適時資料を配布する。

《授業の到達目標》

幼児期からの思考力や判断力、表現力などを育成する基盤づくりに関わる心の教育について、多角的な観点から理解できるようにする。そのために、幼児期以降の心の教育を通じた特別活動やクラスづくりについて学ぶことにより、改めて幼児期の心の教育や保育活動について視野を広げることができるようにする。

《授業時間外学習》

教科書やノート、配付資料をよく読み、授業内容の理解が定着するように努める。また、授業内容で紹介された参考図書や資料を読み、理解を広げることができるように努めてほしい。

《成績評価の方法》

平常の提出物（30%）および授業最終日のまとめの課題テスト（70%）により評価する。

《備考》

授業中の私語や携帯電話・メール等の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心の教育とは何か	人が人を教育することの意味。保育活動のなかの心の教育、学校教育のなかの心の教育の課題について理解する。
2	特別活動を通して見た心の教育	特別活動の教育的な意義と教育活動上の位置づけ。幼児期以降の児童・生徒が特別活動を通してどのように人格形成を目指すかについて学ぶ。
3	望ましい集団活動の展開	個人的な資質の育成、社会的な資質の育成について理解する。
4	望ましい集団活動の展開	自主的・実践的態度の育成、自己を生かす能力の育成について理解する。
5	人間形成のための保育活動の希求	「心即理」の実践哲学としての特別活動への理解を通して、保育活動のなかで自己信頼感を育成する課題について考える。
6	評価と子ども理解	どのような観点から教育評価の考え方がなされているか、考え方とその方法について知る。
7	子どもの全体理解と個別理解	子どもを理解することの意味。子ども理解の視点と原理について学ぶ。
8	実践例と心の耕しということ	小・中学校の学級活動およびキャリア教育の実践例を通してクラスづくりのあり方について学ぶ。内面の耕し、個性の発揮について考察する。
9	学校・園の行事や生活を通じた心の耕し	行事の教育的意義と特質、文化的行事での学校・園生活づくりについて理解する。
10	学校・園の行事や生活を通じた心の耕し	健康安全・体育的行事での学校・園生活づくり、遠足（旅行）・集団宿泊的行事での学校生活づくり、勤労生産・奉仕的行事での学校・園生活づくりについて学ぶ。
11	子ども理解における連携とクレーム問題	学校・園での子ども理解や生徒指導およびクレーム対応にどのような問題や課題があるかについて学ぶ。
12	社会の変化と子どもの問題	子どもの自立をめぐる問題と安全の問題・危機管理についてどのような課題があるかを学ぶ。
13	幼児の内面理解	幼児画に見られる心の育ちについて理解する。
14	幼児の生活経験と内面の育ち	幼児期の体験活動と心の育ちについて理解する。
15	まとめと課題	まとめ課題の作成

《学科教育科目》

科目名	保育相談支援	科目ナンバリング	C1022S - 026
担当者氏名	高見 スマ子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

本授業では「保育指導」業務を支える原理並びに専門技術を学び、実際の活用方法を学習する。保育相談支援の意義と基本、援助技術、展開過程、評価、実施体制等を学び、保育所等児童福祉施設において実践できるよう学習する。

《テキスト》

別途指示

《参考図書》

授業中適宜紹介する。

《授業の到達目標》

保育相談支援の意義と原則、保育相談支援の基本を理解し、主体的に考え、実践できる。
 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解し、保育所等児童福祉施設において保護者支援ができる。

《授業時間外学習》

- ・配布した資料には、きちんと目を通して下さい。
- ・新聞を読みましょう。

《成績評価の方法》

授業中に課すレポートおよび小テスト（20%）
 筆記試験（80%）

《備考》

保育実習での経験を生かされるよう、実習ノート等を活用してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育相談支援の意義と基本的視点 1	保育相談支援とは何か、保育士の業務と相談支援
2	保育相談支援の意義と基本的視点 2	保育相談支援の原理、保育相談支援の構造・展開と相談援助との関係
3	保育相談支援の基本 1	保育相談支援の価値と倫理、信頼関係を築く受容と自己決定の尊重
4	保育相談支援の基本 2	子どもの最善の利益の重視、保護者とともに子どもの成長を喜び合う、保護者の養育力の向上に資する支援、他の社会資源との連携・協力
5	保育相談支援の展開 1	保育を基盤とした保育相談支援、保育相談支援の方法と技術
6	保育相談支援の展開 2	保育相談支援の展開過程、保育相談支援の実施体制
7	環境を通じた保育相談支援 1	環境を通じた保育と保育相談支援、保護者との信頼関係を形成する環境、保護者の日常生活を支える環境
8	環境を通じた保育相談支援 2	保護者の子ども理解を促す環境、家庭の暮らしを支える環境、子どもが育つ環境モデルとしての保育所
9	保育所利用児童の保護者への保育相談支援 1	保育相談支援の実践事例と解説、保育相談支援の場面
10	保育所利用児童の保護者への保育相談支援 2	保育相談支援の手段、保育相談支援の評価、特別な対応を必要とする家庭に対する保育相談支援
11	地域子育て支援における保育相談支援 - 1	保育所における地域子育て支援における保育相談支援、保育相談支援の実践場面
12	地域子育て支援における保育相談支援 - 2	保育所における保育相談支援の手段、保育相談支援の評価
13	児童福祉施設における保育相談支援 1	保育相談支援の特性、保育相談支援の実践内容
14	児童福祉施設における保育相談支援 2	保育相談支援の実践事例と解説、保育相談支援の評価
15	まとめ	演習課題に取り組み、学習内容の成果を確認する。

《学科教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C1011S - 027
担当者氏名	黒崎 令子、金谷 公子		
授業方法	実習	単位・必選	5・選択
		開講年次・開講期	2年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

教育実習の授業は、習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟することを目的とします。保育の概要を理解した上で、記録のとり方や指導案の立案並びに子どもとの接し方などを模擬保育、また附属加古川幼稚園見学観察実習を通して、体験的な学びをし、保育技術や実践力を身につけることを目的とします。

《授業の到達目標》

幼稚園教育の基本を知る。
 幼稚園生活における幼児の姿を理解し、保育実践につながるようにする。
 指導計画の意義を理解し、立案できるようにするとともに、保育技術の習得を図る。

《成績評価の方法》

- ・実習における評価 70%
- ・授業中に課す提出物（提出遅れは、減点する）10%
- ・発表内容、模擬保育等への参加と成果 20%

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 2008年
 『幼稚園教育実習』大方美香・滝川光治 他（編）建帛社
 『保育実技』久富陽子（編）萌文書林

《参考図書》

適宜授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

・適宜課題を出します。その課題に取り組み、期日に提出するようにしてください。

・事前指導には、絵本歌などの教材研究を行い、ファイリングすること。子どもの発達について知識を深め、子ども理解と保育者の援助につなげること

《備考》

実習スケジュールについては初回オリエンテーション時に配布します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事前指導	教育実習に係る事前指導 1 参加指導実習の意義
2	事前指導	教育実習に係る事前指導 参加指導実習の心得
3	事前指導	教育実習に係る事前指導 指導計画、指導の方法、形態について
4	事前指導	教育実習に係る事前指導 指導案立案について 教材研究(絵本・遊び・制作)
5	事前指導	教育実習に係る事前指導 指導案立案について 教材研究(絵本・遊び・制作)
6	事前指導	教育実習に係る事前指導 記録の取り方 目標の明確化
7	学外実習指導(1年、1週間・2年、3週間)	学外実習指導
8	学外実習指導(1年、1週間・2年、3週間)	学外実習指導
9	学外実習指導(1年、1週間・2年、3週間)	学外実習指導
10	学外実習指導(1年、1週間・2年、3週間)	学外実習指導
11	事後指導	教育実習に係る事後指導 参加指導実習の自己評価
12	事後指導	教育実習に係る事後指導 グループ討議による反省、評価及び課題の明確化
13	事後指導	教育実習に係る事後指導 実習の意義、取り組むべき課題について発表
14	事後指導	教育実習に係る事後指導 レーダーチャートなどの方法を用いての振り返り
15	事後指導	教育実習に係る事後指導 個別面談による振り返り

《学科教育科目》

科目名	保育実習 《保育所実習》	科目ナンバリング	C1021S - 030
担当者氏名	石川 恵美、金谷 公子		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

保育所生活に参加し、習得した教科全体の知識や技能を基礎とし、これらを総合的に実践する能力を養うため、子どもに対する理解を通じて保育の理論と実践の関係を学ぶ。

《テキスト》

特になし。実習の中で自分で探すこと。

《参考図書》

各教科や保育実習指導で使用した教科書、参考文献、配布物等。自分で書き溜めたノート。自分で調べたり、体験したこと。実習先でも紹介してもらうこと。

《授業の到達目標》

既習の教科や保育実習での学びを踏まえ、保育所の役割や機能についてさらに理解を深め、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。又、指導計画、実践、観察、記録及び自己評価について実際に取り組み理解を深め、保育士としての自己の課題を明確にする。

《授業時間外学習》

実習でお世話になった保育園の行事などに積極的に参加し、保育園の役割や機能について理解を深めておくこと。ピアノはしっかりと弾けるように練習し、子どもの前であがらないようにしておくこと。あそび等のレパートリーを増やしておくこと。

《成績評価の方法》

実習園の評価に保育実習指導の受講状況を加味したもの(60%)、実習ノート(40%)。なお保育実習は保育所実習2週間をクリアしないと単位認定されない。

《備考》

実習中アルバイトは禁止。健康管理に気をつけること。欠席等は実習園と学校に連絡すること。保育内容については、実習園の指示に従うこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	参加指導実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2		詳細は、保育実習実施要項参照
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導 《保育所実習》	科目ナンバリング	C1021S - 031
担当者氏名	石川 恵美、金谷 公子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

保育所見学観察実習で学んだことを基礎に、保育活動への参加を通して、保育所・保育士の役割について実践的に学ぶ。学内では、保育実習の実践、反省を通して、保育についてより具体的に理解を深める。

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』 フレーベル館
 『これで安心！保育指導案の書き方』 開仁志 北大路書房
 2008

《参考図書》

『保育所実習』 北大路書房（1年次ご購入済）
 その他、適宜講義時に紹介する

《授業の到達目標》

保育活動に参加し実践することで、深く保育士の仕事を理解する。

保育活動の一部を担当し、保育研究をする事で保育計画作成力を身につける。

2年間の実習を通して保育士になることへの方向性を持つ。

《授業時間外学習》

実習 時のノート・プリントをよく読んでおくこと
 実習を振り返り、反省と課題を考えておくこと
 子ども理解（発達など）について復習し、手遊び、読み聞かせなどを実践しておくこと

《成績評価の方法》

事前指導（30％）事後指導（30％）実技（20％）提出物（20％）とする。なお、保育実習 と同時に成績評価される。実習の取り決めに基づいて出席を原則とする。

《備考》

服装・態度も実習に適したものであること。欠席の場合は、必ず実習事務室に連絡し、後日補講を受けること。常に掲示板を確認して行動すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	施設実習反省会	保育所参加指導実習実施願回収個人票回収
2	保育所参加指導実習の意義と手続き	見学観察実習の学びと自己反省 - 実習課題について
3	参加指導実習の心構え	見学観察実習の学びと自己反省 - 実習記録の振り返り 私立園は連休までに挨拶に行く（オリエンテーション）
4	参加指導実習に向けて1	記録の書き方（実習ノート） 公立保育所の実習先を順次発表（オリエンテーション）
5	参加指導実習に向けて2	指導計画、週、日案作成について
6	参加指導実習に向けて3	指導計画、週、日案の作成について
7	参加指導実習に向けて4	研究保育の教材研究 実習保育所における実習計画に基づく 細菌検査実施、細菌容器配布、書類の配布
8	参加指導実習に向けて5	研究保育の教材研究
9	参加指導実習に向けて6	実習に向けての注意事項の確認 書類確認（実習費・領収書・評価表、出席表他）
10	参加指導実習を終えて1	反省会（グループ） 小グループによる反省・討議
11	参加指導実習を終えて2	反省会（全体） グループ討議の発表
12	参加指導実習を終えて3	保育所及び保育をより深く理解する 保育所の歴史と課題（働く女性と保育所）
13	参加指導実習を終えて4	保育所及び保育をより深く理解する 保育所の歴史と課題（子育て支援）
14	参加指導実習を終えて5	望ましい保育者像 実習を通して理想とする保育者像を考える
15	参加指導実習を通して6	望ましい保育者像 現場の保育士の声を聞く

《学科教育科目》

科目名	保育実習 《施設実習》	科目ナンバリング	C1021S - 032
担当者氏名	小林 洋司、黒澤 祐介		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能を学ぶ。施設における支援の実際（受容し、共感する態度 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子どもの理解 個別支援計画の作成と実践 子どもの家庭への支援と対応 多様な専門職との連携 地域社会との連携）について学ぶ。保育士の多様な業務と職業倫理を学ぶ。保育士としての自己の課題を明確化する。

《授業の到達目標》

児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。保育士としての自己の課題を明確化する。

《成績評価の方法》

施設の評価票に基づく評価（60％）、学習成果の表れである実習ノート（40％）

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編、(株)みらい、2013

《参考図書》

『最新保育資料集2013』子どもと保育総合研究所監修、ミネルヴァ書房、2013

《授業時間外学習》

万全の体調で実習に臨めるように、実習10日前から検温し、自己管理する。実習中は慣れない環境と緊張とで著しく体力を損なう可能性が高いので、生活のリズムを整えることに尽力し、実習に集中できるように努める。

《備考》

「保育実習指導」においての諸注意に気を配り、必要に応じて実習事務室等への連絡を行うようにする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	参加（実践）型実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2		「詳細は実習要項参照」
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導 《施設実習》		科目ナンバリング	C1021S - 033
担当者氏名	小林 洋司、黒澤 祐介			
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期 2年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識			

《授業の概要》

社会福祉系の科目で学習した内容や「保育実習」での実習体験を生かして、福祉施設（通園施設、入所施設）での子どもや障害児への援助内容や方法について理解を深め、家族を含めた家庭支援のための知識や技術、判断力を養う。

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編、(株)みらい、2013

《参考図書》

『最新保育資料集2013』子どもと保育総合研究所監修、ミネルヴァ書房、2013 そのほか実習施設に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解ができる。
 子どもの状態に応じた適切な関わりができる。
 保育士の専門性を生かした支援ができる。
 職業倫理を理解し、実践できる。
 事後指導における実習の総括と評価ができる。

《授業時間外学習》

実習施設の種別に応じた課題を出しますので、図書館、インターネット等を活用して情報収集につとめ、まとめるようにしてください。

《成績評価の方法》

事前指導：実習計画書の作成（50％）
 事後指導：報告書の作成（50％）

《備考》

実習のとりきめに基づいて出席を原則とします。やむを得ず欠席をする場合は、実習事務室に連絡をしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	「保育実習」の位置づけ、「保育実習」の目標と内容
2	実習施設の選定 1	対象施設の選定
3	実習施設の選定2	対象施設の選定及び施設における支援の具体的内容
4	事前指導1	事前学習の内容、実習施設の理解
5	事前指導2	保育士と権利保障、実習書類の作成
6	事前指導3	保育とソーシャルワーク
7	事前指導4	保育士と地域社会との関係とかかわり
8	事前指導5	実習計画書の作成
9	事前指導6	実習当日までにやっておくこと
10	事前指導7	実習報告書の書き方・提出の方法について
11	事後指導1	施設保育士と児童福祉施設
12	事後指導2	「保育実習」の評価のまとめ
13	事後指導3	実習報告会の準備
14	事後指導4	実習報告会
15	事後指導5	保育士資格と進路

《学科教育科目》

科目名	保育の心理学	科目ナンバリング	C1021S - 035
担当者氏名	土井 裕貴		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

保育者は、子どもたちを心身ともに発達・成長へと導いていかなければならない。子どもたちの発達・成長を促せる、質の高い保育者となるために、子どもたちの心身の発達過程を正しく理解し、その段階に応じて、どういった関わり方が子どもたちの発達を促せるのかを考える。

《授業の到達目標》

保育実践に関わる心理学の知識を習得すること。子どもの発達に関わる心理学の基礎的事項を理解すること。子どもが人をはじめとする周囲の環境との相互作用を通して成長していく過程を理解すること。人間の生涯発達の過程と、発達における初期経験の重要性を理解すること。発達障がいについて正しく理解すること。発達観、子ども観、保育観を見立てられること。

《成績評価の方法》

第15回目を行う試験の評価70%
 授業中に実施する小テストやレポート課題および授業への取り組みの評価30%

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』厚生労働省編
 他科目で使用しているもので可

《参考図書》

『保育の心理学』清水益治・武藤隆編著 北大路書房
 2011、『シードブック 保育の心理学』本郷一夫
 (編) 建帛社 2011、『発達心理学で読み解く保育エピソード 保育者を目指す学生の学びを通して』若尾 良徳・岡部康成 北樹出版 2010、『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学』岡本依子ら著 新曜社 2004

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読む、保育に関わる報道に注目する、ボランティア活動などを通して、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深める努力をしてください。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得が困難だと心得ておきましょう。単に出席するだけではなく、積極的な授業参加を求めます。現場に必要とされる保育者を志して下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの発達の理解	発達とは何かについて改めて学び、子どもの発達を正確に捉え、その心理面を理解する際の留意点を学ぶ。
2	発達の個人差と評価	発達の個人差に関して、個人間差と個人内差について学ぶとともに、観察技法についても学ぶ。また保育における評価の在り方についても考える。
3	遊びの中にみる1歳児	1歳児の遊びの様子を観察、記録し、その分析を行う中で、子どもの発達過程について理解を深める。
4	遊びの中にみる2歳児	2歳児の遊びの様子を観察、記録し、その分析を行う中で、子どもの発達過程について理解を深める。
5	遊びの中にみる3歳児	3歳児の遊びの様子を観察、記録し、その分析を行う中で、子どもの発達過程について理解を深める。
6	遊びの中にみる4歳児	4歳児の遊びの様子を観察、記録し、その分析を行う中で、子どもの発達過程について理解を深める。
7	遊びの中にみる5歳児	5歳児の遊びの様子を観察、記録し、その分析を行う中で、子どもの発達過程について理解を深める。
8	遊びの中にみる6歳児	6歳児の遊びの様子を観察、記録し、その分析を行う中で、子どもの発達過程について理解を深める。
9	集団保育と発達	集団保育を通して子どもが発達する過程について理解を深める。
10	仲間との関わりと集団保育の意義	社会性の発達に焦点を当てて学ぶ。集団の構造と機能について学び、集団生活の中での経験の重要性を学ぶ。
11	集団保育の形態と発達	集団保育のさまざまな形態について理解し、子どもの心の発達について理解を深める。
12	TEACCHプログラムによる支援方法	TEACCHプログラムの概要を理解し、支援方法について理解を深める。
13	応用行動分析による問題行動の支援方法	応用行動分析(ABA)の概要を理解し、子どもの問題行動への支援方法について理解を深める。
14	就学支援	幼児教育と初等教育との継続性、さらには就業など生涯にわたる支援の継続の重要性について理解する。
15	学習のまとめ	第1回目から第14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験を行う。試験の解説により理解を深める。

《学科教育科目》

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	C1021S - 036
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

人は生まれてからたくさんのことを身につけて発達していく。それを可能にするのが広い意味での教育である。人の人としての発達を支える教育という営みについて、心理学の観点から考える。

《授業の到達目標》

教育心理学の基礎知識を学ぶことにより、教育の対象となる幼児・児童・生徒の発達と学習の過程について理解すること。また、発達障がいをはじめとする障がいを持つ子どもの発達と学習の過程について理解すること。

《成績評価の方法》

筆記試験の評価100%。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。

《参考図書》

『やさしい教育心理学[第3版]』鎌原雅彦・竹綱誠一郎(著) 有斐閣 2012
『絶対役立つ教育心理学 - 実践の理論、理論を实践 - 』藤田哲也(編著) ミネルヴァ書房 2007
『よくわかる発達障害 第2版』小野次郎・上野一彦・藤田継道(編) ミネルヴァ書房 2010

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読むなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深めてもらいたい。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておこう。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育心理学への導入	教育心理学では何を学ぶのか、そして教育心理学を学ぶ意義について説明する。
2	学習の心理学～その1	学習を定義づけたうえで、学習を成立させるメカニズムについて学ぶ。
3	学習の心理学～その2	子どもを褒める、そして子どもを叱るということについて、学習の心理学の視点から考える。
4	学習への動機づけ～その1	動機づけについて、内発的動機づけをキーワードにして学ぶ。
5	学習への動機づけ～その2	学習意欲を高める、あるいは逆に低下させてしまう諸条件について学び、学習意欲を高める方策を探る。
6	記憶の心理学～その1	忘却とそのメカニズム、短期記憶と長期記憶について簡単な記憶実験を交えながら学ぶ。
7	記憶の心理学～その2	効果的な記憶の仕方と子ども時代の記憶の発達について学ぶ。
8	学習の方法と評価	学習指導の諸形態と学習評価のあり方について学ぶ。
9	学級集団の理解	リーダーシップと集団への同調現象について学ぶ。
10	教師のメンタルヘルス	ストレスとバーンアウトについて学び、教師の精神的健康を守るための方策について考える。
11	発達の基礎の理解	発達の規定因としての遺伝要因と環境要因との相互作用について学ぶ。
12	子ども時代の発達の理解～その1	子ども時代の人間関係の発達について学ぶ。
13	子ども時代の発達の理解～その2	子ども時代の知的能力の発達について学ぶ。
14	障がいをかかえる子どもの発達と学習	発達障がいをはじめとする障がいをもつ子どもたちの発達と学習の過程について学ぶ。
15	学習のまとめ	学習内容の理解度を客観的に測定する筆記試験を行う。

《学科教育科目》

科目名	青年心理学	科目ナンバリング	C1022S - 038
担当者氏名	杉田 律子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

子どもから大人への過渡期である青年期の心理の特性を、自我、自己意識の発達や自己形成という観点から理解するとともに、家庭に潜む心の問題、学校や社会への不適応、就職など社会参加を目前にした情緒不安など、青年期に特有な心理的な諸問題について理解し、青年の自立と成長の支援とは何かについて考える。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。プリントをまとめるファイルを用意すること。

《参考図書》

授業中に随時紹介する。

《授業の到達目標》

- ・青年期のさまざまな問題行動の背景にある心理を理解できるようになる。
- ・施設保育者として必要な、青年期の人々に特有な心理的な諸問題について理解できる。
- ・青年期の人々の悩みや問題に向き合うことができる
- ・青年期の人々の悩みや問題について、相談に乗ったり解決への支援ができる。

《授業時間外学習》

授業中に紹介した文献や新聞などを自ら進んで読み、授業内容について理解を深めてもらいたい。また、ボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に持ってください。

《成績評価の方法》

第15回目を行う試験の評価70%
 授業中に実施する小テストやレポート課題および授業への取り組みの評価30%

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておくこと。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	青年心理学への導入	授業の進め方の概要。保育者が青年心理学を学ぶ意義について 青年期の特徴について 青年期の課題について
2	青年期のとらえ方	青年期の特徴について理解を深める 生物学的現象 文化的現象 文化相対主義 通過儀礼
3	青年心理学の研究法	発達心理学の研究手法について理解を深める 横断的研究 縦断的研究 調査法 実験法 テスト法 事例研究法
4	青年期前期の心的特性	青年期前期の心的特性について理解を深める 自我の覚醒 自我の構造と機能 自己概念の形成 内面化
5	青年期前期の心的特性	青年期前期の心的特性について理解を深める 不安定性 第二性徴 思春期発育 生活空間 共有世界と個有世界
6	青年期前期の心的特性	青年期前期の心的特性について理解を深める 自主自律の要求 心理的理由 脱衛星化 関係の再編
7	青年期中期の心的特性	青年期中期の心的特性について理解を深める 自我の高揚 理想主義 価値観 第2の反抗 異議申し立て 英雄的反抗 虚勢的反抗
8	青年期中期の心的特性	青年期中期の心的特性について理解を深める 形式的操作期 感情の論理 理性と感情 アレキシシミア
9	青年期中期の心的特性	青年期中期の心的特性について理解を深める 青少年の病理 反社会的行動 非社会的行動 向社会的行動
10	青年期後期の心的特性	青年期後期の心的特性について理解を深める 自我の拡充 現実との妥協 再衛星化 リーウェイ現象
11	青年期後期の心的特性	青年期後期の心的特性について理解を深める 生活設計の開始 職業観 キャリア意識 キャリア設計 結婚観
12	青年期後期の心的特性	青年期後期の心的特性について理解を深める 社会的人格の形成 エリクソンの斬成説
13	青年期後期の心的特性	青年期後期の心的特性について理解を深める アイデンティティ(自我同一性)の確立と拡散 モラトリアム
14	青年から大人へ	青年期から成人期への移行におけるトピックスについて理解を深める 結婚 家族の形成 社会的責任 人格の変容
15	学習のまとめ	第1回目から第14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験を行う。試験の解説により理解を深める。

《学科教育科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	C1021S - 040
担当者氏名	笹田 哲男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

明治以降の日本教育制度史を学校制度史を中心に学んだのち、現代日本の学校制度、教育行政制度等について検討を加えていく。

《テキスト》

『要説教育制度【三訂版】』森秀夫、学芸図書、2008

《参考図書》

授業中、その都度、紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 近代以降の日本の教育制度史についての知識を獲得する。
- 2 現代日本の学校教育制度、教育行政制度などについての知識を獲得する。
- 3 現代日本の学校教育制度、教育行政制度などの課題について考える力を獲得する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

第15週の授業時間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育制度とは何か	教育制度、公教育、公教育の歴史類型、学校制度、学校制度の類型などについて説明することができる。
2	近代以降の日本教育制度（1）	明治期の学校教育制度、教育行政制度について説明することができる。
3	近代以降の日本教育制度（2）	大正期、昭和(戦前)期の学校教育制度、教育行政制度について説明することができる。
4	近代以降の日本教育制度（3）	昭和(戦後)期の学校教育制度、教育行政制度について説明することができる。
5	現代日本の教育制度（1）	現代日本の保育制度、保育行政について説明できるとともに、その課題について検討することができる。
6	現代日本の教育制度（2）	現代日本の初等教育制度、初等教育行政について説明できるとともに、その課題について検討することができる。
7	現代日本の教育制度（3）	現代日本の中等教育制度、中等教育行政について説明できるとともに、その課題について検討することができる。
8	現代日本の教育制度（4）	現代日本の高等教育制度、高等教育行政について説明できるとともに、その課題について検討することができる。
9	現代日本の教育制度（5）	現代日本の社会教育制度、社会教育行政について説明できるとともに、その課題について検討することができる。
10	現代日本の教育制度（6）	現代日本の教員養成制度について説明できるとともに、その課題について検討することができる。
11	現代日本の教育行財政制度	現代日本の教育行財政制度を体系的に説明できるとともに、その課題について検討することができる。
12	学校、教職員と教育法規（1）	現代日本の学校教育についての関係法規を、体系的に説明することができる。
13	学校、教職員と教育法規（2）	現代日本の教職員についての関係法規を、体系的に説明することができる。
14	海外主要国の学校制度	海外主要国の学校制度を、日本の学校制度と比較しながら考察し、その特質について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

《学科教育科目》

科目名	保育内容・健康	科目ナンバリング	C1021S 044
担当者氏名	三井 圭子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

「健康」は、日々の保育の大半を占める領域であり、子どもの生活そのものである。そのため、乳幼児期における心身の健康に関する内容を十分に理解し、指導のあり方を考える。

《テキスト》

『保育所保育指針』
『幼稚園教育要領』

《参考図書》

資料を配布する。
必要に応じて、参考図書を紹介する。

《授業の到達目標》

- ・領域「健康」の「ねらい」「内容」を理解する。
- ・乳幼児の心身の発育・発達について基礎的知識を身につける。
- ・子どもの健康をめぐる問題を知り、その支援策を探る。
- ・乳幼児の遊びの発達を知り、小型遊具を作製する。
- ・乳幼児の命を守るため、安全指導の重要性を知り、指導法を身につける。

《授業時間外学習》

- ・授業内容を復習し再確認すること。
- ・子どもに関するニュース・記事、「健康」に関するニュース、記事等を記録しておくこと。
- ・自分自身の健康管理に努めること。

《成績評価の方法》

筆記試験（70%）・提出物（20%）・授業態度（10%）で評価する。

《備考》

- ・授業中の私語、携帯電話、飲食は厳禁。
- ・提出物は期限厳守。
- ・制作用具は必ず用意すること（ハサミ、のり、テープ他）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 健康の定義について	・講義の概要、授業のすすめ方、履修上の諸注意。 ・WHOの健康の定義やその他の考え方から、[健康]について考えてみる。
2	領域「健康」について	・保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されている[健康]のねらい・内容を理解する。
3	子どものからだと健康	・乳幼児期の体格の発達や生理機能の特徴を理解する。
4	子どものからだと健康	・運動能力の発達や「動き」の獲得の過程を理解する。
5	子どものからだと健康	・生活習慣の形成を、身体諸機能の発達の面から理解する。
6	子どもの心と健康	・母子相互作用が、心の健康にとっていかに重要かを理解する。
7	子どもの心と健康	・乳幼児の情緒の発達を理解し、さらに運動面との関連を考えてみる。 ・乳幼児の社会性の発達を理解し、さらに運動面との関連を考えてみる。
8	子どもの心と健康	・乳幼児のパーソナリティの発達を理解し、さらに運動面との関連を考えてみる。 ・乳幼児の知的能力の発達を理解し、さらに運動面との関連を考えてみる。
9	子どもの健康をめぐる問題	・子どもの健康をめぐる諸問題を認識し、その対応を探る。 ・食育について理解を深める。
10	子どもの活動と教材と遊具	・いろいろな教材、遊具の遊びを考え工夫し、その効果を知る。
11	子どもの活動と教材、遊具	・いろいろな教材、遊具の遊びを考え工夫し、その効果を知る。 ・安全で楽しい園庭を考える。
12	子どもの活動と指導	・いろいろな教材、遊具の遊びと指導を理解する。 ・安全で楽しい園庭を考える。
13	安全の指導	・子どもの事故の実態を知り、安全教育の重要性を認識する。 ・安全の指導のすすめ方を理解する。・家庭への健康・保健便りを考える。
14	安全の指導	・安全管理について認識を深める。 ・家庭への健康・保健便りを考える
15	まとめ	・授業のふりかえり及び理解度の確認。

《学科教育科目》

科目名	保育内容・環境	科目ナンバリング	C1021S 046
担当者氏名	谷内 繁子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

保育における「環境」とは、日常的に用いられる自然環境だけでなく、ある事物が幼児の遊びや学びにどのような意味を持ち、幼児がそれらを体験することにより、何に気づき経験していくかという視点から幅広い領域を意味する。そのなかで幼児が環境とどのようにかかわっているのか、どのような環境構成や援助が求められているのかなど、具体的に考えていく実践力を身につける。

《授業の到達目標》

保育所保育指針、幼稚園教育要領「環境」に示された「幼児教育（保育）の基本」「ねらい」等を理解する。
 演習を通して、どのような環境構成や援助が求められているのか保育者の役割と援助を理解する。
 身近な環境に積極的に触れ、それらを生活に取り入れていくとする力をつける。

《成績評価の方法》

筆記テスト60%
 授業や演習への参加意欲と態度20%
 レポート課題等への提出物20%

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』厚生労働省、フレーベル館、2008
 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館、2008

《参考図書》

『演習保育内容環境』紫崎正行編著、建帛社、2009
 『新子どもと環境』（理論編）奥井智久編著、三晃書房、2008
 『身近な環境を生かすあそび』八並勝正著、チャイルド社、1992
 『保育内容・環境』小田豊、湯川秀樹編著、北大路書房、2012
 『自然が育む子どもと未来』大沢力編著、フレーベル館、2009

《授業時間外学習》

予習の方法
 テキストの指定箇所を読んでください。また、適宜課題を出すので、その課題をやってください。
 復習の方法
 授業内容を再確認し、不明な点は質問するなり自分で調べるなりしてください。

《備考》

授業に関する資料と演習課題は授業時に指示します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育の基本と保育内容「環境」	環境をとおして行う保育、保育内容の構造と「領域」を理解する。
2	子どもと環境のかかわり(1)	身近な環境の捉え方、身近な自然・生き物とのかかわりについて理解する。
3	子どもと環境のかかわり(2)	物とのかかわり、文字や記号とのかかわり、数量とのかかわりについて理解する。 「子どもを育む保育の環境」DVD第1巻視聴
4	子どもと環境のかかわり(3)	情報や施設とのかかわり、園内外行事とのかかわりについて理解する。 「子どもを育む保育の環境」DVD第2巻視聴
5	園庭の自然や遊具とのかかわり	多様なかかわりを保証、遊びが発展するような保育者の役割と援助について理解する。 演習「子どもの遊びを援助する為のロールプレイを通して援助のあり方を体験する。」
6	室内の遊具・教材・設備とのかかわり	遊びやすい空間づくり、使いこなせる環境づくりについて理解する。
7	飼育・栽培・園外保育	飼育活動、栽培活動、園外保育のあり方について理解する。 演習「子どもが育てやすい栽培物(花・野菜等)を調べ年間スケジュールを立案する。」
8	領域「環境」と指導計画	領域の考え方、生活と計画について理解する。
9	領域「環境」と保育方法	一日の生活時間の構造、自発的活動時間と領域「環境」、設定及び保育者の意図が強い遊びや活動と生活のなかでの配慮について学ぶ。
10	領域「環境」と保育の実際(1)	身の回りの生活環境における配慮について理解する。
11	領域「環境」と保育の実際(2)	思考力の芽生え、好奇心・探究心をもつことについて理解する。
12	領域「環境」と保育の実際(3)	道徳性をはぐくむ保育環境について学ぶ。
13	乳幼児期の安全環境	防災教育の基本、心身の発達と安全能力の形成、安全能力を培う保育、安全環境について理解する。
14	領域「環境」の変遷	幼稚園・保育所創設～戦時下の保育内容、戦後～今日の保育内容について学ぶ。
15	学習のまとめ	保育内容の総合性、魅力ある保育環境づくり、地域資源の活用について理解する。 演習「自身の思い出深い環境から、その体験のもつ意味を探ってみる。」

《学科教育科目》

科目名	保育内容・表現 A	科目ナンバリング	C1021S 048
担当者氏名	井上 眞美子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

感性、身体、運動にかかわる多様な体験をする。

《テキスト》

『表現』 幼児音楽 小林美実監修（保育出版社）

《参考図書》

『手あそび指あそび』 吉本澄子著（玉川大学出版部） 『ドラマによる表現教育』 ブライアン ウェイ著（玉川出版部）

《授業の到達目標》

- ・自分の身体を知ること。「動きの世界」「音の世界」から何かを感じて、身体の諸感覚を目覚めさせる。
- ・音楽と基本ステップの実技研修から、幼児期の年齢別にふさわしい指導方法を主体的に考えていく。

《授業時間外学習》

- ・テキストの指定箇所を読んでおくこと。
- ・ステップに関する専門用語の意味等を理解し、ノートに整理しておくこと。
- ・毎回の実技についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価（30%）、実技テスト（70%）の割合で評価する。

《備考》

感性、身体、運動にかかわる多様な体験をする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	概要の説明	表現内容についての説明、授業の心構え
2	心身の認識を深める	身体部位を認識する動き
3	基本的な運動の理解	基本ステップを中心に動く
4	基本的な運動の発展	基本ステップを中心に動くクリエイティブムーブメント
5	基本的な運動の発展	基本ステップを中心に動くクリエイティブムーブメント
6	まとめ	基本ステップの体得を確認する
7	伝承遊び、集団遊び	身近な遊びから身体表現へ
8	手遊びから表現遊び	手遊びから全身の身体表現へ
9	フォークダンス	各国のフォークダンスを動き理解を深める
10	フォークダンス	各国のフォークダンスを動き理解を深める
11	大好きな歌から表現遊びへ	歌からの表現遊びを考えて動く
12	身近材料から表現遊びへ	縄・フラフープを使って表現遊びへ
13	身近材料から表現遊びへ	縄・フラフープを使って表現遊びへ
14	基本ステップでの作品作り	基本をまとめて作品として構成する
15	発表	全身運動・表現・リズムカルに動くことを確認する

《学科教育科目》

科目名	社会的養護内容	科目ナンバリング	C1021S - 051
担当者氏名	藤本 政則		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

乳児院や児童養護施設等の入所型、生活型児童福祉施設における生活やそこで生活する子どもたちについて正しく理解する。またそのような子どもたちへのケアのあり方についても学び、援助者としての保育士の役割についても理解する。特に近年深刻化する児童虐待問題に関する内容に重点を置きたい。

《テキスト》

なし。レジュメ等の資料を適宜配布する。

《参考図書》

『新保育士養成講座 第5巻 社会的養護』全国社会福祉協議会

《授業の到達目標》

児童養護施設を中心とした子どもたちの生活と援助の実際について理解すると共に、児童福祉施設の住宅支援など新たな機能について視野を広める。

《授業時間外学習》

毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。
授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

《成績評価の方法》

下の2方法にて成績評価を行う。尚、配点の割合は「1」が4割、「2」が6割とする。

1. 授業態度、授業レポート、保育士資格取得に対する意欲や姿勢を評価。
2. 筆記試験（単位取得に必要な知識等を評価）

《備考》

各講義の開始時に出席の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
授業中の飲食、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家庭や社会の役割	今日の子育て家庭をめぐる現状を理解する。
2	社会的養護を必要とする子どもたち	子どもが育つ環境としての社会の現状を理解する。
3	社会的養護を必要とする子どもたち	子どもが育つ環境としての社会の現状を理解する。
4	児童虐待とは	児童虐待の定義や実態を学ぶ。
5	児童虐待とは	児童虐待の発生要因について考える。
6	児童虐待への対応	児童虐待への対応の全体像を理解する。
7	児童虐待への対応	児童虐待への対応における初期対応（発見・通告）を理解する。
8	児童虐待への対応	児童虐待への対応における初期対応（通告・通知）を理解する。
9	児童虐待への対応	児童虐待への対応における児童相談所の役割（調査・診断）を学ぶ。
10	児童虐待への対応	児童虐待への対応における児童相談所の役割（一時保護・施設入所）を学ぶ。
11	虐待を受けた子どもの特徴	虐待を受けた子どもの心理行動的特徴を理解する。
12	虐待を受けた子どもの施設ケア	児童養護施設等における虐待を受けた子どもへの施設ケアのあり方を理解する。
13	虐待を受けた子どもの施設ケア	児童養護施設等における虐待を受けた子どもへの施設ケアの実際を学ぶ。
14	虐待を受けた子どもの施設ケア	虐待を受けた子どもの家族再統合の為の支援や社会的自立支援のあり方について理解する。
15	学習のまとめ	これまでの授業の振り返りを行い、社会的養護の課題について考える。

《学科教育科目》

科目名	乳児保育 B	科目ナンバリング	C1022S - 053
担当者氏名	鈴木 富美子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

- 1、乳児保育 A で学んだ理論・知識を基礎に乳児の発達過程を振り返り確認学習をする。
- 2、保育園（所）、乳児院における保育内容を学び、ベビー人形を用い援助技術の実践を学ぶ。
- 3、乳児への直接的援助と間接援助を学ぶため、様々な保育ニーズの事例検討を行い、幅広い援助技術を学ぶ。

《授業の到達目標》

- ・0～2歳児（3歳中期頃まで）の発達を理解し、適切な援助活動ができるようになる。
- ・事例検討を行い、多様な保育ニーズを知り、幅広い視野を持つことができるようになる。
- ・子どもとおもちゃの関係を理解し、身近な素材を使って発達に応じたおもちゃを作ることができるようになる。

《成績評価の方法》

筆記試験（60％）、課題レポート（20％）、作品・授業態度（20％）

《テキスト》

必要に応じ資料配布

《参考図書》

- 「発達がわかれば子どもが見える」ぎょうせい
- 「乳児保育 演習と講義」金子保著 クオリティケア
- 「見直そう子育て 立て直そう生活リズム」エイゼル研究所
- 「すすくハンドブック」神戸市保健福祉局
- 「乳児の保育新時代」ひとなる書房
- 「乳児の生活と保育」ななみ書房

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定範囲を読んでおく。
- ・配布資料は必ず読み、理解を深める。
- ・課題レポートについては自分の意見が述べられるよう学習をはかる。
- ・製作物は必ず完成させ、作品の提示を行う。

《備考》

- ・皆が気持ちよく学習できるように受講マナーを守る。
- ・身近なおもちゃを製作するので、予定の日には必要なものを持ってくる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・授業の概要と進め方、履修上の諸注意 ・乳児の概念 ビデオ「赤ちゃんからのメッセージ」
2	乳児保育の概念	・乳児保育の概念とその重要性
3	保育の歴史	・保育所保育と幼稚園教育
4	乳児保育と時代の変化	・時代と共に歩んできた乳児保育について
5	発達の姿と保育援助	・0歳児の発達過程と特徴（4ヶ月まで） ・0歳児の保育環境
6	発達の姿と特徴	・ホールディングの意味と方法 ・授乳の仕方、オムツ交換や着衣、応答的關係、離乳
7	発達の姿と保育援助	・1歳児の発達過程と特徴 ・1歳児の保育環境（赤ちゃんのおもちゃ） 愛着の絆について ビデオ
8	発達の姿と特徴	・探索活動の理解と援助 自我の芽生えと好奇心 ・感覚的活動から表象的活動へ移行の援助
9	発達の姿と保育援助	・2歳児（3歳中期頃まで）の発達過程と特徴 ・2歳児の保育環境 自我の芽生えと好奇心
10	保育の計画	・乳児の指導計画
11	家族支援と事例検討	・保護者対応、様々な保育ニーズ・チームワーク
12	発達のつまづきへの対応	・子どもの発達障害へのアプローチやネットワークを考える
13	製作 乳児のおもちゃ	・手袋シアター「三匹のやぎのガラガラドン」
14	製作 乳児のおもちゃ	・製作「アンパンマン」
15	授業の振り返りと理解度の確認	・レポートから見る課題

《学科教育科目》

科目名	障害児保育 B	科目ナンバリング	C1022S - 055
担当者氏名	小林 洋司		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

本授業の目的は、障害児保育の現状と課題等を踏まえながら障害を理解しようとする心構えと、実践的な技能及び認識を高めることをめざして学習することである。

《テキスト》

近藤直子、白石正久、中村直子編『新版テキスト障害児保育』（全障研出版部）、2011

《参考図書》

適宜案内します。

《授業の到達目標》

本授業では、障害という概念について多角的な理解を行うとともに、行政、地域レベルで行われている障害児の支援の在り方を学習することを通して保育者として障害児/者や彼らを取り巻く人々とどのように接し、行動することが必要であるかを理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

障害児者をめぐる課題について情報収集を行うこと。

《成績評価の方法》

試験（50％）と小レポート（50％）で評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、履修上の諸注意
2	障害の概念1	障害とは何か
3	障害の概念2	障害とイメージ
4	障害の概念3	障害と福祉
5	障害児保育の現状と課題1	福祉・教育
6	障害児保育の現状と課題2	保健・医療
7	障害児保育の現状と課題3	障害児保育と専門性
8	障害児の支援1	発達障害と虐待
9	障害児の支援2	ケーススタディ
10	障害児の支援3	ケーススタディ
11	障害児の支援4	ケーススタディ
12	障害児を取り巻く人々の支援1	保護者の支援
13	障害児を取り巻く人々の支援2	きょうだいの支援
14	支援のための環境づくり	障害児が生活しやすい社会づくり
15	学習のまとめ	学習のまとめ

《学科教育科目》

科目名	教育相談	科目ナンバリング	C1022S 056
担当者氏名	大久保 恵		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

- 1.教育相談、カウンセリングの理論、基礎知識を身につける。
- 2.描画など心理検査などを体験して自己理解を深める。
- 3.教育相談現場での実際を通して、実践的な力を養う。

《テキスト》

「エッセンス 学校教育相談心理学」
石川正一郎・藤井泰編著（北大路書房）

《参考図書》

「教師のための教育相談の基礎」久芳美恵子著（三省堂）

《授業の到達目標》

教育相談の基礎的な考え方を習得し、子どもの問題行動への理解を深め、その対応法を学んでいく。

- 1.子どもの問題行動の裏側にあるその心理や発達の問題を理解することができる。
- 2.カウンセリングの技法や心理学の基礎的な知識について説明できる。
- 3.保育現場で生じる子どもの問題行動に対応できる。

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定箇所を読んでおくこと。
- ・授業中に配布するプリントを整理し、よく読んでおくこと。
- ・実習などで出会った子どもたちをよく観察し、授業内容に照らし合わせて、理解と対応を考えること。

《成績評価の方法》

- 1.授業態度（20%）
- 2.レポート課題等の提出物（20%）
- 3.期末試験（60%）

《備考》

講義の開始時に出席を確認します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育相談と自己理解	1.教育現場とは 2.授業のオリエンテーション 3.自己理解のための心理テスト
2	教育相談の実際1	1.不登校とは 2.その対応
3	教育相談の実際2	1.いじめについて 2.非行について
4	パーソナリティとその理解1	1.心の構造 2.自我の防衛機制について 3.心の発達
5	パーソナリティとその理解2	1.教育相談で扱う心の病気とは
6	発達と教育相談	1.子どもの発達（心理検査を通して）
7	発達障害と教育相談	1.発達障害とは 2.広汎性発達障害 3.LD 4.ADH D
8	カウンセリングとは	1.カウンセリングとは 2.カウンセリングマインドについて
9	カウンセリング体験	1.カウンセリングのロールプレイを行います
10	主な心理療法と心理検査	1.主な心理療法について 2.心理検査とは
11	描画体験とその理解	1.描画体験 2.その説明
12	関係機関との連携・協働	1.スクールカウンセラーとは 2.関係機関との連携について
13	問題行動とその対応	1.幼児期、児童期、思春期に生じやすい問題行動をあげ、その具体的な対応方法や関係機関との連携の仕方を学んでいく
14	ケーススタディ	1.具体的な事例を通して、子どもへの理解とその対応を深めていく
15	学習のふり返り	1.学習の習得度について振り返る（テスト）

《学科教育科目》

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）		科目ナンバリング	C1022S 057
担当者氏名	笹田哲男、小泉毅、福田規秀、三浦 美、三井圭子、小林洋司、黒崎令子、石川恵美、杉田律子、金谷公子			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 子どものありのままを受け入れる心 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力			

《授業の概要》

教育委員会や幼稚園・保育所等から講師を招いての講義及びそれを基にした事例研究やグループ討議、実習の振り返り、また模擬保育等を通して、教員（保育者）として必要な知識技能を習得したことの確認を行う。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2008
 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 2008

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

教職課程や保育士養成科目の履修により修得した知識・技能を基に、教員（保育者）としての使命感や責任感、教育的愛情を持つ。

社会性や対人関係能力を身につけ、幼児理解を深めながら保育内容の指導力を向上させる。

教員（保育者）の職務を支障なく実践できる資質能力を獲得する。

《授業時間外学習》

課題に沿ったレポート、指導案の作成、発表（討論での意見、模擬保育など）の準備

《成績評価の方法》

課題（討議レポート、指導案など）50%、発表（討論での意見、模擬保育など）50%

《備考》

幼稚園教諭免許、保育士資格を取得するための「総仕上げの授業」と心得て、積極的に学修することが望まれる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	建学の精神と保育科教育目的の再確認をする。
2	講義（1）	保育者としての成長や保育の課題等についての講義（附属幼稚園からの講師）
3	講義からの学び	第2週の講義内容に関する事例研究、グループ討論をする。学んだことを保育実践に繋げることができる。
4	講義（2）	教職の意義や教員（保育者）の役割、職務内容についての講義（教育委員会からの講師）
5	講義からの学び	第4週の講義内容に関する事例研究、グループ討論をする。学んだことを保育者としてのあり方・生き方に繋げることができる。
6	講義（3）	幼児理解や社会性、対人関係能力、保育内容の指導力についての講義（幼稚園などからの講師）
7	講義からの学び	第6週の講義内容に関する事例研究、グループ討論をする。またロールプレイなどにより学んだことを幼児理解や保育実践に繋げる。
8	模擬保育 1	模擬保育のための指導案を作成する。（グループ別）
9	模擬保育 2	模擬保育のための教材研究と指導案の修正をする。（グループ別）
10	模擬保育 3	模擬保育のための教材研究と指導案の修正をする。（グループ別）
11	模擬保育 4	模擬保育のための教材研究と指導案の修正をする。（グループ別）
12	模擬保育発表（1）	模擬保育に取り組むことで、より実践力を身につけることができる。
13	模擬保育発表（2）	模擬保育に取り組むことで、より実践力を身につけることができる。
14	模擬保育発表（3）	模擬保育に取り組むことで、より実践力を身につけることができる。
15	学修のまとめ	今までの学修を振り返り、自己成長感を確認することができる。

授業科目索引一覧 (50音順)

	授業科目の名称	ページ
<エ>	英語	18～19
<オ>	音楽教育A	39
	音楽教育B	40
	音楽教育C	75
	音楽教育D	76
<カ>	家庭支援論	80
<キ>	器楽A	41
	器楽B	42
	教育原理	84
	教育実習	54, 87
	教育心理学	93
	教育制度論	95
	教育相談	102
	教師・保育者論	62
<ケ>	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)	27
	健康・スポーツ科学Ⅱ(実技)	28～30
	健康・スポーツ科学Ⅲ(実技)	31～33
<コ>	子どもの食と栄養A	78
	子どもの食と栄養B	79
	子どもの保健ⅠA	49
	子どもの保健ⅠB	50
	子どもの保健Ⅱ	77
	コンピュータ演習	20～21
<シ>	ジェンダー論	26
	色彩学	24
	児童家庭福祉	51
	児童心理学	60
	社会的養護	53
	社会的養護内容	99
	社会福祉	81
	宗教と人生	22
	障害児保育A	70
	障害児保育B	101
<セ>	青年心理学	94
<ソ>	造形A	43～44
	造形B	45～46
	相談援助	82～83
<ニ>	日本国憲法	25
	日本語(読解と表現)	17
	乳児保育A	69
	乳児保育B	100
<フ>	文学	23
<ホ>	保育課程総論	63
	保育・教職実践演習(幼稚園)	103
	保育原理A	52
	保育原理B	85
	保育実習Ⅰ	55～56
	保育実習Ⅱ	88
	保育実習Ⅲ	90
	保育実習指導Ⅰ	57～58
	保育実習指導Ⅱ	89
	保育実習指導Ⅲ	91
	保育相談支援	86
	保育内容・環境	97
	保育内容・健康	96
	保育内容・言葉	66
	保育内容総論	64
	保育内容・人間関係	65
	保育内容・表現A	98
	保育内容・表現B	67
	保育の心理学Ⅰ	59
	保育の心理学Ⅱ	92
	保育方法論	68
<ヨ>	幼児体育A	47
	幼児体育B	48
<リ>	臨床心理学	61